

内子町環境報告書 2019

～キラリと光るエコロジータウン内子～

1 発行にあたり

今年度は「平成」から「令和」へと元号が変わり、時代の新たな幕開けを迎える節目の年となりました。「令和」は万葉集の『初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす』から出典されており、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味や、「希望に満ち溢れた時代を切り開いていく」といった意味合いを含んでいるそうです。人々が心を寄せ合い、希望に満ち溢れた時代としていきたい一方で、地球温暖化に伴う気候変動による世界各地への様々な影響・被害は後を絶たず、日本においても、東日本を中心に甚大な被害が発生しました。さらに、年明けからは新型コロナウイルスの猛威にさらされ、世界規模での対応が課せられることになりました。私たちの平穏な暮らしは、安定した地球環境・自然環境の上に成り立っていることを実感させられる今日、見直された環境基本計画をもとに、着実に環境に配慮したまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

令和2年3月

内子町長 稲本 隆 壽

【目次】

1 発行にあたり	
2 環境トピック	
＜自然分野＞	
（1）トンボの里の整備と観察会.....	1
（2）内子の親子たび.....	2
（3）第25回シクロクロス全日本選手権大会内子大会...	2
＜暮らし分野＞	
（4）アースデイ in 内子.....	3
（5）マイバッグキャンペーンとレジ袋の有料化.....	3
（6）ペレットストーブの導入.....	4
（7）第10回緑のカーテンコンテスト.....	4
＜環境教育分野＞	
（8）令和元年度環境子ども会議.....	5
（9）第16回内子発環境会議.....	7
（10）内子保育園エコ活動.....	8
3 内子町環境基本計画	
（1）後期計画の策定について.....	9
（2）5年間の総括と今後の課題・方針のまとめ.....	9
（3）令和元年度目標達成状況.....	26
（4）独自目標と達成度.....	33
4 内子町エコオフィスプラン	
（1）取組内容.....	55
（2）取組結果.....	55
5 内子町環境マネジメントシステム"うちエコ"	
（1）取組内容.....	59
（2）監査結果.....	60
（3）優良部署表彰及び認定事業所.....	71
6 環境データ	
（1）河川・土壌	
（2）ごみ	
（3）再生可能エネルギー	

2 環境トピック

<自然の分野>

(1) トンボの里の整備と観察会

3年目を迎え、最終年度となったこの事業。令和元年度においても、愛媛県の「生物多様性保全・再生モデル地区推進事業（内子地域）」にNPO法人内子未来づくりネットワークが応募し、採択を受け、関係機関とともに事業を実施しました。この事業は、身近な生き物が観察できるビオトープの整備・充実や、地域の次世代を担う子ども達を対象とした自然観察会、地域に生息する生き物調べ等を開催することにより、地域共有の財産である豊かな自然環境を今後も見守り続ける体制づくりを図ろうという目標のもとに行われています。

今年度は、学校区単位での観察会に力を入れ、各学校等の協力のもと、トンボを含めた水生生物等の観察を行いました。呼びかけの結果、ほぼすべての学校区で観察会を実施することができ、また、学校の授業の一環としても実施することができました。学校からは、学校の身近な環境で、専門家を招いての観察会が実施できると好評でした。

今年度の調査においては、大きな発見がありました。近年、地球温暖化の影響を受けてか、南方系のトンボが見られるようになっていましたが、今年はその中の一種であるベニトンボのヤゴが越冬していることを確認しました。喜ぶべきニュースかどうかは悩むところですが、こうした生き物の調査を通じて、私たちの身近な環境の変化を感じとることができます。

さらに、最終年度ということで、これまでの事業内容などをリーフレットとしてまとめ、発行しました。今後はこれをもとに、さらに調査や観察会を重ねながら、内子町の自然環境に目を向ける事業を展開していきたいと考えています。

■観察会



■調査によって確認されたベニトンボのヤゴ



【写真下段右】2月25日に行った五十崎地区にあるプールでの調査では、たくさんのベニトンボのヤゴのほか、シオカラトンボのヤゴやハイイロゲンゴロウ、トビケラ類の幼虫などが見られました。

事業実施者：NPO法人内子未来づくりネットワーク

担当：環境政策室

（２）内子の親子たび

内子町グリーンツーリズム協会が新たに企画した「内子の親子たび」。農業体験だけでなく、内子ならではのレジャー体験を気軽に楽しむことができます。この企画は、内子町の宿泊客から、自分が幼い頃に経験したことを自分の子どもにも経験させたいが、道具などがなく、また経験させる場所もわからない、といった声があり、グリーンツーリズムの宿主がサポートすることで実現させたものです。

「内子の親子たび」は、子ども達の経験が豊かになるだけでなく、親と子がともに成長できる時間となります。危険なことにも遭遇する自然をフィールドとした遊びは、子ども達に単に禁止するだけでは、その成長の機会を奪うことにもつながりかねません。ともに遊び、ともに経験することで、危険に対する対応力を学び、子どもの発達を促すことにもつながります。そしてまた、この「たび」は何も町外の人だけが楽しむものではありません。今後も季節に応じて開催する予定ですので、町内の皆さんにもぜひご参加ください。



カブトムシのワナづくり



バッタ採り



ウナギの仕掛け確認

事業実施者：内子町グリーンツーリズム協会

担当：町並・地域振興課

（３）第25回シクロクロス全日本選手権大会内子大会

小田川リバーサイド・ふれあい事業の一環として実施してきた小田川シクロクロス。今年度は全日本選手権大会がこのシクロクロスの会場を利用して行われることになり、大いに盛り上がりました。

今回のコースを設計した三船雅彦さんによると、豊秋河原に設置された特設コースは、シクロクロスに要求される全ての技術が必要なコースで、世界に通用する非常にハイレベルのものになったとのこと。世界選手権の出場経験のある三船選手のお墨付きをもらったコースで、大会当日の12月7・8日には全国から約230人の選手が集まり、熱戦を繰り広げました。



担当：建設デザイン課

<暮らしの分野>

(4) アースデイ in 内子

現：内子町5R推進委員会の有志らが結成した環境活動推進グループのECO-ZUKI 内子（エコ好き内子）では、環境に配慮した暮らしを学び、実践していこうと活動をしています。

アースデイ（4月22日地球の日）に合わせたこの事業では、今年度は4月20日に行いました。多くの方に参加してもらい、環境のことを楽しく一緒に考える時間にしたいと、内子自治センターを会場に実施。本物の葉っぱに文字を書く“葉書”づくりや、豆腐づくりにマイ箸づくりといった体験のほか、ごみを出さない工夫を施したカフェなどを地元の協力者や店舗とともに準備し、多くの来場者でにぎわいました。

ECO-ZUKI 内子からは、マイバッグキャンペーンを実施したほか、蜜蝋を原料に作ったアロマキャンドルや蜜蝋ラップなどの紹介も行いました。また午後からは、ゼロ・ウェイストアカデミー理事長の坂野晶さんを招いて、講演会を行いました。坂野さんからは「ごみについて話そう」と題して、徳島県上勝町の事例の紹介をはじめ、持続可能な経済や地域活動のあり方などについて、英語を交えてわかりやすく丁寧に講演をしていただきました。



事業実施者：ECO-ZUKI 内子

担当：環境政策室

(5) マイバッグキャンペーンとレジ袋の有料化

ECO-ZUKI 内子は内子町とともに、今年度もマイバッグキャンペーンを実施しました。昨年度に引き続きごみ減量の第一歩として、買い物の際に使われるレジ袋を削減しようと、マイバッグ宣言やアンケートに協力いただいた方に、内子町で作成したオリジナルのマイバッグを割安で提供するものです。内子フレッシュパークからり、小田の郷せせらぎ、フジ内子店、Aコープ小田店といった商店のほか、「うちこ和まつり」において、内子自治センター、五十崎自治センター、小田



自治センターの3か所でもキャンペーンを実施しました。

また、内子フレッシュパークからりでは、町内の事業所に先駆けて7月からレジ袋有料化を実施しました。来年度から全国のスーパーなどを中心に実施が予定されているレジ袋有料化ですが、諸外国に比べるとその値段が安いとも。いずれにしてもマイバッグをきっかけにしながら、一人ひとりの意識が変わり、ごみ減量につながっていくことを期待しています。

担当：環境政策室

（6）ペレットストーブの導入

内子町バイオマスタウン構想のもと、木質バイオマスの普及をめざし、ペレットストーブの導入を進めています。令和元年度に導入したのは、役場本庁舎の3階にある副町長室。職員はもちろんですが、来客対応も多い副町長室に導入されたことで、その宣伝効果は上がるのではないかと期待しています。なおこのストーブは、以前、内子児童館で使用されていたものを移設したものです。



担当：保健福祉課・環境政策室

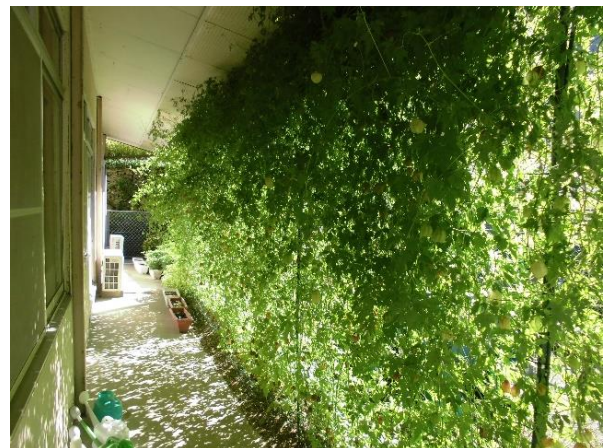
（7）第10回緑のカーテンコンテスト

第10回緑のカーテンコンテストを開催しました。猛暑の影響か、苗は植えたがうまく育たなかった、という声が多く聞かれた今年度の夏、応募総数は5件と大変少ない結果になりました。その中から、最優秀賞1件、優秀賞2件を選出しました。

また、今年も環境NPO サン・ラブに協力頂き、17か所、500株を超える数のグリーンカーテン用の苗を無料配布しました。

●応募期間：7月1日～9月30日

●最優秀賞：石畳へき地保育園



●優秀賞：床屋 一兼



●優秀賞：図書情報館



担当：環境政策室

<環境教育分野>

(8) 令和元年度環境子ども会議

2月12日、五十崎自治センター共生館において、環境子ども会議を開催しました。今年度の講話では、平成30年度に発電を開始した「内子バイオマス発電所」の事例について学び、また11のメニューに分かれて体験学習を行いました。

講話では、内子町森林組合から大鍋直幸さん、内子バイオマス発電所から内藤昌典さんをお迎えして行いました。まず大鍋さんより、内子町の山の現状や元気な木を育てるための事業などを紹介していただき、その後、それらの木を原料とした木質バイオマス発電の取組について、内藤さんより紹介していただきました。

体験学習では、小学生向けには10のメニューを用意しました。昨年に引き続き、ツリークライミングを用意していましたが、あいにくの天候により、室内でミニ盆栽づくりを行いました。し



かしながら、盆栽の土は、選定した枝からつくられた土で、子ども達は自然の循環を学びながら楽しく盆栽づくりに励みました。また、今年度は環境かるたを準備したメニューも登場し、参加した子ども達は、かるたを楽しむと同時に、環境について学ぶことができたとうれしそうでした。

中学生の体験学習では、昨年度に引き続き、えひめ授業の達人認定第1号の村上圭司先生をお招きし、講師を務めていただきました。体験学習を通じて、「真実を見よう」「正しい選択をしよう」とする心を育てることをめざし、昨年と同様に風力発電装置での実験等をする中で意見交換をしながらエネルギー問題について考えました。さらに今回はプラスチック問題についてもスライドで紹介され、普段の生活にかかせないプラスチックについて、ごみとなったその後やゴーストフィッシングという言葉、マイクロプラスチック問題など、子ども達にわかりやすく、心に響く内容で教えていただきました。

会議の最後には、子ども達からの感想発表があり、“きれいな森があるのは当たり前ではなかった”といった感想や、体験学習で作ったマイバッグを見せながら、“これをもって買い物に行く”といった心強い発表がありました。



～環境子ども会議プログラム～

8：45 開会

9：00 講話 「内子町の森林」 内子町森林組合 参事 大鍋直幸さん
「エネルギーシフト（木質バイオマス発電）～愛媛」

内子バイオマス発電所 所長 内藤昌典さん

9：45 休憩

10：00 体験型学習会 ※名称と協力団体

1. 廃食油石鹸作り ……NPO 法人環境 NPO サン・ラブ
2. 廃食油キャンドル作り ……NPO 法人環境 NPO サン・ラブ
3. えひめ AI-1 を使った竹堆肥づくり&ペレットグリル体験
……NPO 法人環境 NPO サン・ラブ、有限会社内藤鋼業
4. 豆腐作り ……程内こんにゃく芋グループ
5. Tシャツマイバッグ作り ……ECO-ZUKI 内子
6. ツリークライミングに挑戦 ……有限会社井口農園
7. やまなみネイチャーランド ……内子町役場小田支所
8. 愛媛アースキッズ探検隊「知って体験、みんなの地球～虹の万華鏡を作って学ぼう、光のチカラ～」 ……愛媛県地球温暖化防止活動推進センター
9. 気にしてみよう、考えてみよう、水について～世界に一つだけの顕微鏡を作って微生物を観察しよう～ ……公益社団法人愛媛県浄化槽協会

10. パソコン解体と環境かるたで遊ぼう！ ……金城産業株式会社
11. 人間の活動と地球環境を考える～風力発電装置を作ろう～（中学生対象）
……講師 今治市立万乃小学校校長 村上圭司さん
協力 NPO 法人内子未来づくりネットワーク

11:20 取組を振り返って

11:30 閉会あいさつ

担当：学校教育課・環境政策室

（９）第16内子発環境会議

第16回目となる内子発環境会議を11月30日に開催しました。今回は、食品ロスをテーマに選択しました。講師には、特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長 鬼沢良子さん、そして、同副事務局長 足立夏子さんをお迎えし、「食品ロス削減～私たちにできること～」を題して講演を行っていただいたほか、「食品ロスを日常から減らす工夫」を考えるため、



グループに分かれてワークショップを行いました。

講演では、消費期限と賞味期限の違いや、日本の食品ロスの現状、そして海外を含めた削減への取組などを教えていただきました。講演の最後には、学習したことを振り返るビンゴゲーム形式のクイズが行われました。習ったばかりの問題ではあるものの、いざ質問されると迷うような問いもあり、参加者は頭をひねらせながら回答していました。

グループワークでは、①買い物の前 ②買い物中 ③買い物の後 ④仲間や地域でできること などについて意見を出し合い、最後にはグループ発表を行いました。発表では、“買い物の前にリストを作る”、“リスト以外の物には目をやらない”、“冷蔵庫などの整理整頓を心がける”など、今日から実践できるたくさんの工夫が発表されました。また、“夫と一緒に買い物に行かない！”といった意見も出され、会場はなごやかな笑いに包まれました。



事業実施者：第16回内子発環境会議実行委員会

担当：環境政策室

(10) 内子保育園エコ活動

内子町内の保育園、幼稚園をはじめ、さまざまな教育機関では、環境教育、ふるさと教育に力を注いでいます。とりわけ、今年度は内子保育園の年長児において、ふるさとをもっと知りたい、エコのことももっと知りたい、という両者を両立すべく、町並み保存地区に近いという立地を生かしながら、“昔の暮らしを学び、今の暮らしを比べながらエコを考える”というテーマで活動を進めました。

活動においては、“エコ散歩”という名称で、町並み保存地区や資料館などを訪ね、昔の台所やお風呂など、どのように使っていたかを教えてもらいながら楽しく見学しました。また、知清河原への散歩では草花さがしをしたり、日常の散歩でも周囲の自然物に目をやったりと、普段の保育の中で取り組めることとして、工夫をこらしながら活動しました。

中でも、木蠟の原料となったハゼノキに注目し、上芳我邸にあるハゼノキを、季節を通じて見学。さらに、町並保存センターの協力を得て、実の収穫体験や木蠟クレヨン作りを行いました。また12月のおゆうぎ会では、“田舎のねずみと都会のねずみ”というタイトルの劇の中で、内子のいいところをたくさん紹介したほか、2月6日の参観日には1年間のまとめとして、年長児一人ひとりが、保護者や他の園児の前で感想を発表しました。発表の最後には、木蠟クレヨンで絵を描いたオリジナルマイバッグを手に、買い物に行くときはこれを持っていきますと、力強く宣言していました。

内子保育園は、現在、多くの園や学校で実施している“子どものエコ見回り隊”発祥の園です。もちろん、内子保育園でも継続して取り組まれており、今年度は見回りだけでなく、実際に園で出た不用な紙から葉書を作るといった活動も行いました。エコ見回り隊で見回る“省エネ・節水・リサイクル”から派生するエコ活動が、ますます広がることを期待しています。



担当：環境政策室

3 内子町環境基本計画

(1) 内子町環境基本計画 後期計画の策定について

内子町環境基本計画は、第2次計画が平成27年度に策定され、計画期間を10年と定め、5年後に見直しを図るとしています。今年度はその見直しの年度となり、総合計画の後期計画策定に合わせながら、後期5年間の計画を策定しました。

後期計画策定においては、現在の計画の骨子を変更せず、個別政策ごとに作成している部署別の実施計画を見直すこととしました。実施計画を作成していない部署においても今一度、環境基本計画に関係する取組があるかどうか見直しを進めてもらい、全ての部署で作業を行いました。また、これまでの実施計画については一旦、5年間の総括を行いました。その上で今後どのような政策を行っていくかを検討し、削除・追加を含め、改めて実施計画を作成しました。

今回の見直し策定においては、国連が定めたSDGsとの関連性も明らかにし、環境基本計画を推進することでSDGsにおける課題解決にもつながるよう考慮しました。

実施計画の詳細については、「内子町環境基本計画 前期個別政策シート（総括）」及び「内子町環境基本計画 後期個別政策シート」として、別途、内子町のホームページで公開していますので省略し、ここでは、それらの5年間の総括と今後の方針等に関するまとめを掲載しています。なお、前期5年間の最終年度である令和元年度の数値目標に関する目標達成状況については、まとまり次第掲載します。

さらに、令和元年度においても、引き続きエコオフィスに取り組む各部署において、環境基本計画の3つのプロジェクトに関連した独自目標を立て、目標に向かった取組を行いました。その目標及び評価、達成度についてもまとまり次第掲載します。

(2) 5年間の総括と今後の課題・方針のまとめ

<自然プロジェクト>

1) 生物多様性の保全・創造

①里地里山の保全

実施計画名	総括	今後の課題・方針
1 放置人工林ゼロを目指した取り組み（森林整備事業）	森林組合と町内の林業事業体が連携し、森林所有者の同意を得て、集約化することで低コスト施業となる森林経営計画をより一層進めてきたが、平成30年度末現在で経営計画策定団地数は58団地5,568.92haで、対象民有林面積18,855haに対し29.5%となっており、順調に森林環境の整備を推進することができている。それに合わせて間伐面積も目標通り施業することができ、町産材を安定供給することができた。	小田地域において森林経営計画を多く作成して間伐を実施していたが、今後は少しずつ内子・五十崎地域においても推進し、森林環境を整備していかなければならない。 また、森林経営管理制度の実施に伴い、放置人工林の整備を進めていく。

2	中山間地域等直接支払制度による組織の農村景観保全活動の支援	農業者の高齢化に伴い、協定参加者自体は減少してきているが、当制度を利用することで集落が一体となり農地を守ることで、耕作放棄地の発生防止に繋がった。また町としても、当制度の推進していくなかで、平成 29 年度より多くの集落が「超急傾斜農地保全管理加算」に取り組んだことにより、急勾配の農地及びその周辺の管理をすることへの促進となり、農村景観保全に繋がったと考える。	今後、高齢化が益々進むにつれて耕作放棄地の発生が増えていくことが予想されるが、当制度への新規参加者の獲得が急務だと考えられる。特に若い力は必要不可欠であるため、新規就農者へ当制度の周知をより一層図っていく必要がある。
3	多面的機能支払交付金による組織の農村景観保全活動の支援	令和元年現在で、16 組織が取り組んでいる（H29～R3 が 3 組織、R1～R5 が 13 組織）。それぞれの協定更新時には対象農用地の見直しを行っている。農家の高齢化に伴い、事務処理を担う人材不足や、耕作放棄地の増加に伴い協定継続を断念する組織が増加した。 今後の事業継続に向けて、更なる事務の簡素化や担い手の育成が急務となっている。	現在の事業では、16 活動組織、認定農用地 501ha で町と協定を締結し活動を実施しているが、農家の高齢化に伴い、協定の更新時期には対象農用地が減少していくことが予想される。 今後は幅広く、集落営農組織、農業生産法人、地域外の入り作農家、土地持ち非農家等も含めた地域総ぐるみで取り組む保全体制を作っていく。
4	農地荒廃対策の推進	荒廃農地の再生は目標に対して実績の達成が出来た。	荒廃農地は毎年の調査で年々増加している。これは農家の高齢化・担い手不足、鳥獣被害、農産物価格の低迷等様々な要因が絡みあっているためであり、これらの要因を一つ一つ解消し農業が魅力ある産業にする事が重要である。
5	林業施設の整備	各事業において、おおむね予定通りの進捗となっている。	林業基盤が未整備であるため生産コストが増大し、長期にわたる木材価格の低迷林業従事者の高齢化等により、森林整備は思うように進まず、森林が持つ多面的機能を十分に発揮できない森林が増えている。 このような状況を、林道を開設することで森林整備を進め、治山事業の実施によって森林が持つ防災機能の向上をはかる。 間伐実施面積：H21 年度（414ha）H22 年度（481ha）H23 年度（537ha）H24 年度（281ha）

②生き物の調査と生息環境の保全・創造

実施計画名	総括	今後の課題・方針
6 在来種の保全	調査や広報活動、ともに計画通り実施できた。 調査については、 ・H27：ホタル、カエル ・H28：ホタル、セミ ・H29：ホタル、トンボ ・H30：ホタル、トンボ ・H31：ホタル、トンボを実施した。 また、特定外来種防除等の研修についても、毎年参加し、知識を深めることができた。	調査活動を実施してきたが、年度ごとのまとめをするのみで、今後は、全体を通した総括が必要であり、また、生息環境の保全や創造に向けた方針が必要である。後期では、これまでの調査を通じた把握した内容をまとめるとともに、調査活動について内容を検討しながら継続して実施し、生物多様性の保全・創造に向けた方針（計画）づくりを行う。
7 自然観察会の継続実施、柿守会の取組を支援・育成	環境政策室や、NPO法人内子未来づくりネットワークとの連携を図りつつ、トンボ、小田川の水生生物、野鳥観察会などを実施している。地域の自然環境やそこに生息している生物を学習しながら、子どもたちの環境教育に繋がっているものと考えている。	今までは、主に昆虫や鳥類がメインとなっていた学習会が主であったが、植物や樹木等へも目を向けた学習会の検討も必要ではないかと考える。
8 水辺の生き物観察会（ホタル鑑賞会）	立石自治会で毎年1回ホタル祭りを開催してホタルの観賞会を実施してきた。地区内外から子供たちや大人の参加があり、自然や環境に関する意識が高まることで成果は得られた。 しかし、平成28年度を最後に実施できない状況になっている。	来場者が減少したことやスタッフなど運営の問題で平成29年度から中止しており、今後も再開の目途が立たない状況にある。
9 寺村自治会「カワニナ養殖実験事業」	寺村自治会ではホタルの生息環境を整えてホタルを増やす取組として、28年度までカワニナを養殖して河川に放流してきたが、その効果が確認出来なかったことからカワニナの養殖を中止した。	カワニナの放流による効果が確認できないことから今後の再開は困難と思われる。寺村自治会では29年度からビオトープによるトンボの生息環境を整備する取組を実施している。

③小田深山の自然環境保全・活用

実施計画名	総括	今後の課題・方針
10 内子町山並保全・活用計画（中期行動計画26～28）	期間中、保全審議会の開催には至っていない。内子町山並保全・活用計画に基づいた活動を行い、住民が参加した植樹活動、清掃活動を中心に小田深山の保全活動を行った。平成29年度には、第3期行動計画を策定している。	数値目標等、現状に合った見直しを行い、実現可能なものにしていく。 小田深山保全条例の作成について、関係者との協議を進めていく。

2) 自然資源や景観を活かした地域づくり

①地域の資源を活用したブランドづくり

実施計画名	総括	今後の課題・方針
11 トレーサビリティの推進や化学肥料、化学合成農薬低減の取り組みアピール	土壌診断の徹底は目標達成できた。安全農業講習会は平成 31 年度から回数を減らして実施した。	現在、平成 11 年度から行っている土壌診断により、有機物の投入や化学肥料低減の指導を行いきかなりの農家に浸透している。また、平成 17 年度からは内子町特別栽培等農産物認証制度の制定及びからりでは栽培履歴の公開し消費者に P R を行っている。栽培履歴公開に関しては、今後も効果的な P R 方法を検討していく必要がある。

②環境を活かした観光や人材の受け入れ

実施計画名	総括	今後の課題・方針
12 持続可能な内子ツーリズム事業	ツアーメニューは“ねき歩き”のメニューの一つとして、1 種類開発した。内容としては、川コースの一つとして、五十崎方面のコースとなった。	ツアーの受け入れ態勢を整えることとしていたが、内子町観光協会がその一役を担っているものの、行政の視察も含めた窓口とはなっておらず、関係者の合意形成をとるまでに至らなかった。今後は、実際に視察の多い部署や、からり、内子バイオマス発電所などと協議を進め、例えば上勝町が実施しているような受け入れ態勢を整えていくなどし、エコロジータウン内子のまちづくりの商品価値を高めることができるよう整備していく。
13 グリーンツーリズムの振興	着地型商品の開発及び、GT 協会内での受入体制強化を中心にソフト事業を進めたが、組織だけでは効果が限定的であった。後半には、財団や国の事業の活用で、モデル地域での目的型ツーリズムの推進と受入体制整備強化に繋がり、令和以降の内子ツーリズムの礎ができた。	今後は、GT 協会＋他組織＋広域での、目的型のツーリズム推進によりインバウンドを含めた交流人口の拡大を目指す。

14	内子ねき歩き (まち歩き) 事業推進	まちづくり型観光地をめざして、観光客と住民がほどよく関わり合う仕組みを構築し、多様なまちの表情を楽しむ「内子ねき歩き」を推進してきた。ねき歩きの人の輪構築、学び場提供という点では、学識経験者のねき歩き参加や、JR四国のツアーへの組み込みを通してルートに絡む住民や商店、外部の企業と共に地域の魅力をさらに深く探る機会となり、ガイド各自の意思の高まりに寄与した。	主要となるコースのニーズが多く、その他のコースの申し込みがない。そのため、ガイドの育成、経験につながらず、協力している周辺住民や商店もコースの存在を忘れており、いざ需要が高まった際に実施できない可能性がある。今後はコースの見直しや時期を限定しての開催を行いう必要がある。
15	内子町の自然や食、伝統文化を活かした観光振興	近年、大幅な増加傾向にある訪日外国人観光客の集客のため、海外の雑誌編集者や番組制作者を招いて酒蔵ツーリズム等を実施した。引き続き、今年度も欧米圏・韓国等のブロガーに対して内子町の魅力を発信し、目標としている125万人の観光客集客に向けて取り組んでいる。 また、平成31年度からJR内子駅とビジターセンターの駐車場にカーシェアリングを導入し、電車やバスで訪れた観光客に対して、石畳地区や泉谷の棚田など各観光地点へのアクセスを可能にした。	カーシェアリングは導入したものの、台数も2台に限られているため、電車やバスでの訪れた観光客が、内子の中心部から離れた村並み・山並みを観光することができるよう二次交通の更なる整備が必要である。 今後更なる増加が期待される訪日外国人を内子町へ誘客するため、パンフレット等の多言語化を進めるとともに、引き続きFAMトリップの実施をしていきたい。
16	内子町山並保全・活用計画 (中期行動計画26～28)	小田深山で開催した散策ツアー、ウォークへの参加者が序々ではあるが増えてきている。また、きのこ学会や写真協会など新たに小田深山をベースにした研究会や撮影会の開催、林業体験を中心とした「ワンツーツリーフォレスト」の開催など、新たなイベントも開催(計画)されている。ただ、屋外での開催が多いため、天候に左右されることが多く、その年の気候状況によって参加者数は左右されている。	小田深山を中心とした活動スタッフが少なく、年間を通した活動に至っていないため、森林インストラクターの育成を始め、来場者の要望に応えられるスタッフの育成を行っていく。また、新深山荘の建設による運営を支援するため、広域な人々を受け入れるようなイベント、活動を開催していく。

③環境活動を推進する経済システムの検討

実施計画名		総括	今後の課題・方針
17	未利用材を活用した経済循環 (木こり市場プロジェクト)	平成 29 年度に木材の買い受け企業の都合により年度途中で事業を中止したために実績が少なかったのを除けば、目標通り達成できている。それにより、未利用材の搬出による森林整備と地域通貨による地域商店街の活性化が推進されている。	同じ出荷者が材を出しており、新たな出荷者の掘り起こしが必要。地域通貨をより広く使っていたたける用に、使用商店の拡充を進める。

④景観や生態系に配慮した環境整備

実施計画名		総括	今後の課題・方針
18	景観行政 –美しい内子に向けた取り組み–	講師の都合で、平成 28 年度末に開催予定であった景観まちづくりフォーラムを平成 29 年度に実施。結果的に、1 年の空白ができた。しかし、その間、自治センター研究大会等で景観をテーマに研修会を実施。また、愛媛大学の公開講座も景観をテーマに内子町で開催するなど、啓発はできたと考える。ホテル A Z やフジなどの屋外広告物の修景にも成果があった。	景観まちづくり計画、景観まちづくり条例が施行されてから 10 年が経過し、見直しが必要になっている。また、現在、総務課政策調整班が景観行政を所管しているが、建築指導の一環として窓口を一本化する方が望ましく、建設デザイン課への所管変更が適当と考える。
19	小田川リバーサイド・ふれあい事業	5 月の大風合戦、7 月の元氣わくわく川まつり、12 月の小田川シクロクロス、定期的に行われる小田川コットントンなど、多くのイベントが定着しつつあります。これまで景観整備については自治会の協力も得て景観美化を維持してきました。オープンカフェは実現できなかったもののサイクリングコース、散策コースを整備したことにより、地域の自然や文化に触れる機会が多くなり、地域住民の憩いの場として定着した。	引き続き景観美化に努め、地域住民の健康づくりや憩いの場として整備する。そのため小田川はらっぱ基金運営協議会において整備方針について検討を進める。

20	歴史的環境の保全・活用	歴史的環境の保全のため、伝建地区の整備と広報活動を進めてきたが、木蠟資料館上芳我邸の有料入館者数は目標を達成できず、減少し続けている。取り組みの情報発信の方法等が課題である。一方で、空き家の紹介活動は好調で、その数は順調に減少している。 案内版やサインの整備、指定物件の追加などは予定通り進めてきたが、モデルとなる建物の整備や「アクトハウス」の展開には至っていない。ただし、町有物件の修理の機会を利用して三和土、土壁などの伝統工法を体験するWSを開催し、多くの地元住民の参加を得た。今後もこうした体験や公開の機会を設け、町並み保存への理解者、参加者を増やすことを目指したい。	歴史的環境の保全のため、伝建地区の整備と広報活動を進めてきたが、木蠟資料館上芳我邸の有料入館者数は目標を達成できず、減少し続けている。取り組みの情報発信の方法等が課題である。一方で、空き家の紹介活動は好調で、その数は順調に減少している。 案内版やサインの整備、指定物件の追加などは予定通り進めてきたが、モデルとなる建物の整備や「アクトハウス」の展開には至っていない。ただし、町有物件の修理の機会を利用して三和土、土壁などの伝統工法を体験するWSを開催し、多くの地元住民の参加を得た。今後もこうした体験や公開の機会を設け、町並み保存への理解者、参加者を増やすことを目指したい。
----	-------------	---	---

3) 健全な水環境の保全と小田川の利用

①生活排水対策

実施計画名		総括	今後の課題・方針
21	えひめ AI-1 の普及	町内においてえひめ AI-1 の認知度は向上しているが、活用については一部の利用者に留まっている。年1回以上の啓発目標に対し達成できていない年度もあった。環境関連のイベントなど啓発できる場を作っていかなければならない。	えひめ AI-1 の認知度の向上、利用者の増加に向け今後も HP の充実及び啓発の強化を図る。えひめ AI-1 については、利用者に分かりやすいように事例の紹介を行う。また、環境関連のイベント時に啓発パネルなどで周知する必要がある。
22	下水道及び合併処理浄化槽の普及率向上	普及率向上のため広報活動などを行ってきたが、目標は達成できなかった。水洗化率は近年、単年度0.6%程度の伸びしかなく、合併処理浄化槽も新築以外では故障や改修等のタイミングでの転換が数件ある程度である。下水道への接続及び合併処理浄化槽への転換には水回りの改修も必要となり、補助金を交付しても自己負担が高額となることから、なかなか水洗化率が向上しないのが現状である。	下水道への未接続及び合併処理浄化槽の未設置の要因は、経済的な理由と PR 不足が大きな原因と思われる。今後も、広報誌を活用し補助金を PR するとともに、下水道未接続世帯及び合併処理浄化槽未設置世帯への普及促進活動（チラシ配布・個別訪問）に努める。

②源流と河川の環境保全

実施計画名	総括	今後の課題・方針
23	源流と河川の環境保全	町内多くの地域で毎年地域の清掃活動を実施している。清掃で集まったごみの量は、広報の内容によって掲載することができなかった年があった。 平成 30 年度は、豪雨の関係で肱川流域河川清掃や簡易水質検査は実施できなかった。 平成 31 年度より簡易水質検査を中止し、水生生物の観察会を実施する。 町内河川美化一斉清掃は、人口減少や高齢化により継続が困難との意見もあり、今後、地域の清掃活動ができなくなる地域が発生すると考えられる。 広報誌における清掃活動で集まったごみの量のお知らせは、毎年、掲載内容を変更するため、掲載ができない場合がある。 肱川流域の一斉簡易水質検査は、令和元年より水生生物の観察会に変更となる。令和 2 年度以降、毎年、町内で実施するのか今後の検討課題である。

③水を利用した地域づくり

実施計画名	総括	今後の課題・方針
24	水を利用した地域づくり事業の推進	青少年活動では、内子ふれあいキャンプを通して川と水、自然と景観への関心が高まった。 段ボールカヌーについては、台風の影響により中止になった。 自治会先進地研修におけるまちづくりと景観・環境の研修が実施できた。 現在は環境に関する学習会は実施しているが、テーマを「水」に絞っての学習は取り組んでいない。今後、『水』と「環境保全・景観保全」を結びつけて取り組むことが重要となる。

<暮らしプロジェクト>

1) ごみの減量

①廃棄物の減量

実施計画名	総括	今後の課題・方針
1	未回収ごみゼロ事業	毎年度ごみ減量検討委員会を開催し、ごみ問題全般について協議を行った。また、ごみ減量に関連する視察研修を行い、先進地のごみ減量について理解を深めた。平成 29 年度よりごみ減量アイデアコンテストを実施し、ごみについて町民への理解度の向上を図っている。 ごみ減量検討委員会から 5 R 推進委員会に移行し、ごみ減量を含めた 5 R の推進に向け取り組む行う。5 R 推進委員会と連携し内子町全体に 5 R を推進していく。

2	5 R 推進事業	ごみの排出量は H30 年度実績で 4,494t となり、受入量が多い状態で推移している。家の片づけや解体処分に伴い排出されるごみが増えており、収集ごみは、H27 年度以降 4 年連続で、減少している反面、直接搬入ごみは H25 年度以降、6 年連続で増えており、排出量の約 2 割は直接持込みごみとなっている。1 人当たりの一日排出量も高い水準であり、生ごみの自家処理やマイバックキャンペーンなどにより、総排出量削減を具体的に進める必要がある。	一般廃棄物処理基本計画の最終年度である令和 9 年度に「町民 1 人当たりの 1 日のごみの排出量 600 g 以下」の目標を達成するため、5 R 運動の推進を積極的に推進する。またコスト意識という視点において、現在はごみ処理経費で町民 1 人当たり年間約 1 万 3 千円相当の負担額となっていることから、町民の消費行動を見直す機会を提供し、アイディアや情報を共有することで、賢い消費行動に繋げていくことが重要である。地域での様々な学習機会を捉えて、身の回りから始められる排出削減の工夫やアイディアといった事についても波及させていく。
---	----------	--	---

②廃棄物の適正処理

実施計画名	総括	今後の課題・方針
3 廃棄物の適正処理推進	ポイ捨てや不法投棄は、広報やパトロールを実施し看板を設置するなど対策をとっているが、減少傾向はみられない。 ごみを燃やす野焼きは、広報や苦情対応により減少している。一方で、農業から出る剪定枝等の焼却については、農地の近隣に住宅ができるなどによって苦情の増加傾向がみられる。 プラスチック類については、当初計画していた油化事業の実施が困難となったため、実施できなかった。	ポイ捨てや不法投棄対策は今後も継続し、他自治体の先進的な取り組みなどを情報収集しながら、減らせるよう取り組んでいきたい。 農業を営むためにやむを得ないものとして行われる焼却については、周辺地域の生活環境に与える影響が軽微なものとして禁止の例外とされているが、近年苦情が増加している。現在は、野焼きをしている者に苦情があったことを伝え、野焼きを控えるなどのお願いをしている。全国で同様の事例が発生しているので、情報収集し対応を検討していきたい。 みなし産廃となっているプラスチック類については、廃棄物として焼却する以外の方法で導入できないか情報収集や検討を行う。

2) 資源の地域内循環

①地産地消の推進（農の循環）

	実施計画名	総括	今後の課題・方針
4	学校、病院、給食センター、老健施設等での地産地消	学校給食では地産地消率が 50% になり一定の成果が出てきた。事務所では 11% に止まっており一層の推進を図る必要がある。	内子町内の学校給食における地産地消率は、H30 年度ベースで野菜・果物が約 48% になっている。また、地元病院や老健施設等では使用率がまだまだ小さい状況にある。 地産地消が伸びない要因は、規格が均一でない、安定的に量が確保できないからであり、これを解消することが課題である。

②町産材の利活用の拡大（木の循環）

	実施計画名	総括	今後の課題・方針
5	町産材の需要拡大（町産材利用木造住宅の建築促進事業の推進、新たな利用の研究など）	地元産木材の需要拡大を図るため、内子町産材利用木造住宅の建築促進事業補助金（町単独）の利用促進を進めてきた。同補助により建築中の住宅への P R 用幟の設置や広報誌への補助概要の掲載、商工会建設業組合での説明など周知・広報活動に努めた。また、平成 29 年度より、屋根材の日本瓦の使用要件を廃止し、住宅建築ニーズの多様化に沿った要綱の改正を実施した。 こういった取り組みにより、当初の目標としていた補助件数は達成できなかったが、毎年、件数を増やすことができおり、今後も広報等により、地元木材の利用拡大を図るとともに、他の事業での木材の需要増加を研究していく。	内子町産材利用木造住宅の建築促進事業補助金の要件の一つに、町内工務店の施工が定められているが、建築主の選択として、同補助があっても、支払総額の安い大手住宅メーカーに発注するケースがみられる。資源の地域内循環の一つとして、また、町内の森林整備の促進のため、本環境基本計画の P R など、多角的な視点から周知を図り、事業を推進する。

③バイオマス利活用の拡大

実施計画名	総括	今後の課題・方針
6 バイオマスタウン構想の推進	木質ペレットの普及のため、内子町地球温暖化対策機器導入促進事業補助金を整備しペレットストーブを導入する方に補助金を交付した。BDF の利活用については、公用車等で使用していたが、車両の故障により現在は利用できていない。えひめ AI-1 については、無料配布を実施し利用推進を図っている。	木質ペレットについては、バイオマス発電所が稼働したため製造量・利用量は増加すると思われる。また、家庭への木質ペレットの普及のため、内子町地球温暖化対策機器導入促進事業補助金を周知しペレットストーブ普及拡大を図る。BDF については、公用車以外での使用先を探り BDF を利用した機器の普及拡大を進める。えひめ AI-1 についても利用拡大に向け普及活動に努める。
7 えひめ AI-1 の農業利用（竹堆肥）	えひめ AI-1 の農業利用のため、毎年対象となる野菜や果物を定め、AI-1 堆肥（竹堆肥）の実証実験を行ってきたが、前期計画終了時までに 8 種類の検証を行うという目標は達成できなかった。また、検証結果についても高度な検証設備がないことから糖度計や個人の感想などにより効果検証を行ってきた。その結果、AI-1 堆肥の効果はあるものの、正確なものではないことから広報やホームページに公表できていない。平成 31 年度については愛媛県と連携し実証実験を行っているのでそれらの結果を公表していくとともに継続して AI-1 堆肥の利活用の推進を図る。	実証実験を行ってもらえる農家が少ない。良い実証結果を周知していき、町内農家でも活用してもらえるよう PR をしなければならない。今後も引き続き愛媛県と連携し実証実験を行い、対象農作物への効果一覧表などを作成し、えひめ AI-1 堆肥を町民に周知することでバイオマス利活用の推進を図る。
8 ペレットストーブの設置及び利用	平成 28 年度から大瀬保育園の運営が内子町社会福祉協議会になったことに伴い、内子町が管理している設置対象施設は 4 カ所（こばと保育園・内子町子育て支援センター・内子児童館・五十崎児童館）となっている。平成 27 年度に五十崎児童館にペレットストーブを設置している。 今後も継続して、町の予算と検討をしながら設置の推進を図るが、設置後の利用については冬季の稼働がメインとなり冬季以外はストーブの占有面積が問題となっている施設も出ている。設置において	対象施設のうち、内子町子育て支援センターについては、施設の面積が狭くペレットストーブを設置することで、施設利用者の利便性が大幅に低下する恐れがあり、新たな設置は困難なものとする。同様に、既存設置施設である内子児童館についても、施設の面積が施設利用者数に対して非常に狭く、設置場所としてある程度面積が必要なペレットストーブを冬季のみ使用するために設置しておくことが施設利用者の利便性の低下を招いている状況となっている。そ

		は、子どもが周囲にいる施設のため職員による現場管理や子どもへの周知が重要になり、怪我等のないように努めた。	の他、こばと保育園（来年度認定こども園に移行）については、床暖房設備の更新の時期に合わせて、五城保育園及び大瀬保育園で導入しているペレットを熱源とした床暖房の導入することにより、バイオマス利活用の拡大を検討したい。
--	--	---	---

3) 温暖化対策とエネルギーの地域内循環

①再生可能エネルギーの普及

実施計画名		総括	今後の課題・方針
9	再生可能エネルギーの導入事業	可能性調査で最有力と見込んでいた「せせらぎ横の小田川」の例において、せせらぎ年間使用の2%～8%にしかならず、事業性はかなり厳しく、売電収入や施設のベース電源として事業化が見込めない結果となった。 かり加工場の屋根では、発電出力 38kw 規模の発電・売電事業について検討したが、課題をクリアするに至らず設備認定を取り下げている。	今後は、地域での資源循環という視点から、マイクロ小水力（50w～500w 程度）という小発電規模のものについて、エネルギーの地産地消・モデル的施設として有効的な活用ができる場所・施設について検討を進める。太陽光発電については、エネルギー学校などの開催によって、町民や関係団体の機運醸成に努めると共に、防災拠点の視点も視野に自立電源確保の観点から検討を行う。

②省エネルギーの普及

実施計画名		総括	今後の課題・方針
10	「緑のカーテン」事業の実施	NPO と連携し根の無料配布を継続して実施した。コンテストの応募件数は目標を達成することができなかった。一方、緑のカーテンの認知度は向上しており、緑のカーテンを作っている家庭は増えてきていると思われる。	今後も NPO と連携し無料配布を実施していきたい。無料配布には数が限られているのでできるだけコンテストに参加していただくよう取り組んでいく必要がある。また、緑のカーテンの広報活動に努め更なる普及を図る。
11	省エネの啓発活動	ライトダウンキャンペーンについては、毎年実施してきた。省エネルギーキャンペーンの企画については周知があまりできていない。クールビズ・ウォームビズについては、全職員により実施しており、クールビズ用のオリジナルポロシャツの作成・推進を行った。	省エネモニターについては、愛媛県が募集を終了しており今後の実施はできないと思われる。今後も継続してクールビズ・ウォームビズの推進を図り、一般住民をターゲットに省エネルギーについて周知をしていく。

③適応策の検討

実施計画名	総括	今後の課題・方針
12 適応策の検討	インフォメーションやホームページを通じた情報発信はできなかった。 平成 29 年度に地球温暖化の現状とパリ協定について、平成 30 年度に職員と町民を対象にした地球温暖化の現状と適応策についてそれぞれ学習会を実施した。	近年、豪雨等の気候変動によると思われる大規模災害が起こっていることから、身近な問題として地球温暖化防止（緩和策）に取り組まなければとの意識が高まっている。一方、適応策については、依然として認知度が低いと思われる。 今年度、愛媛県において気候変動適応計画の策定が予定されていることから、愛媛県の計画を基に、周知や適応策（環境政策室案）の作成を進めていきたい。

<環境教育プロジェクト>

1) 子どもから大人まで切れ目ない学習活動の推進

①子どもの環境学習（内子独自の学びの場づくり）

実施計画名	総括	今後の課題・方針
1 子ども達への環境教育の実践	平成 18 年度から環境子ども会議を開催し環境に関する講演を聞くなどして環境についての理解を深めるとともに体験学習をととして環境を身近なものとして体験した。また、内子町環境副読本「ふるさと」を新 4 年生全員に配布するとともに、環境学習に活用して内子町を取り巻く環境についての理解を深めた。2018 年度には初刊から 5 年を経過したため、内容について必要な見直しを行った。	環境子ども会議では、毎年の学習テーマに繋がりができるように微修正を行いながら実施している。今後、地球規模の温暖化やそれに伴う異常気象など、環境についての学習がますます重要になるとと思われる。
2 自然体験学習の実践	平成 22 年度から小田深山宿泊体験を行っており、平成 29 年度からは宿泊拠点を獅子越荘に移して活動している。自然がもたらす恵みや美しさ、澄んだ空気、きらめく小田川上流の水、小田深山にそびえる巨木、そして、町中では見ることのできない今にも落ちてきそうな星空などを、見て、触れて、感じて、自然環境の大切さを学んでいる。 課題であった、雨天時の活動や児童の安全確保についても、ソルファ小田株式会社との連携により、年々環境が整いつつある。	天候に左右される一面があるものの、移ろいやすい天気について学ぶことも自然学習の一環であると捉え、状況に応じて出来る限り学習の機会を与えたい。ただ、携帯電話の電波が届かない場所があったり、マダニについて注意を要したりするため、安全面と活動の両立が課題である。

3	子どもの環境学習	環境学習については以前より学校や保育園などで実施されているが、子ども達に環境やエコについて理解を深めてもらうためには今後も学習会の開催は必要であると考え。学習会は、保育園職員や外部からの講師を招いての川の環境、生物についての学習会や企業を訪問しバイオエネルギーについての学習会を行い、児童館便りで報告をした。また、地元企業と空き缶回収を行い、再利用品で内子笹まつりの飾り制作などを通じて、環境に対する理解を深める活動を積極的に行った。	幼少期の頃からの環境に対する意識付けは、今後の環境に対する取り組みを一層深めていくと思うので、引き続き環境に関する学習会等を通して、子どもたちに環境についての理解や関心を深めていきたい。
4	エコセミナー	様々な環境に関する体験プログラムを通して、子どもたちの身近な自然や環境に対する関心と理解を深めると共に、地域住民との交流を通しての郷土愛や地域社会の一員、さらには環境を守るべき一員としての自覚を育む事にも繋がっている。 平成31年度についても、多く方に参加いただけるプログラムになるよう、事業内容の見直しを行い継続して事業を実施するものです。	大瀬小学校においても過疎化・少子化の影響を受け、児童の減少が続いており、エコセミナーについても、同様に参加者が減少傾向となっている。 今後は、児童生徒の興味が持続するよう、プログラムのマンネリ化を避け、内容の見直しを図るとともに、地域の人材や資源を活用した事業を展開していきたい。

②大人の環境学習（実践に結び付く環境学習）

実施計画名	総括	今後の課題・方針
5 大人の環境学習の推進	うちこ未来づくり協議会は事実上活動をしていない状況にあるが、NPO 法人内子未来づくりネットワークと連携し、各種体験学習を実施してきた。しかしながら、子どもを通じて大人にも参加してもらう状況であり、本来の趣旨とは異なる事業展開となった。 暮らしのエコロジーについては、広報うちこでの枠をとってもらい、継続して掲載することができた。	今後も継続した学習活動は必要であり、いかに対象者（受講者）を広めるかも課題である。うちこ未来づくり協議会については、会そのものについて検討し、ともに環境基本計画を推進していく組織やネットワークといったものを考えていく。学習活動については、この実施計画以外にも計画がたてられており、後期計画策定にあたって一旦整理をし、より効率的で充実できる内容の計画をめざす。情報発信については継続して実施していくとともに、より多くの人にアプローチできる手法や、ターゲットを定めた情報発信など、検討していく。

6	自治会における環境活動の推奨	5年間の推移状況では、すべての年度において目標達成率に達していない。取り組みを継続する自治会もあるが、役員改正などにより定期的に実施しない自治会もあるため、定着していない現状である。（実績率については、自治会において地域づくり補助事業（地域環境整備事業）を実施した実績である）	道づくり活動や奉仕活動も取り組み内容に含めるなら、ほぼ全自治会で実施しているため、100%達成している。 しかし、それ以外の活動（地域づくり補助事業）での達成率となると年度により、変動がある。自治会連絡会議や自治会研究大会など自治会長が一堂に会する場で環境学習促進の取り組みを実施するなど工夫していきたい。
7	自治会環境学習実施事業	町内における河川美化に準じて地域の草刈り、ゴミ拾いなどの環境美化活動を行ったり、公園など公共施設に花植栽などで美化活動が実施されている。	各自治会で学習会を実施する際に自治センターとして介入することは難しいが、講師か内容についての相談があった場合には的確な情報提供が行えるようにしたい。
8	東自治センター管内サロンでの環境学習会	この5年間での開催結果は上記の通りであり、目標値に大きく届いていないというのが現状である。内子町でも高齢化が進んでいく中、人口の大半を占めていく高齢者世代にこそ、環境に関する学習会を受講してもらう必要性が高く、今後も根気よく学習会の開催をサロン側にお願ひし、環境に関する理解と意識向上を図っていく。	各サロンにて、環境学習会の開催を呼びかけるものの、開催についての良い返事をもらえない。環境学習の初級編として「ゴミの分別に関する学習」も提案しているが、既に分別方法は理解していると考えている人が多く開催まで至らない。基本的なことの再確認の重要性を説きながら、まずは「ゴミの分別」を主軸とした学習会開催を実現していきたい。
9	自治会環境学習実施事業	第3次地域づくり計画(平成24年度～33年度)で位置づけられている、事業活動の中で環境関連事業をそれぞれの自治会で取り組まれており、活動の継続により、地域住民の環境に対する、意識の向上が図られていると共に、魅力あふれる地域づくりに繋がっている。平成31年度においても、地域づくり補助事業等を活用し、環境整備事業に取り組むものです。	各自治会においては、すでに環境部等の設置がされており、草刈りなどの環境美化活動や花いっぱい活動などが行われている。また、ホテル学習会や小田川の環境学習会も実施している。 今後は各自治会での学習会をはじめ、小田川の環境保全を目的とした自治会連携の学習会やフィールドワークを実施して、住民の環境に対する意識を一層高めていきたい。

10	センター報によるエコロジータウン内子の推進	小田自治センターだよりへ節電などの情報を毎年2回以上掲載しており目標は達成している。	今後も継続して取り組む。
11	自治会環境学習実施事業	中川自治会が竹堆肥づくりの学習会を2回実施したが他の自治会では取組が無い。実施回数が5カ年で2回となっており目標達成できていない。	中川自治会では放置竹林を伐採して竹炭を焼き、自治会活動に活用する取組を行っている。また、ごみの出し方や分別に関する講習会を行っている自治会もあるので、今後も環境の視点を含めた学習会の実施に努める。

③様々な学習会と連動した環境学習（ESD）

実施計画名	総括	今後の課題・方針
12 連系型 ESD 環境学習の推進	ESD コーディネーターを委嘱し、学習の推進に努めてきた。主な役割を担ってもらったのはNPO法人内子未来づくりネットワークであり、特に、内子小学校において、すべての学年で年間を通じて学習に取り組んできた。 一方、ESDの視点が、学校で行う総合的な学習の時間での学習に重きをおいており、計画事業の内容にまで及んでいない。	持続可能な社会づくりに向けた学習活動は非常に重要であり、今後も継続した活動が必要であると考え。 学校教育の現場をみると、ふるさと教育が推進されており、また、コミュニティスクールが導入されていることから、こうしたところと連携して実施していくことが有効であると考え。 また、SDGsの達成に向けた学習活動もますます重要性をもつことから、後期計画に向け、計画を見直していく。
13 ドイツ等環境保全先進国の取り組み紹介の機会提供	青少年海外派遣事業で、ドイツや第2訪問地での環境への取り組みを学ぶ機会を設けており、報告会や広報などでその取り組みの紹介・周知を行っている。	毎年限られた研修期間で、様々なテーマを研修に取り入れる必要がある。その中で、引き続き環境学習の機会がもてるよう研修内容を調整したい。

2) 地域・自治会の環境活動の推進

①環境モデル地域づくり

実施計画名	総括	今後の課題・方針
14 環境モデル地域づくり	環境学習会の内容は、ごみの分別に関するものが多かった。 地域から要望される資料等としては、ごみの分別の資料やごみ収集場所に設置する掲示物、清掃活動に必要なごみ袋の支給が多い。	ごみの分別に関する学習会が多いということは、身近な問題として未分別のごみ問題があると考えられ、より一層わかりやすい資料が求められているとも捉えられる。 ごみの分別に合わせて、ごみの排出抑制等の情報提供を行っていくことも今後は重要と考えられる。

②コミュニティビジネスの展開

実施計画名		総括	今後の課題・方針
15	エネルギー・自然環境コミュニティビジネスの推進	マイクロ小水力の導入について、興味を持った自治会と勉強会を重ねたが、結果として期待した効果が得られなかったり、地権者との同意が困難であったりと、実現には至っていない。そのほか、地域の課題と環境を結び付けたテーマで学習会を開催してきたが、新たなコミュニティビジネスの実施に直接的に結びついた事例はなかった。	地域の課題や魅力アップにつながる要素を見出しながら、単なる学習にとどまらない活動が求められる。地域づくり事業や自治会組織そのものが人材不足、高齢化等により様々な課題を有していることもふまえ、支援の方法について再検討し、地域の活力が見出せるような計画としていく。
16	小水力発電・クールベジタブル・農地等生態保全事業の推進	御祓自治会・重松自治会の計画は、当時の地域おこし協力隊が携わっていた計画でもあるが、中途半端な状態で終わっている。ジビエ料理にしても、もう少し細部にわたっての計画が必要。	前期計画はほぼ全ての計画が実施できていない。地域が現実的に可能性のある取り組みを検討しなおす必要がある。できなければ、後期計画においてはこの項目自体を削除すべき。

3) ネットワークづくり

実施計画名		総括	今後の課題・方針
17	環境に関する活動組織、個人等のネットワーク強化	環境会議についてはテーマを変え毎年度実施しているが目標達成には至っていない。 未来づくり協議会については、NPO 法人として立ち上がった内子未来づくりネットワークとの連携事業は実施してきたが、協議会そのものの実施に向けては積極的に動くことができず、未開催となった。	環境会議については継続的に実施し、多くの町民の方々に参加いただけるよう内容の充実を図る。 未来づくり協議会について、構成員があいまいで、会そのものの位置づけがはっきりしなかったことが、未開催の原因になっていると考える。情報交換や学習活動そのものも大切な要素であるが、協議会の位置づけと目標をはっきりさせた上で、再度、会の発足を検討する。

(3) 令和元年度目標達成状況

令和元年度内子町環境基本計画にかかる指数および数値目標 [実績]						
区分			指数・数値目標	取組結果	達成状況	担当部署
柱	基本政策	個別政策(★重点)				
自然	1 生物多様性の保全・創造	① ★里地里山の保全	放置人工林ゼロを目指した取り組み(森林整備事業) 森林経営計画面積 600ha	森林経営計画面積:640ha 集約化のための森林経営計画は新たに11団地、640haが加入。既存計画についても計画森林の増加に伴う変更が行われており、H31年度末現在で計画策定団地は延べ69団地6,424ha、対象民有林面積18,855haに対し34.1%となっている。	○	産業振興課
			間伐面積 400ha	間伐面積:391ha 間伐391ha、皆伐2ha、植栽9ha、下刈64haが行われ、森林整備が進んでいる。	△	産業振興課
			中山間地域等直接支払い制度による農村景観保全活動の支援 集落協会への交付金 64,119千円	事業費額:72,814千円 第4期対策の5年目。耕作放棄が発生することなく活動を続けている。耕作者の高齢化等により脱退する人もいるが、集落内での賃借権設定による農地の維持や、認定農業者等が管理農地を増すことで、合計面積は前年度より増加している。	○	産業振興課
			多面的機能支払交付金による農村景観保全活動の支援 活動組織への交付金 26,594千円	交付金額:17,877千円 協定期間は1期5年。H30年度に19組織が終了し、H31年度からの新規協定が13組織に留まったため、実績が目標値を下回った。R1年度現在、16組織、認定農用地501ha。農家の高齢化に伴い、協定継続を断念する組織の増加が懸念される。	×	農村支援センター
			荒廃農地の再生 1ha	実績:1ha 荒廃農地の発生・解消状況調査、再生希望地域の農家との協議を行った。	○	農村支援センター
			林業整備事業 5路線、150,000千円	林道整備事業:7路線、210,000千円 県内予算配分等による事業費の減による完了年度の遅延、H30年災害の影響による事業進捗の遅れが出ているが、おおむね予定どおりの進捗となっている。	○	建設デザイン課
			県営治山事業 8地区	県営治山事業:8地区	○	建設デザイン課
		全② ・生き創造物の調査と生息環境の保	在来種調査 2種類	調査:3種(ホタル・トンボ・タンポポ) 広報:2回以上	○	環境政策室
			広報活動 2回	計画どおり実施できた。特定外来種防除などの研修にも参加し、HPで周知を図った。	○	環境政策室
			自然観察会 3回以上	自然観察会(関連事業含む):4回 柿守会支援(ホタル観察会):1回	○	五十崎自治セ
			柿守会の取組支援 1回以上	夏季の自然観察会は森林に目を向け、小田深山で自然散策を実施した。	○	五十崎自治セ
			水辺の生き物観察会 1回	実績なし	×	小田自治セ
			カワニナ養殖実験 1回	(H29年度をもって実験終了)	-	小田自治セ

自然	1 生物多 全・創性 造・性の	③ 小田 活環の 用境深 小田山 の保 全の ・自	小田深山保全審議会 2回	小田深山保全審議会:0回	×	小田支所
			保全活動 30回	保全活動:10回 育苗畑の運営:(取り組み断念) 活用のメインである新深山荘建設が終盤に入り、保全活動実施が少なくなってしまった。	×	小田支所
			内子産植樹苗の育苗畑の 運営		×	小田支所
	2 自然資 源や景 観を活 かした 地域づ くり	① ★地 域資 源を 活用 した ブラ ンド	トレーサビリティの推進、化 学肥料や化学合成農薬低 減の取り組みアピール 土壌診断 600件	土壌診断の徹底:600件 環境保全型農業講習会:3回 町特別栽培農産物等認証制度:118件 エコファーマーの育成:3件 残留農薬の分析:260件 トレーサビリティの拡大:からり出荷全農家 認証制度は減少傾向にあるが、消費者・出荷者 向けPRイベントを開催し、関心を持ってもらった。 エコファーマーは今年度更新期であり、更新を行 わない農業者が多く減少した。講習会は回数は減 少しているが、からり出荷者全員を対象としてお り、受講者は例年どおり。その他は計画どおり実施 できた。	△	農村支援 センター
			安全農業講習会 6回		△	農村支援 センター
		② 環 境を 活か した 観光 や人 材の 受け 入れ	持続可能な内子ツーリス ム事業 ツアーメニュー開発 1種類以上(H31まで)	ツアーメニュー:1種類 “ねき歩き”の1つとして、川コース(五十崎方 面)を開発した。	○	環境 政策室
			グリーンツーリズムの振興 宿泊・体験者数 1万人 (H25実績約7,200人)	宿泊・体験者数:5,727人 着地型商品の開発・GT協会内の受入体制強化 を中心にソフト事業を進めたが、効果が限定的で あった。後半は財団や国事業を活用で、モデル地 域での目的型ツーリズムの受入体制強化につな がり、令和以降の内子ツーリズムの礎ができた。	×	町並・地域 振興課
			内子ねき歩き 10コース目の開拓	参加者(見込):90人 主要コースのニーズが多く、他コースの利用がな いため、ガイドの育成につながらず、協力店なども コースの存在を忘れていた。今後、コースの見直し や時期を限定しての開催などを検討する必要がある。	×	町並・地域 振興課
			参加者数 400人		×	町並・地域 振興課
			内子町の自然や食、伝統 文化を生かした観光振興 観光客数 125万人	観光客数:114万人 宿泊者割合:3.4% HPアクセス数:13%増 近年、大幅な増加傾向にある訪日外国人観光 客の集客のため、海外の雑誌編集者や番組制作 者を招いて酒蔵ツーリズム等を実施した。H31年 度からカーシェアリングを導入したが、台数が2台 に限定されており、村並・山並の観光を可能とするた め二次交通の整備が必要。今後更なる訪日外国 人誘客のため、パンフレット等の多言語化を進め るとともに、引き続きFAMトリップを実施してい きたい。	△	町並・地域 振興課
			宿泊者割合2%		○	町並・地域 振興課
			HPアクセス数 前年度比10%増		○	町並・地域 振興課

自然	2 自然資源や景観を活かした地域づくり	材し② のた環 受鏡境 け光を 入や活 れ人か	小田深山活動 参加者数 7,000人	参加者:2,100人 悪天候のため中止となったものもあった(300人程度の減)。新たに企業と連携したキャンプ事業も行った。深山荘の閉鎖により年間7,000人程度の入込客の減がある。	×	小田支所
		テ進③ ムす環 のる境 検経活 討済動 シを ス推	未利用材を活用した経済循環 木質バイオマス等の活用 500t	木材取引量(木こり市場):640t 13人、延べ198台で640tの出荷があった。集荷した材は内藤鋼業に売却し、ペレット用材やその製造過程の乾燥用として活用した。	○	産業振興課
		④ 景観や生態系に配慮した環境整備	景観まちづくりフォーラム 1回	いずれも実績なし フォーラムは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。景観まちづくり表彰は広く募集を行ったが応募がなかった。	×	総務課
			優良事例・景観協力企業 などの広報 1回		×	総務課
			ふれあい事業整備の実施	シクロクロス全日本選手権が開催され、小田川を舞台に交流が広がった。散策コースの整備も完了し、河川景観も自治会や沿線住民の積極的な関わりにより美しく保たれている。	○	建設デザイン課
			空き家活用モデル事業・ 生活環境整備事業	森家、土居書店、二宮邸などにおいて活用に向けた取り組みを進めている。	○	町並・地域振興課
			木蠟資料館上芳我邸の有 料入館者数 35,000人	上芳我邸有料入館者数:14,073人 新型コロナウイルス感染症の影響を受け年度末の来訪者が激減したことにより、入館者数は減少している。一方、その間にサインの見直し等を行い、景観は向上した。	×	町並・地域振興課
	3 健全な水循環の維持と利用	① 生活排水対策	えひめAI-1の普及 HP掲載と事例紹介	実績なし 町内の認知度は向上しているが、利用は一部に留まっている。今後も啓発強化に努める。	×	環境政策室
			イベントにおける啓発 1回 以上		×	環境政策室
			下水道水洗化普及率 89.0%	下水道水洗化率:86.2%(昨年度+0.6%) 合併処理浄化槽設置:39基(うち単独槽・汲取りからの転換9基)	△	建設デザイン課
			合併処理浄化槽設置 60 基	下水道+合併浄化槽:63.2% 広報誌を活用した補助金のPR、下水道未接続世帯の多い知清・城廻地区における戸別訪問やチラシ配付を実施。水洗化率は向上しているものの目標には達していない。	△	建設デザイン課
			下水道+合併処理浄化槽 74%		△	建設デザイン課
		の② 環源 境流 保と 全河 川	町内河川美化一斉清掃と 広報 1回	町内河川美化一斉清掃:1回 肱川流域河川清掃:1回 一斉清掃は延べ3,342人の参加があり、9.1tのごみを収集した。ごみ収集量の広報掲載は未実施。	×	環境政策室
			肱川流域自治体との連携 1回		○	環境政策室

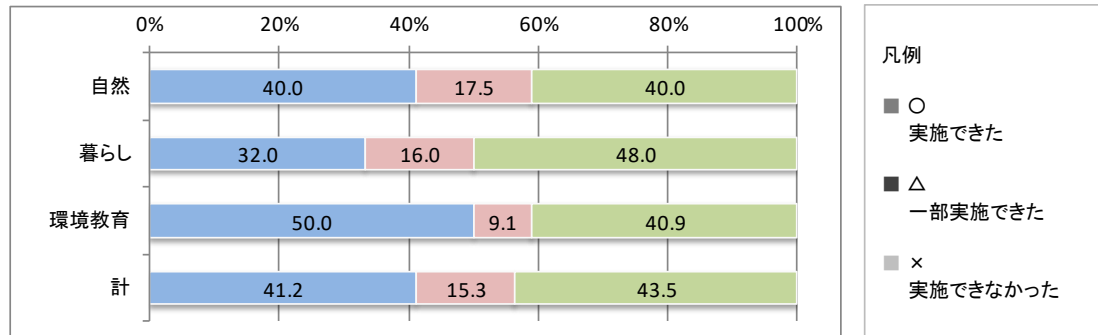
自然	の3健全な利用循環	地③水づくりに利用した	水を利用した地域づくり事業の推進 学習会・フィールドワーク年3回	実績：1回 青少年活動では、内子ふれあいキャンプを通して川と水、自然への関心が高まった。段ボールカヌーは台風や西日本豪雨の影響で中止となった。その他、自治会先進地研修にて、まちづくりと景観・環境の研修を行った。	×	内子自治センター
暮らし	1ごみの減量	①★廃棄物の減量	ごみ減量検討委員会の継続的な開催	5R推進委員会：2回	○	環境政策室
			分別にかかる啓発	個別のチラシ配布やHPを通じて周知	○	環境政策室
			ごみ排出量 626g／人・日以下(H31まで)	ごみ排出量：758g／人・日 前年度比24gの増加	×	環境政策室
			フリーマーケットの定期開催を企画	フリマ開催：環境政策室としての実績なし	×	環境政策室
			レジ袋辞退率 40%	レジ袋辞退率：未把握	×	環境政策室
		正②処理廃棄物の適	ポイ捨て等禁止の広報年1回以上	広報掲載：実績なし	×	環境政策室
			パトロール 月1回以上	パトロール：月1回以上 ポイ捨て等には個別対応、看板設置などを行っている。	○	環境政策室
	2資源の地域内循環	の①循環推進（地産地消）	地産地消率 学校 50%	学校・事業所ともに目標達成 トレーサビリティの推進や化学肥料・化学合成農薬低減の取り組みなどを町民に積極的にアピールした。	○	農村支援センター
			地産地消率 事業所 11%		○	農村支援センター
		大②（町産材の循環利用）の拡大	内子町産材利用住宅補助 12件	実績：10件（前年度比 +1） H29年度から、日本瓦以外も対象となるよう要件を緩和し、利用促進を図ってきた。林業6次化ではバイオマス発電所が完成し、売電を開始（年間800kw弱）。発電に必要な木質ペレット製造のため未利用間伐材などの原木ニーズが高まり、原木市場への出荷とは別に約8,800m³が搬出された。	△	産業振興課
		の③バイオマスの利活用	木質ペレット 製造量2,500t	木質ペレット：製造量8,000t、利用量6,500t（うち町内6,394t） BDF：製造量15,100L、利用料14,280L 木質ペレットは、バイオマス発電所の稼働に伴い製造量・利用量ともに大きく増加した。一方、BDF利用量は公用車の利用がなくなったため減少傾向にある。	○	環境政策室
			利用量2,500t（うち町内利用量800t）		○	環境政策室
			BDF製造量2万L		△	環境政策室
			利用量2万L		△	環境政策室
暮らし	内2循環の地域	大の③バイオマスの拡大	えひめAI-1の農業利用（竹堆肥） 8種類の作物で検証し、結果を随時公表	竹堆肥の検証：6種類 県農林水産研究所（ピーマン・トマト・ホウレン草）・町内農家（トマト・キュウリ・サツマイモ・ナス）との連携により実証を行ったが、特段の優位性はみられなかった。	△	環境政策室

暮らし	2 資源の地域内	利③ 活用のオ マスの 大スの	ペレットストーブの設置 3 台(H31まで)	ペレットストーブの設置:1台(対象4施設) ペレット消費量:400kg 施設面積が狭く設置が難しいため、床暖房施設 の更新にあわせて導入を検討したい。ペレット消費 量は、暖冬の影響でストーブの使用期間が短かつ たため減少した。	×	保健福祉課
			ペレット消費量 1,200kg		×	保健福祉課
	3 地球温暖化とエネルギーの地域内循環	ル① ギ★再 の生 普及 可能 エネ	公共施設等の電気消費量の5%を再エネにする	○本庁・自治センターに太陽光パネルの設置を 検討したが、実施には至らなかった。 ○小水力発電は流量観測の結果、事業化は困 難と判断。モデル地域は立川を検討したが、地権 者の同意が得られず中断している。	×	環境 政策室
			太陽光・小水力発電モデル地域 1カ所以上		×	環境 政策室
			太陽光・小水力発電の実施主体 3カ所以上		×	環境 政策室
		②省 エネ ルギ ーの 普及	緑のカーテンコンテスト 応募30件	応募:5件 応募は少ないが苗の持ち帰りは多い。	×	環境 政策室
			ライトダウンキャンペーン 2回以上	ライトダウンキャンペーン:実績なし 省エネキャンペーン:2回 省エネナビモニター:実績なし	×	環境 政策室
			省エネキャンペーン 1回	環境省によるライトダウンキャンペーンはH30年 度で終了。省エネキャンペーンは広報などで周知 を図った。省エネナビモニターは県事業が終了し ている。	○	環境 政策室
			省エネナビモニター募集		-	環境 政策室
		検③ 討適 応策 の	情報発信	実績なし	×	環境 政策室
			適応策(案)の作成	作成中。R2年度前期には完了の見込み。	△	環境 政策室
環境教育	1 子どもの学びの場づくり(内子)	①独 自の 学 びの 環 境 学 習 く(内 子)	環境子ども会議の開催と 環境副読本の活用	環境子ども会議参加児童数:320人 環境副読本配布児童数:129人	○	学校 教育課
			小田深山宿泊体験(町内 商学年生対象)	参加児童数:638人	○	学校 教育課
			子どもの環境学習会 10回	実績:10回 水やごみの分別など、環境に関する理解を深め る取り組みを行った。	○	保健 福祉課
			エコセミナー 14回以上	実績:8回 児童数の減少などによる参加定員不足や新型 コロナウイルスの影響のため、開催回数が減となっ た。	△	大瀬自治 センター
環境教育	1 子どもの学びの場づくり(内子)	②結 大人の 付く環 境学 習会(実 践)	体験型学習会 2回	体験型学習会:7回 内子未来づくりネットワークとの協働で親子参加 の観察会を開催した。	○	環境 政策室
			くらしのエコロジー掲載 12 回		○	環境 政策室
			自治会における環境活動 の推奨 取組率 86%	取組率(41自治会):65% 取組率は地域づくり補助事業(環境整備事業) の実績による。道づくりや奉仕活動も含めると は、ほぼ100%の実施。役員交代などにより活動 の定着が難しい。	△	自治・ 学習課

環境教育	1 子どもから大人まで切れ目ない学習活動の推進	②大人の環境学習会（実践に結び付く）	各自治会における環境学習会 年1回	実績：1回	×	内子自治センター
			サロンでの環境学習会 年10カ所以上	実績なし 各サロンに環境関係の学習を提案したが、学習会実施には至らなかった。	×	内子東自治センター
			各自治会におけるフィールドワークや自然観察会、環境学習会など	川まつり・筏流し、村前川ホテルを楽しむタベ、愛リバー活動など、各自治会において河川環境整備を中心に実践活動が実施できている。	○	大瀬自治センター
			センターだよりへの環境学習帳掲載 年2回以上	掲載回数：2回 R1.9月号 二酸化炭素の排出量削減 R2.2月号 暖機運転	○	小田自治センター
			自治会における環境学習会 年1カ所	実績なし	×	小田自治センター
		③様々な学習会と連動（ESD）	ESD学習会 1回以上	実績：46回 ESDコーディネーター1人を委嘱し、内子小学校を中心に幅広く活動を展開した。	○	環境政策室
			環境保全先進国の取り組み紹介	青少年海外派遣：参加団員9人、報告会1回、参加者52人	○	自治・学習課
			青少年海外派遣への参加呼びかけ	報告会にて、青少年海外派遣事業で得た先進的な取り組みなどを紹介した。また広報誌や報告書を通して情報提供を行った。	○	自治・学習課
	2 地域・自治会の環境活動の推進	①地域環境づくり	支援する自治会等 5団体以上	実績：6団体 ごみ分別学習会を1自治会で実施したほか、相談に応じてごみ分別にかかる掲示や配布物を作成・提供した。	○	環境政策室
			自治会によるコミュニティビジネスの学習会支援 2回	コミュニティビジネスの展開には至らなかったが、学習会の支援では、地域の自然をテーマに小学校などの観察会と合わせて呼びかけ、実施した。	×	環境政策室
		②コミュニティビジネスの展開	小水力発電導入 1カ所	水量調査の結果、安定した水量を確保できるカ所がなく事業断念	×	五十崎自治センター
			放置竹林での間伐、竹炭製造 年1回	実績なし	×	五十崎自治センター
			ジビエ料理の提供 年1回	実績なし	×	五十崎自治センター
	3 ネットワーク	①ネットワークづくり	内子発環境会議 参加者60人	参加者：26人 継続的に実施しているが、参加人数は目標を達成できなかった。	×	環境政策室
			・うちこ未来づくり協議会 2回	協議会の位置付けや目的があいまいで、未開催となっている。後期計画に向けて、再度会の発足を検討する。	×	環境政策室

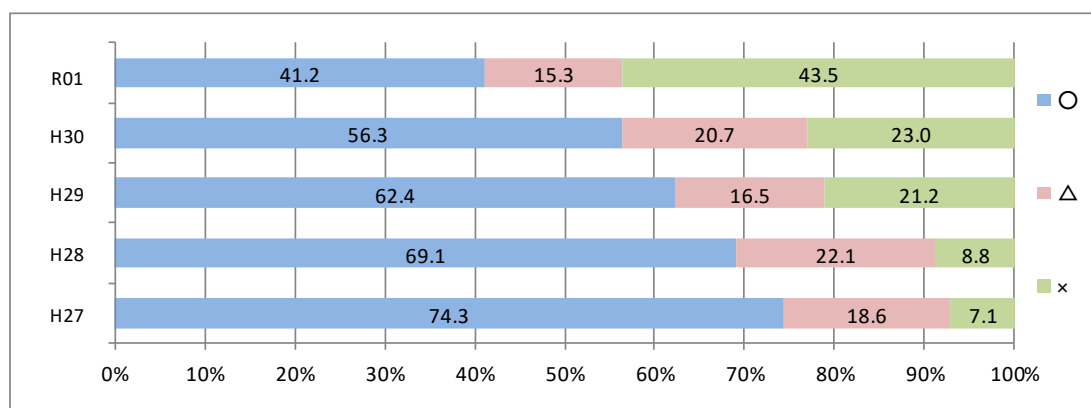
令和元年度内子町環境基本計画にかかる指数および数値目標〔実績〕まとめ

	○		△		×		—		計	
		%		%		%		%		%
自然	16	40.0	7	17.5	16	40.0	1	—	40	97.5
暮らし	8	32.0	4	16.0	12	48.0	1	—	25	96.0
環境教育	11	50.0	2	9.1	9	40.9	0	—	22	100.0
計	35	41.2	13	15.3	37	43.5	2	—	87	



目標達成率の推移

		H27		H28		H29		H30		R1	
			%		%		%		%		%
自然	○	29	87.9	22	68.8	26	70.3	24	61.5	16	41.0
	△	2	6.1	9	28.1	4	10.8	4	10.3	7	17.9
	×	2	6.1	1	3.1	7	18.9	11	28.2	16	41.0
		33	100.0	32	100.0	37	100.0	39	100.0	39	100.0
暮らし	○	9	60.0	9	60.0	12	46.2	10	38.5	8	33.3
	△	5	33.3	3	20.0	7	26.9	10	38.5	4	16.7
	×	1	6.7	3	20.0	7	26.9	6	23.1	12	50.0
		15	100.0	15	100.0	26	100.0	26	100.0	24	100.0
環境教育	○	14	63.6	16	76.2	15	68.2	15	68.2	11	50.0
	△	6	27.3	3	14.3	3	13.6	4	18.2	2	9.1
	×	2	9.1	2	9.5	4	18.2	3	13.6	9	40.9
		22	100.0	21	100.0	22	100.0	22	100.0	22	100.0
計	○	52	74.3	47	69.1	53	62.4	49	56.3	35	41.2
	△	13	18.6	15	22.1	14	16.5	18	20.7	13	15.3
	×	5	7.1	6	8.8	18	21.2	20	23.0	37	43.5
		70	100.0	68	100.0	85	100.0	87	100.0	85	100.0



(4) 環境基本計画3つのプロジェクトに関する独自目標と達成度

N	部署名		目 標	評 価	達成度
1	総務課	自然	すべての内子町分譲宅地購入希望者に対して、内子町の景観に関する取り組みを紹介する。	購入相談1件に対して、住宅建築の際の景観配慮の申し合わせについて説明を行った。	100
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙の包装紙などの使用済み用紙を利用する。	区長便発送12カ月すべての回で、コピー用紙包装紙を再利用した。	100
		環境教育	すべての内子町地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。	地区集会所指定管理者すべての方に、エネルギー調査依頼と合わせて環境配慮についての文書を送付した。	100
2	会計課	自然	2階フロアのトイレ掃除当番と湯沸かし室当番の際には、必ずえひめAI-1を使用する。	毎回使用するようにした。	100
		暮らし	買い物の際には、週1回以上マイバックを持参することし、家族等にも実践してもらうよう啓発する。	課長の配慮により、課員全員が内子町オリジナルマイバックを所持し、活用している。	100
		環境教育	指定金融機関(愛媛たいき農協)の駐在職員(1人)にも理解いただき、年間を通して環境配慮の取り組みの実践に協力願う。	1/23の大人のエコ見まわりに合わせて環境自治会基本方針について説明し、町の取り組みを再度確認いただいた。	100
3	住民課	自然	地域の環境活動へ少なくとも1回以上参加し、職員参加率100%を目指す。	1回以上、参加した。	100
		暮らし	昼食を買いに行く際の買い物袋持参率を85%以上にする。	買い物袋を持参するように呼びかけ、取り組んだ。	85
		環境教育	職員研修に年1回以上参加し、職員の全体的なレベルアップを図る。	研修会前に回覧等で周知して参加を働きかけ、環境教育に取り組んだ。	85
4	うちこ福祉館	自然	えひめAI-1利用促進のため週1回程度、トイレ掃除の際などに利用する。	週1回程度、トイレ掃除の際などに積極的に利用した。	100
		暮らし	機能回復訓練室南側窓において、緑のカーテンを19㎡実施する。	緑のカーテンを設置し、おおむね19㎡をカバーできた。生活の中のできる環境対策の啓発を目的として、福祉館だよりに掲載した。	100
		暮らし	わいわい喫茶で発生したコーヒーのガラは、すべて肥料として使用する(最大12回)	すべて利用できた。(3月は館利用休止となったため、計11回)	100
		暮らし	健康講座、わいわい喫茶などの調理時に出た廃油は、すべてサン・ラブを通してリサイクルに努める。	すべてサン・ラブに回収を依頼し、リサイクルに努めた。	100
		環境教育	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し100%記入率を目指すと同時に、環境配慮の実践を指導・徹底する。	100%の記入率を達成した。環境配慮の実践を指導・徹底した。	100
		環境教育	城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回館周辺のプランターに植栽を実施する。	年2回実施(マリーゴールド、葉ボタン)	100

5	参川福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際には月2回えひめAI-1を使用する。館内外2カ所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、えひめAI-1を玄関に常備し、来館者や周辺地域住民にもさらなる利用を呼び掛ける。	調理室やトイレ清掃の際に月2回えひめAI-1を使用した。館内・館外の2カ所にパンフレットを掲示するとともに、えひめAI-1を玄関に常備し、来館者や周辺地域住民に利用を呼び掛けた。	100
		暮らし	調理室の使用で出た生ごみは、すべてランターで堆肥化し、ごみの減量化に努める。	すべてランターで堆肥化し、ごみの減量化に努めた。	100
			室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室窓すべての緑のカーテンを2m設置する。来館者や地域住民にも呼び掛ける。	事務室窓全部を対象に「緑のカーテン」を2m設置した。また、来館者や周辺地域住民にも呼び掛けた。	
		環境教育	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者および周辺住民に啓発する。	年2回以上掲示し、利用者や周辺住民に対し啓発を行った。	100
			館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、内子町および参川福祉館の環境に関する取り組み等について説明する。	館利用団体の人権学習会、健康教室、サロン、子ども会活動等で1回以上、内子町および参川福祉館の環境に関する取り組みについて説明した。	
6	税務課	自然	所属自治会(地域づくり担当職員を含む)の地域づくり計画書に掲げる環境保全活動や自然災害防災活動の参加率を100%にする。	課職員全員が活動に参加することができた。	100
		暮らし	年間を通じて、納税通知の封筒に啓発やお知らせを直接印刷するなど、用紙の使用量を減らす工夫をする。また裏面利用が可能な用紙は、必ず裏面を印刷・メモ用紙等に利用し、節約に努める。	納税通知発送の際、お知らせのチラシを両面印刷にするなど工夫した。両面コピーの徹底など、用紙の節約に努めた。	100
		環境教育	町内小・中学校で開催する租税教室のすべてにおいて「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ、環境保護に役立てられている事実を児童・生徒に伝える。	31年度実施の租税教室においてすべての会(中学校4校、小学校4校)で実施できた。	100
7	保健福祉課	自然	車を利用する場合、軽自動車・ハイブリッド車の利用量を全体の80%以上にする。	課所管の軽自動車3台を主に使用し、他はハイブリッド車を使用するなどしたため、利用量を80%以上とすることができた。	100
		暮らし	機密文書を破棄する場合、焼却処理を減らしシュレッダー処理率80%以上を心がける。	焼却処分していた認定審査会資料をシュレッダー処理に変更するなどしたことにより、処理率80%以上を達成することができた。	100
		環境教育	提示期間を過ぎたポスターをすべて保育園・児童館などで利用してもらう。	保育園・児童館にて有効活用できた。	100

8	地域医療健・康 増進センター	自然	湯沸かし室(週1回)、調理室(使用時)の清掃の際にえひめAI-1を利用する。	昨年から継続して実施できているが、週1回の実施は達成できなかった。	60
		暮らし	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用する。	常時セットし、使用できた。	100
		環境教育	年間を通じて、健診通知時の封筒や健康教育の資料に独自のエコイラストを使用する。	封筒や配布資料にエコイラストを使用できた。	60
			2カ月児育児相談にて、内子町環境基本計画に関する資料を必ず配布し、説明する。	資料を配布することはできたが、説明は十分にできなかった。	
9	建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を自治体などの民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。	自治会や各種団体と連携して、ミニ小田川と郷ノ谷川にて除草等の清掃活動を行った(年2回)。また「はらっぱ基金」を活用し、豊秋河原の木の保全を実施したほか、小田川の生物調査を行うなど、環境に関して理解を深める活動を行った。	100
		暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、1施設の公共建築物の木造化を推進する。	建築物の更新に関して、町産材を使用した木造建家の建築を行った。(五十崎中央自治会館)	100
		環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対してえひめAI-1の効果を紹介し、利用促進および消費量の増加を図る。また合併浄化槽を新設する場合に対しても同様とする。	上下水道・合併浄化槽の手続きの際に、えひめAI-1の説明を行った。(実施件数:39件)	100
10	環境政策室	自然	他の部署の自然プロジェクトを1つ以上サポートする。	元気わくわく川まつりにおいて、体験ブース等のサポートを行った。	100
		自然	住民団体等と共同し、生き物観察会や保全を2回以上実施する。	うちみづネットと協力し、生き物観察会を8回実施した。	100
		暮らし	他の部署の暮らしプロジェクトを1つ以上サポートする。	内子保育園児による園外でのエコ見回り隊のサポートを行った。	100
		暮らし	ごみ処理に関する資料を作成し、年度末までに1回町民に配布する。(ゴミ収集日程表に添付)	12月の回覧でゴミ収集日程表と一緒に全世帯へ配布した。	100
		環境教育	他の部署の環境教育プロジェクトを1つ以上サポートする。	保育園等において、エコ学習会や資料提供などのサポートを行った。	100
		環境教育	自治会や環境団体が参加する内子発環境会議を年1回開催する。	11/30うちこ発環境会議を開催。食品ロスの削減について講演およびグループワークを行った。	100
11	内子総合窓口センター	自然	えひめAI-1を年間50本以上住民に配り、環境保全に努める。	サン・ラブによって窓口に定期的に補充され、多くの住民が利用している。	100
		自然	分庁駐車場に植えてあるしだれ桜の育成に努める。	年間を通じて剪定等を行い、育成している。	100

11	内子総合窓口センター	自然	内子高校・身体障害者更生会と協力し年2回、分庁や周辺の美化活動を行う。	年2回、庁舎敷地内および周辺の美化活動を実施した。	100
		暮らし	サン・ラブ配布のゴーヤ苗や収穫していた朝顔の苗を使用して、緑のカーテンを5m以上設置する。	予定どおり設置することができた。	100
		暮らし	サン・ラブ協力のもとゴーヤ等の苗を200株以上配り、緑のカーテン事業の普及に貢献する。	ゴーヤ・ふうせんかずら・ユウガオを目標以上に配布することができた。	100
		暮らし	毎日、水道メーターをチェックして漏水の有無などを確認し、節水に心掛ける。	毎日チェックし、適切に管理した。	100
		環境教育	転入の際にゴミの出し方・分別方法を必ず説明する。	全ての転入者に口頭で説明している。	100
12	町並・地域振興課	自然	泉谷の棚田で行われるイベントを通じ、300人余の参加者に棚田の大切さを実感していただく。	イベントに300人ほどの参加があり、棚田の大切さを実感していただくことができた。	100
		暮らし	年間を通じて、休憩時など業務に支障がない範囲で電気の消灯に努める。また裏紙利用による紙の節約に努める。	年間を通じて節電・節約に努めることができた。	100
		環境教育	4施設（内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸・風博物館）で、環境に関する資料を掲示し利用者の意識啓発を行う。	4施設に掲示し、意識啓発に努めた。	100
13	八日市・護国町並保存センター	自然	年30回以上、木蠟資料館上芳我邸において、内子発祥と伝わる「伊予式蠟花箱晒法」を再現した蠟晒し体験を実施し、地元住民や来館者に環境負荷の低い木蠟の生産方法、使用用途などを伝える。	生蠟の生産不足のため実績20回となり、目標は達成できなかった。ただし遠足や社会科見学など特に子どもに対しては解説・体験を行うなどして、継続して理解や興味の喚起に努めた。	80
		暮らし	町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに来訪者に伝える。	昔ながらの笹飾り(8月)、観月会の月見団子作り(10月)、芋炊き(10月)、どんど焼き(1月)を実施し、地区内外から多くの参加を得た。	100
			年1回以上、八日市・護国町並保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行う。	保存センターで通年、伝統工法の環境負荷の低さを伝える展示を実施している。また町内小・中学校の依頼を受け、伝統工法や町並み保存に関する解説を行った。(計4回)	
		環境教育	年2回以上、内子中学校を対象とした蠟搾り体験学習、来訪者を対象とした木蠟に関する体験学習を実施し、内子の木蠟産業の歴史とともに環境負荷の低い木蠟の良さを伝える。	蠟搾り体験(2回)のほか、内子保育園児の参加を得て、ハゼノミの収穫作業やクレヨン作り体験を行った。長期休みには月1回、クレヨン作りや蠟染めのワークショップを開催し、啓発に努めた。	100

14	ビジターセンター	自然	小田川や小田深山渓谷の自然環境や伝建地区をはじめとする内子独自の景観を活かした誘客に関わる内容を、 年2件 は既存の事業に盛り込む。また環境をテーマにした視察対応の要請が生じたときは、環境政策室や関係機関と連携した独自のプランで受け入れる。	観光協会とも連携し、内子の自然環境や景観を生かした事業を行うことができた。	90
		暮らし	温暖化対策・省エネルギーの普及として、 3キロ圏内 の移動手段は、なるべく自転車を利用するように努める。	できるかぎり努めたが、天候不良時などは車を利用したこともあった。	80
		環境教育	ドイツフェスタや食のイベントでは 必ず マイコップの推進やごみ分別を行う。また地域諸団体と協働で行う事業については、自然美の見せ方や付き合い方を学び、その内容を公式観光サイトで広く発信する。	マイコップの推進やごみの分別を行うことができた。	95
15	産業振興課	自然	森林保全と地域活性化を目指し、木こり市場での木材取り扱い量の 現状維持 を目指す。	出荷予定500tに対し640tと、目標の1.28倍を達成することができた。森林整備を推進し、地域商店の活性化に寄与した。	100
		暮らし	JAと協力して廃プラスチックやビニールを回収し、廃プラスチック取り扱い量の 現状維持 を目指す。	現状維持を達成した。	100
		環境教育	農業委員会定例会において、 年1回以上 、啓発資料を用いて、環境問題について学習を行う。	1月定例会でごみダイエツ宣言のパンフレットを配布し、内子町のごみ処理状況等を説明した。	100
16	学校教育課	自然	年1回 、小田深山宿泊体験(町内小学5年生対象)を実施し、小田深山の自然について体験学習し、その内容を各家庭まで広げていく活動を行う。	8/27-30にかけて、3団体に分かれ1泊2日で宿泊体験を実施。111人が参加し、小田深山の自然の豊かさを体感するとともに、ふるさと内子の良さを学習した。	100
		暮らし	ノーマイカーデーを 月1回以上 実施する。	遠距離通勤の職員が多く月1回の実施は困難であったが、懇親会などがある日は乗り合わせに努めた。	50
		環境教育	年1回 、環境子ども会議の実施により町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る	小・中学生320人が参加し、森林保全やバイオマス発電などに関する講演を通して、林業を中心とした環境保全について学んだ。分科会では11のブースに分かれ、身近な題材を用いて環境学習を行った。	100
		環境教育	環境副読本の活用を図り、 年1回以上 、学級便り等で家庭へ情報を発信するとともに、研究を深める。	新4年生全員に副読本を配布した。また学校単位で情報発信を行った。	100

17	自治学習課	自然	環境・景観保全や自然を生かした事業など、自然と共存していくための地域づくり事業の実施を、自治センターを通じて年1回以上、各自治会へ呼びかける。	各自治センターの管内連絡会において、それぞれ呼びかけを行った。	100
		暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸・マイコップ、リユース食器、備品使用を推進する。(推進率30%)	ALTウェルカム・フェアウェルパーティー参加者にマイ箸・マイコップの持参をお願いした。また可能な限り会場施設の備品を利用した。	100
		環境教育	青少年海外派遣事業を通じて、ドイツなどの環境保全先進国で得た取り組みを紹介する機会を年2回以上つくり、町内への拡大を図る。	本年度は環境テーマを選択した派遣生はいなかったが、事前研修で環境に関する情報を提供し、研修中はスーパーでデポジット制度について学ぶ機会などを設けた。報告会は、一般町民を含む52人の参加があった。	—
18	議会事務局	自然	年間を通じて議員への資料提供は極力両面印刷物を配布する。	可能なものは両面コピーして配布した。	100
		暮らし	会議時の弁当はすべて、リユースできる弁当箱使用の業者へ依頼する。	すべてリユースできる弁当箱使用の業者へ依頼した。	100
		暮らし	年間を通じて、議会後の懇親会では、「20・10運動」を実施する。	懇親会が始まる前に必ず呼びかけをした。昨今は呼びかけをしなくても運動が広まってきた。	100
		環境教育	議場見学に訪れる小・中学生に対し、課の環境に関する取り組みを1回以上説明する。	内子小学校3年生が見学に訪れた際に、議会やまちづくり、環境活動について説明した。	100
19	小田支所	自然	小田深山ふれあいの森の緑化推進(広葉樹植栽の実施)、年1回以上	3月に開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止になった	0
		自然	自然体験型イベントの実施、年3回以上	ワンツーツリーフォレスト、笠取山ウォークなどの体験型イベントを複数回開催することができた。	100
		暮らし	緑のカーテンの推進(苗の配布)と小田支所における実施。苗の配布100本以上	緑のカーテンに興味を持っている人も多く、小田高生も取り組んでいると聞く。苗の配布も盛況である。	100
		暮らし	えひめAI-1の配布、年間150本以上	補充があるとすぐに無くなる状況が続いており、在庫がないことも多いような状況だった。	100
		環境教育	すべての転入者への環境基本計画取り組みの周知・資料配布	パンフレットは配布しているが、計画の細かいところまでは説明していないのが現状である。	80
		環境教育	すべての転入者へゴミの分別を周知し、実践をお願いする。	ごみの分別等の説明を行っている。	100
20	内子保育園	自然	子どもたちと一緒に作った腐葉土を年3回の土づくりに利用し、畑での野菜作りに継続して活用する。	腐葉土が乾燥してしまい活用することができなかった。腐葉土作りの環境を見直し、来年に生かしたい。	50

20	内子保育園	自然	子どもと一緒に園の畑で野菜を栽培し、収穫した野菜を 毎回 給食で活用する。	収穫した野菜は給食で活用した。次は腐葉土作りから栽培、収穫まで通して行えるようにしていきたい。	80
		自然	4期に1回以上 小田川、町並みに散策に行き、清掃活動や自然観察に努める。	定期的な散策活動を実施し、身近な自然について意識を高めることができた。	100
		暮らし	毎月1回 「クリーンデイ」を設け、園の美化に努める。その際、集めた草葉は腐葉土作りに活用する。	定期的な実施ができず、不定期になった。腐葉土作りはビニールシートを用いて行っていたが、乾燥してしまい、思うようにできなかった。	60
		暮らし	アルミ缶・廃油の回収日を 月2回 設け、地域や保護者に呼び掛けながら回収する。	たより等で呼びかけを行った。少しずつ周知も広がり、協力体制も深まっていると感じる。継続していきたい。	80
		環境教育	エコに関する集会を 年間5回以上 開催し、楽しみながらエコ活動を推進する。	年長児を中心に年間5回以上のエコに関する集会を行うことができた。活動としても盛り上がりを見せており、継続していきたい。	100
		環境教育	野菜や草花の世話や栽培、自然探索や清掃活動などを通じて子どもの気付きや成果を、年に 1回以上 報告する機会を設ける。	定期的な散策活動を実施することができ、幼児教育としての環境学習に手ごたえを感じている。エコ推進についてのアプローチもさまざまな方法があることを感じた。	100
21	五城保育園	自然	畑で栽培した野菜は、園児と一緒に収穫・調理をしたり、給食の食材としたりし、 年7回以上 、食育の時間を設ける。	園児と一緒に野菜を育て、収穫した野菜を給食の材料にしたり、食育教室に取り入れたりした。また調理師の話を聞いたり、栄養士と一緒に調理をしたりする時間を設けた。	100
		自然	朝顔やゴーヤで緑のカーテンを 15㎡ 作り、電気代の削減に努める。	朝顔やゴーヤ、キュウリで15㎡の緑のカーテンを作った。緑のカーテンの内側は涼しかったが、猛暑だったため電気代の削減には至らなかった。	80
		自然	夏場はプール遊びの日とウォータースライダーの日を決めたり、プール遊びで使った水は畑や花壇の水やりに 毎回 利用したりして、水道代の削減に努める。	熱中症予防のためウォータースライダーは行わず、プール遊びのみ行った。使用した水は毎回、畑や花壇の水やりに利用し、水道代の削減に努めた。	100
		暮らし	畑や花壇で栽培する野菜や花の種苗は、アルミ缶回収で得た収益金で購入する。 (年2回以上)	アルミ缶回収で得た収益金で年2回購入した。	100
		暮らし	年間を通して 家庭で出た廃油を回収して廃油石鹸を作り、希望者に配布する。	年間を通して廃油石鹸を作り、希望者に配布している。	100
		暮らし	年1回 、保護者と連携して家庭で不要になった物を東自治センター文化祭のフリーマーケットに出品し、資源の循環を目指す。	保護者と連携してフリーマーケットに出品し、資源の循環を目指した。	100

21	五城保育園	暮らし	毎月20日を「みんなできれいデー」とし、園児と共に園内の掃除や草引き、散歩時のゴミ拾いなどを行う。実施日には反省・評価を記入し、目標達成に努める。	毎月20日の「みんなできれいデー」に掃除や草引き、石拾いなどを行ったが、毎月の反省や評価ノートの作成はできなかった。	80
		暮らし	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園を行う希望者に配布したりして、すべてリサイクルする。	すべてリサイクルした。	100
		環境教育	年長児が「ぎゅっと君」となって、園内の水・電気・ミックス紙のエコ見回りを週1回(金曜日)行い、その活動の様子などを「エコ便り」や「園内掲示板」で年1回以上紹介する。	「ぎゅっと君」のエコ見回りは行えなかったが、各クラスでミックス紙と資源ごみの分別、水や電気などの節約に努めた。エコ便りの配布は行った(年1回)が、園内掲示板の活用はできなかった。	50
		環境教育	年長児が内子東自治センターへエコ見回り隊に行ったり、散歩の際にはゴミや空き缶などを拾い分別したりして、年1～2回エコに対する興味・関心を持つ機会をつくる。	猛暑や新型コロナウイルス感染症予防で散歩を控えたため、ゴミ拾いは行えなかったが、日頃からエコや環境美化に対するの興味や関心がもてるように関わった。	50
22	大瀬保育園	自然	年5回以上自然と関わり、生き物・植物・気候などに触れた活動を通して自然の大切さを知り、遊びや生活に活かす。	漁協組合と一緒に、小田川で泳いだり生き物を採ったりする川遊び体験を行ったほか、毎日、年長児の当番が飼育中のサワガニやウグイなどに餌やりをしたり、畑の野菜や花に水やりをしたりした。	80
		暮らし	廃材を保育に取り入れ、月3回以上再利用をする。	家庭から持ち寄ったり、園で出たりした廃材(空き箱や卵パック、牛乳パック、プリンカップなど)を集めて仕分けコーナーを作り、工作遊びなどに使用した。	100
		暮らし	友達と一緒に野菜を作り、年2回、自分たちで料理も作り食えることにより、生命のつながりを知り、感謝の気持ちをもつ。	畑でミニトマト・ナスビ・パプリカ・オクラなどの野菜を育て、給食に入れたり、自分たちで塩もみにしたりして食べた。保護者にもらった稲苗を育て、収穫して割りばしで脱穀したり、すり鉢で粳摺りをしてきた米1合を炊いて食べた。	100
		暮らし	年2回大瀬の浄水場を見学する。	実施できなかった。	0
		環境教育	年2回、エコ集会をする。	エコ集会は1回の実施となった。紙のリサイクル、水の大切さについて子どもたちと話した。	50
		環境教育	エコ見回り隊を週1回実施する。	週1回には至らなかったが、年長児が各部屋の紙のリサイクル箱を集めて確認し、分別した。	25

22	大瀬保育園	環境教育	エコ活動の実践の様子を 年2回 掲示し、保護者に知らせる。	毎月のクラスだよりで、子どもたちの活動と合わせて、地域との交流や自然と関わる姿を伝えた。エコ便りとして出していないので、来年度は検討したい。	50
23	こばと保育園	自然	年間を通して えひめAI-1を水やりに使用し、野菜や植物を栽培する。	野菜の水やりなどにえひめAI-1を使用することができた。	90
			ミニ小田川や龍王公園での体験活動を 年間通して 行う。	年間を通して、季節の変化を感じたり、自然物に触れたりする機会を設けた。	
		暮らし	年間を通じてポスターを掲示し、ペットボトルやアルミ缶の回収を呼びかけ、保護者の協力を得ながらエコ活動を継続していく。	以前のポスターをそのまま使用し、呼びかけを継続した。	70
			年3回以上廃材や空き箱などを製作などに利用し家庭にも再利用の情報を提供する。	空き箱などの廃材を分別できるボックスを設置し、環境を整えた。また園行事を通じて空き箱を使った製作を行い、家庭に持ち帰った。	
		環境教育	年2回 、保護者や地域に向けてエコだよりを発行する。	予定どおり発行できた。	100
			紙の分別箱を作り意識付けを行う。(2カ所)	分別箱を設置したり、分別ゲームをしたりして、意識付けを行った。	
24	くるみ保育園	自然	年10回 、戸外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり、遊びに活用したりして親しめるようにする。	散歩に出かけて季節の移り変わりや景色の変化に気づくことができるように関わり、子どもたちの発見を大切にできた。また草花や枝、木の実などを採集し、室内飾りや製作に活用した。	100
		自然	子どもたちと一緒に夏野菜を育て、収穫した野菜は その都度 給食やクッキングで活用する。	キュウリ・ナス・オクラ・ミニトマトなどを、子どもたちが主体的に栽培した。収穫した野菜はできるだけ給食で活用した。	80
		自然	風船蔓、ゴーヤ、夕顔でグリーンカーテンを 45㎡ 作り、日よけとして活用する。	職員室、幼児組、乳児組の前に、ヘチマ・風船カズラ・ゴーヤ・夕顔などでグリーンカーテンを作り、活用した。	100
		暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルのキャップの回収を 月1回 実施する。	毎月15日をエコの日と定めて廃油等の回収を実施。保護者にも定着しつつあり、エコの日に限らず対象物を持ち寄る人が増えている。	100
		暮らし	給食で出た野菜や果物の皮は すべて 、近所の農家に肥料として提供する。	すべて近所の農家に肥料として提供した。	100
		暮らし	毎月15日 をエコの日(作業デー)とし、異年齢児のグループで協力して園内外のごみ拾いや草引きなどを行い、エコ活動に取り組む。	毎月15日は3・4・5歳児の縦割り保育で過ごす活動を取り入れ、草ひきや石拾いなどを中心に行った。	100

24	くるみ保育園	環境教育	エコだよりを 年2回以上 発行したりエコ活動の様子を掲示したりして保護者や地域に知らせ、啓発する。	エコだよりを1回しか発行できなかった。	50
		環境教育	誕生会のプレゼントや手作り玩具などは、できるだけ廃材を利用して作り、それらを活用する。	牛乳パックで写真立てを作り、誕生者にプレゼントした。各クラスでは廃材で自由製作を楽しんだ。	100
		環境教育	年間を通じて 地域の産業に関心を持てる環境を整え、エコ意識につなげていくように工夫する。	地元企業の昭和刷子を見学。歯ブラシの大切さに気づいたり、扱い方に気をつけたりする姿が見られるようになった。	100
25	石畳へき地保育園	自然	年間を通して 散歩に行き、身近な自然にふれたり観察したりする。	散歩や川遊びを通して身近な自然に十分に触れ合うことができた。	60
		自然	地域のゴミ拾いを 年4回以上 実施する。	1回しか実施できなかった。	
		暮らし	年間を通して 、空き容器を利用して製作したり、自然物を遊びに取り入れたりする。	空き容器を使ってボーリングなどを創り、楽しく遊ぶことができた。	80
			年間を通して 、牛乳パックをため洗いし、リサイクルにつなげる。	園だよりを通してリサイクルを呼びかけることができた。	
			年間を通して 、保護者に積極的に呼び掛け、アルミ缶や廃油を回収し、リサイクルにつなげる。	園だよりを通してリサイクルを呼びかけることができた。	
		環境教育	「エコだより」を 年2回 配布し、子どもたちの取り組みを家庭に紹介する。	1回しか配布できなかった。	60
			年3回以上 、環境に関する絵本や紙芝居の読み聞かせをする。	年5回、環境に関する読み聞かせができた。	
26	内子児童館	自然	トイレや流しには週1回、植物への灌水には適宜、えひめAI-1を使用する。	定期的な使用はできなかった。	50
		暮らし	月1回 程度クリーン活動を行う。	定期的な活動はできなかったが、毎朝の掃除や時間のある日中などに意識して環境整備を行った。	80
			年間を通じて ペットボトルのキャップ回収を行い、児童館便りで 年2回以上 報告する。	年間を通して回収を行い、活動報告に掲載した。	
		環境教育	エコに関する情報を児童館便りや館内に、 年1回以上 掲載する。	エコ見回り隊の活動について掲載した。	90
			子どもたちと一緒に 年3回 、野菜や花の栽培を行う。	児童クラブの子どもたちと季節の野菜や花を栽培し、収穫した野菜を使ってクッキングなどの体験活動を実施した。	
27	五十崎児童館 きらり	自然	廃材や廃品を使った製作活動を 年2回以上 行い、笹飾りに利用したり親子クラブでの製作活動に利用したりする。	内子笹飾りに廃材を利用した作品を作った。親子クラブのお店屋さんごっこの商品を廃材で作り、遊んだ。	90
			プランターの水やりにはえひめAI-1を入れ、プール遊びに使った水を 全て 利用する。	えひめAI-1を毎回利用することはできなかった。プールの水を使って野菜を栽培した。	

27	五十崎児童館 きらり	暮らし	21㎡以上のふうせんかずらやゴーヤを植えてグリーンカーテンを作り、電気代の節減につなげる。	ホール・事務室の窓にグリーンカーテンを作ったが、猛暑のため電気代の削減は難しかった。	90
			年間通して月1回のクリーン活動を行う。その中で児童館周辺・地域のゴミ拾いを3回以上行う。	毎月1回以上のクリーン活動を行い、近隣公園のゴミ拾いを兼ねて清掃した。	
		環境教育	アルミ缶・廃油ペットボトルキャップの回収を続けていく。年6回以上月1回のきらり通信でお知らせしたり、掲示したりして地域の人にも協力をお願いする。	きらり通信でのお知らせは年1回となったが、室内外に掲示して地域住民の協力を得ることができ、回収量は前年度よりも多かった。	90
			児童クラブで年1回以上環境学習会を実施し、資源の大切さを知らせたり物を大事にすることを伝える。	夏休みを利用してバイオマス発電所の見学を行った。また森林組合女性林業研究グループの協力の下、玉ねぎの皮を使用してハンカチの草木染を行った。児童のリサイクル意識が高まった。	
28	内子子育て支援センター	自然	施設周辺の清掃を週3回以上実施する。 ゴーヤのグリーンカーテンを10m設置する。	清掃、グリーンカーテンの設置ともに目標を達成できた。ゴーヤの実はいは来館者に差し上げた。また種を取り、次年度ゴーヤを作る予定。	80
		暮らし	来館者や利用者に呼びかけ、年間6kgのペットボトルキャップの回収に努める。 年間を通じて、利用者向けに子ども用品のリユースの仲介を行う。 乳幼児学級、親子教室、来館者の親子を対象に、身近な素材・廃材（トイレトーパーの芯、牛乳パック、紙皿、空き容器等）を使っておもちゃや子育てに使える物を作る活動を年1回以上実施する。	ペットボトルキャップ回収は5,560gと6kgに満たなかった。館でペットボトルの使用を控えたことや、来館者に回収が根付いてなく、もっと声かけが必要であると感じた。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、館利用を控えてもらったことも理由にあげられる。 月1回子ども服などのリユースを実施し、利用者にとっても好評だった。 グリーンカーテンを再利用してクリスマスリース作りを行った。	95
		環境教育	親子教室（小田地区）で、内子産の野菜を使った料理を作る活動を年1回実施する。	内子産の野菜を使って、料理教室やおやつ作りを実施した。	100
29	障害者地域活動支援センター かいと	自然	月1回程度行っている施設のレクリエーションのうち、年3回は自然に親しむような内容（お花見・茶摘み・釣りなど）とする。	家族会旅行でカツオの薫焼き体験（高知県黒潮町）、お楽しみ会で双海シーサイド公園訪問など、自然に親しむ活動ができた。	100
			公衆トイレ清掃に行く時に、毎回施設周辺のゴミ拾いを行う。	トイレ清掃の行き帰りに目立ったごみを拾っている。	
		暮らし	年間約8回のイベントでの自主製品販売のうち、4回は材料の1つに内子町産の物を使い販売する。（ラベルに内子町産と記載）	内子産のブルーベリーやリンゴを使用した菓子を販売した。	100
		環境教育	月1回は朝礼か終礼の際に、エコに関する情報、取り組みについての話題提供を行う。	朝終礼に廃油石けんなどの話題提供を行った。一人暮らしの利用者のごみ分別の相談にのった。	100

30	内子幼稚園	自然	月2回以上園外に出かけ、身近な自然や生き物に触れ、親しみをもって関わる。	月2回以上は園外に出かけ、さまざまな生き物に触れたり、観察したり、飼育したりして、親しみを持って関わる事ができた。	90
		自然	年間を通じて草花遊びを通して、草花の名前を知ったり自然物を使って遊んだりして、内子の自然に親しむ。	季節の草花を探したり図鑑で調べたりして、草花図鑑を作った。図鑑を持っていくことで、自然物への興味が広がった。地域のサポーターの方々に草花での遊び方を教えてもらったり、七草探しに行ったりして、自然物の名前だけでなく、地域のことも知ることができた。	90
		自然	年間を通じて水遊びで使った水を、野菜や花の水やりとして再利用する。	水遊び後の残り水を、花壇や野菜の水やりにも使用したが、継続して再利用することができなかった。	80
		暮らし	年間を通じて年長児を中心にエコ隊活動に取り組み、水や電気の節約を心掛けて生活する。	年長児を中心にエコ隊活動を行うことができた。活動を通して、自分たちで水や電気のつけっぱなし・出しっぱなしになっていないか気を付けるようになった。	80
		暮らし	給食で飲んだ牛乳パックをため洗いですべてリサイクルする。	年間を通して、毎日飲む牛乳パックをリサイクルすることができた。	100
		暮らし	年間を通じて廃材を遊びや生活の中で使ったり分別したりして、再利用する大切を伝えていく。	家庭から廃材を持ってきてもらい、製作遊びに利用した。テーブルなどを使うときは必要な量だけ使うように教師が声をかけ、無駄遣いにならないように意識して生活できた。	80
		環境教育	年2回エコだよりを発行し、幼稚園でのエコ活動を伝えたり家庭でもエコに意識を持ってもらったりする。	年2回エコだよりを発行することができた。身近な自然を取り入れた活動の様子やエコ学習会などについて写真を入れて伝え、園でのエコ活動を知ってもらうことができた。	80
		環境教育	エコについての読み聞かせやエコ学習を学期に2回行う。	読み聞かせやエコ学習会を行うことができた。ただし学期に2回行えない時もあったため、計画と準備を整え、目標を達成できるようにしたい。	70
31	立川幼稚園	自然	野菜や植物の栽培を行い、年間を通じてえひめAI-1を水やりを使用する。	野菜や植物の栽培はできたが、水やりにえひめAI-1を使用する回数が少なかった。	75
		暮らし	年間を通じて廃材を製作や保育活動に使用する。家庭にも廃材の再利用を呼び掛ける。	家庭から持ってきてもらった廃材で、片付け遊びや製作をして楽しむことができた。	90
		環境教育	年間を通じて自然保護の大切さを絵本や紙芝居などの教材、散歩などの活動の中で伝えていく。	地域の方と一緒に散歩に行き、自然物を集めたり、自然物を使って遊ぶことができた。	90
		環境教育	年1回環境マイスターを招き、自然保護の学習をする。	環境マイスターの方に来ていただき、近くの川の事について学習することができた。	90

32	五十崎幼稚園	自然	年間を通し、トイレや流し台の排水口にえひめAI-1を使用する。	忘れていることも多く、あまり利用することができなかった。	50
		自然	年間を通し、牛乳パックのため洗いの方法を知らせ、水を大切に使う。	容器に水をため、その水を利用して牛乳パックを洗うことができた。また水道の使い方をイラストで示し、適切な水の量を知らせた。	100
		暮らし	使用済みの天ぷら油を、年間1～2缶、保護者や地域の方と協力しながら回収する。	地域の方が使用済みのてんぷら油を持ってきてくれたため、1缶と半分くらい回収することができた。	80
		暮らし	園で保存していた種を使用し、グリーンカーテンを10㎡作る。	アサガオとルコ草の種を利用して、10㎡以上のグリーンカーテンを作ることができた。	100
		環境教育	年6回のクラスだよりでエコ活動の記事や写真を載せ、各家庭に配布し、エコ意識を共有できるようにする。	廃材や自然物を使った子どもの作品を載せ、保護者の方にも園での取り組みを伝えることができた。	90
		環境教育	年長児を中心に月1回程度散歩に出かけ、身近な動植物に触れ、観察したり飼育したりする。	散歩に出かけられない月もあったが、年間12回以上出かけ、自然物に触れながら、遊ぶことができた。	90
33	小田幼稚園	自然	地域と連携して、小田地域の自然・川遊びに関する体験活動を年1回以上する。	実施することができた。	100
			月1回程度散歩に出かけ、地域や自然に親しむ。	年間12回以上散歩に出かけ、自然物を見たり拾ったりして親しむことができた。	
		暮らし	年1回以上、廃材や廃品の回収を家庭にも呼びかけ、子どもたちの製作材料にする。	園だよりなどで廃材の回収を呼びかけた。集まった廃材は子どもたちの遊び製作に活用した。	80
			給食の牛乳パックは、ため水洗いをして集め、すべてリサイクル回収に出す。	給食の牛乳パックはすべてリサイクルに出すことができた。	
		環境教育	学期に1回エコ集会をする。	集会でゴミ分別について考えたことで、ゴミ捨て時に自分で考えたり友達に教えたりするようになった。	70
			年2回以上エコだよりを発行し、各家庭にエコ活動を伝えていく。	園だよりなどにエコ集会の様子や廃材回収の呼びかけを掲載した。	
34	内子小学校	自然	年3回以上、節水に関する学習を継続し、手洗い・うがい・歯磨きの時に節水に心がけるようにさせる。	今年度は特に感染症拡大防止のため手洗い・うがいを励行した。その時にも節水に心掛けるよう指導した。給食の前後にも、節水の意識を高めるように指導した。	90
		暮らし	アルミ缶、ペットボトルキャップ集め週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。	強調週間を設定し、子どもたちにも呼び掛けたので、集めることができた。	70
			PTA保健委員会による標準服、体操服等のリユース活動を参観日を利用して年1回行う。	リユースは、今年度実施する予定であったが、3月から臨時休校となったため実施できなかった。来年度実施予定である。	

34	内子小学校	環境教育	小田深山での集団宿泊活動や環境子ども会議に向けて、内子町の自然や環境について学習し、理解を深める。(5年生・年間30時間)	5年生が小田深山の集団宿泊活動をとおり、環境について関心を高め、知識を深めることができた。	85
			外部講師と連携しながら環境学習を進める。(年間12回)	「うちみづネット」の協力を得て、各学年外部講師の協力を得ながら、学習を進めることができた。	
35	大瀬小学校	自然	年1回小田深山宿泊体験活動(5年生)を通して、小田深山の環境保全についての理解を深め、その体験学習を家庭に広げる取り組みを行う。	森は、水源を豊かにし、土砂災害を抑えるなど、人が生きる環境を守るためにさまざまな役割を果たしてくれることについて事前学習に取り組んだ。また活動後は振り返りの学習等を行った。	90
			ペレットストーブの稼働により、灯油の使用量を前年度よりも減らす。	灯油は冬季に体育館で行う学校行事に使用するため、大幅な使用量の減にはつながらなかった。	
		暮らし	年間を通じてゴミの分別や廃棄物の適正な処理に努める。	ゴミの分別を正確に行い、廃棄物については処理業者に依頼したり、クリーンセンターに直接持ち込んだりした。	100
		環境教育	年間を通じてリサイクルゴミの分別を確実にを行うとともに、アルミ缶回収を定期的に実践する。	年間を通じてリサイクルゴミの分別を行い、学校でアルミ缶回収の日を設けたり、地域にもアルミ缶回収を呼びかけたりすることができた。	100
36	立川小学校	自然	校内の落ち葉収集を週に3日以上実施し、校内での腐葉土としての利用を促進する。	落ち葉の多い時期には毎日落ち葉収集を行った。校務員さんに協力していただき、校内で利用した。	100
		暮らし	アルミ缶回収を広く地域にも呼びかけ、年間150kg以上のアルミ缶回収を目指す。	アルミ缶だけでなく古紙の回収なども呼びかけて、地域の方に協力をしていた。今年度は400kg回収した。	100
		環境教育	森林や川等の自然に関する体験学習を学期に1回以上実施する。	稚鮎の放流やシイタケ植菌に加えて、本年度は学校前の中山川で水生生物調査や水質検査など環境に関する体験学習を行った。学期に1回は実施することができた。	100
37	石畳小学校	自然	里地里山の再生のため、全校児童が地域の方の協力を得て、休耕田を利用したそば作り、米作りを行う。収穫後は、そば打ちをしたり餅をついたりして、年6回以上地域の方々と交流を図る。	そばの種まき・収穫・そば打ち、田植え・稲刈り・餅つきと年間6回、地域や保護者の協力を得て行事を行うことができた。他にも鮎の放流など、自然に関わる取り組みを独自に行うことができた。	100

37	石畳小学校	自然	えひめAI-1を排水溝に月1回以上積極的に活用する。6月のプール利用前に40Lずつを3回活用する。	夏のプール清掃前に、えひめAI-1を3回に分けて活用した。プール使用后、冬季にも2回、活用することができた。しかし毎月の定期的な活用はできなかった。	80
		暮らし	定期的に全校児童や保護者・地域の方々に呼びかけを行い、アルミ缶回収を実施する。	地域の方々へも積極的に回収を呼びかけ、多くのアルミ缶を回収することができた。	100
		暮らし	夏の日差し・暑気を防ぐため、毎年6月から11月まで児童会室と職員室の南に6㎡の緑のカーテンを設置する。また年間を通して植物栽培を行い、自然に感謝する心を育てる。	職員室の南にヘチマを植え、緑のカーテンを作った。かなり生育がよくグリーンカーテンとなり、日射しを和らげ、効果的であった。しかし毎年植えている児童会室窓際は、今年度はエアコン設置工事のため、植えていたアサガオを撤去してしまい、実施できなかった。	60
		環境教育	年間を通じて「子ども環境会議」に向けて、1年間どんな取り組みをしていくか教師・児童とともに話し合い、学年末にはその成果や改善点を評価する。	子ども環境会議に向けて、児童の意識を高めるための話し合いを行った。成果・改善点について、全校で反省し評価することができた。評価する機会をもてなかった。	80
		環境教育	毎月の学校便りや学級通信を活用して、年3回以上本校の取り組み(アルミ缶回収・えひめAI-1の活用・環境教育の実践等)を紹介する。	毎月発行する校報等を通して、アルミ缶回収や環境教育の実践について家庭や地域の方々に紹介することができた。また「水車まつり」における発表でも「ムカシトンボ」や「ヘイケボタル」の育つふるさとの環境保全について、発表することができた。	100
38	五十崎小学校	自然	各学年の学級園を計画的に利用し、花や野菜を年2回以上植え、世話をする。	年2回プランターに苗植えを行い、美化委員会を中心に世話をした。学年での活動として、ピーマンやミニトマト、ジャガイモやヘチマなどを育て、学習のめあてを達成しながら、植物の成長や収穫の喜びを味わう体験へとつなげることができた。	100
		暮らし	牛乳パックのリサイクル活動を継続する。また、家庭・地域にも協力を呼び掛けて、毎週1回アルミ缶回収を実施する。	牛乳パックのリサイクルは、給食実施日には必ず行うことができた。パックを洗うときは溜めた水を利用し、節水にも努めることができた。保護者だけでなく、地域の方にたくさんの方のアルミ缶を持ってきた。	100
		環境教育	年3回以上各学年で取り組んだ環境教育の実践を学校便りやホームページ等で紹介し、家庭や地域に情報発信する。	ホームページをほぼ毎日アップすることができ、環境教育に関する実践も写真を掲載し分かりやすく伝えることができた。また地域の方がアルミ缶回収に協力してくださっている様子を紹介することができた。	100

39	天神小学校	自然	年間を通じて落ち葉等で堆肥を作り学級園で活用する。	畑の堆肥や一人一鉢運動での花作りに堆肥を利用した。	100
		自然	ヘチマ栽培でグリーンカーテンを4㎡作り、植物の利用による暑さ対策、空気清浄を図る。	4年生の理科でヘチマの栽培に取り組んだ。職員室前のグリーンカーテンとした。	100
		暮らし	年間を通じて保護者と地域の方に呼びかけ、アルミ缶の回収を行う。アルミ缶売却により得た収入で、花や野菜の苗や肥料を買う。子ども1人1鉢運動を行い、環境教育を実践する。	年間を通じて保護者と地域の方に呼びかけてアルミ缶の回収を行い、売却により得た収入で花や野菜の苗や肥料を購入した。子ども1人1鉢運動を行い、環境教育を実践した。	100
		環境教育	1学期末に清掃活動を行い、地域の美化に努めるとともに、ゴミの分別を理解する。	1学期末に清掃活動を行い、地域の美化に努めるとともに、ゴミの分別を理解した。	100
		環境教育	環境学習に関連した学習の様子を学期に1回以上ホームページや学級通信で家庭や地域に情報発信して啓発する。	毎回、取り組んだ折には、ホームページや学級通信で家庭や地域に情報発信して啓発できた。	100
40	小田小学校	自然	さつまいもの栽培、収穫、料理等、寺村自治会と連携した活動を年3回以上実施する。	寺村自治会指導員の協力をいただき実施した。幼稚園児と1・2年生が5月に苗植、10月に芋掘り、11月に料理教室を行った。子どもたちは楽しみながら体験活動を行うことができた。	100
		自然	小田川に親しむ活動を年6回以上行います。	1-2学期にかけて、理科や総合的な活動の時間などを活用して各学年が小田川に親しむ活動を行った。また小田高校と連携し、河原の石を顔料にして絵を描く活動を4年生で実施した。	100
		暮らし	印刷ミス用紙や不要な用紙の裏側を活用して、伝言用紙やメモ用紙を20冊以上手作りし、活用する。	伝言用紙やメモ用紙を多く手作りすることはできなかったが、校内文書については、両面印刷や裏面印刷を心掛けた。	60
		環境教育	ホームページや学校便りに、学期に1回以上、環境に関する実践やエコに関する記事を掲載する。	学校だよりやホームページに、児童の自然体験活動の様子を掲載した。8月のPTAビン類回収のお願いや回収活動の様子も掲載した。児童に紙ゴミの分別の指導を続けて意識が高まってきた。	100
41	内子中学校	自然	年1回PTAと協力して敷地内の草刈を実施する。	8月に実施	100
		自然	年1回、3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。	1学期に総合的な学習の時間で実施	100
		暮らし	牛乳パックを回収し、年間100ロール以上のトイレトペーパーへのリサイクルの促進を目指す。	トイレトペーパー還元数25袋	100

41	内子中学校	暮らし	生徒会活動の一環として、 最低月1回以上 アルミ缶と使用済割り箸を回収する。	アルミ缶は毎月実施	100
		暮らし	日よけカーテンを 84㎡ 設置し、冷房の節減に努め光熱費を 1%減少 させる。	夏場のグリーンカーテンの使用、こまめな節電、退庁時刻を早めることを意識した。退庁時刻を早めることの目標は達成できなかった。	80
		環境教育	環境子ども会議への参加者を1年生 全員 とする。	2月に出席。生徒全員参加	100
		環境教育	学校だより「町並み」を通じて、年3回学校の環境に関する取り組みを紹介する。	ホームページで環境に関する取り組みを5回紹介した。	100
42	大瀬中学校	自然	年間を通じて 、校内の落ち葉収集や除草活動を継続的に行う。	落ち葉収集は年間を通して、除草活動はほぼ毎日実施した。またPTA奉仕作業の取り組みとして、難所の除草活動を行った。	100
		暮らし	各月の電気、水道、ガス、紙、冬の灯油の使用量を職員に 毎月 回覧することによって、使用量を減らそうという意欲を高める。	各月の電気、水道、ガス、紙の使用量を職員に毎月回覧することで、エコオフィス推進の協力を呼びかけることができた。灯油の使用は、空き教室のストーブを切ることを徹底し、節約することができた。	100
		環境教育	生徒会環境委員会の活動を中心に、毎週木曜日に資源ゴミの回収を行うとともに、学園祭と生徒集会の年2回、取り組み等を発表し、環境に配慮した生活を意識づける。	資源ゴミの回収は1年間、途切れずに続けることができた。また生徒集会では環境委員会の取り組みとボランティア活動を取り上げ、全校生徒に啓発することができた。	80
43	五十崎中学校	自然	1カ月に2Lのペットボトル(5本) のえひめAI-1を散布する。	生徒会活動として、整備委員が毎日、清掃時に生徒用トイレに散布した。	80
		暮らし	年間を通じて 給食の牛乳パックを回収し、トイレトーパーへのリサイクルをする。	トイレトーパー40個と交換することができた。	90
		環境教育	環境副読本を利用した授業を(1回以上)行う。	副読本を用いた授業はできなかった。	0
44	小田中学校	自然	えひめAI-1を 週1回 トイレと洗面所に使用し、学校便り等を通じて、 学期に1回 保護者に利用促進を呼びかける。	年間利用を継続し、環境衛生面で効果を得ることができた。またPTAの会や校報で利用促進を呼びかけた。	100
		自然	1年生による農業体験学習を 年1回 実施する。	10/23ピーマンの収穫、出荷作業の体験学習を実施した。	100
		自然	全校生徒による林業とシイタケ栽培に関するふさと学習を 年5回 実施する。	内子町森林組合とJA愛媛中央小田支所の協力で、年間約20時間の体験学習を実施した。	100
		暮らし	生徒会環境委員会を中心に、地域住民・事業所に対して働きかけ、 年間500kg以上 のアルミ缶の回収を目指す。	地域の方の協力を得るとともに、学級で回収期間を設けて各学年努力したものの、年間で460kgとなり、目標を達成できなかった。	80

44	小田中学校	暮らし	牛乳パックを回収し、 年間50ロール以上の トイレットペーパーへのリサイクルの促進を目指す。	回収は100%できた。	100
		環境教育	生徒会環境委員会による取り組み発表会を年間1回以上実施する。	達成している。	100
		環境教育	生徒会本部投げかけによるボランティア清掃を 毎月2回以上 実施する。	達成している。	100
		環境教育	環境子ども会議に 1年生全員 が参加し、町内の活動について学習するとともに、保護者の参加を呼びかける。	環境子ども会議に1年生全員が参加し、環境教育を進めることができた。	100
45	内子学校給食センター	自然	学校給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を 50%以上 とする。	割合(重量ベース)を50%以上とすることができた。	100
		暮らし	廃食油 すべて をBDFとして活用する。	廃食油すべてをBDFとして活用できた。	100
		環境教育	毎日 の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付する。	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付した。	100
46	小田学校給食センター	自然	給食の食材において、町内産野菜の使用率 65%以上 を目指す。	気象条件や食材価格等の諸事情によって使用率54%となり、目標を達成できなかった。	85
		暮らし	廃食油 すべて を再利用する。	すべて再利用できた。	100
		環境教育	環境に関する教育に 年3回以上 参加する。	環境に関する会合を施設で年4回行った。	100
47	図書情報館	自然	館内に飾る花は、 すべて 町内の花を使用する。	館内に飾る花は、すべて町内の花を使用した。	100
		自然	図書情報館の西側の花壇には、夏に緑のカーテンを 35㎡ することで省エネ対策をし、それ以外の期間も花などを植えて心の安らぐ景観づくりに努める。	西側には、夏に緑のカーテンを35㎡することで省エネ対策ができた。それ以外の期間も花を植えて心の安らぐ景観づくりに努めることができた。	100
		暮らし	雑誌のリユース率を 80% とする。	雑誌641冊のうち624冊、リユース率97%。通常1週間であったリユース期間を延長した結果、過去最高のリユース率となった。	100
		暮らし	年間を通じて ペットボトルのキャップ収集に協力する。	館利用者の協力があり、年間を通してペットボトルのキャップを収集することができた。	100
		環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、収集した資料等を 年1回 は広報等で知らせる。	広報で6回周知し、資料は7冊蔵書した。	100

47	図書情報館	環境教育	学校等でのブックトークを通して、 年4回以上 は子どもたちへの環境教育資料をアピールする。	・ブックトークの中で、環境教育資料を5回アピールした。 ・8月の企画展で環境に関する展示を実施した。 ・おはなしボランティア研修会で環境問題と絵本をコラボさせ、1回目は町材木を使用した小道具作り、2回目は絵本でSDGsを学び牛乳パック人形を作った。	100
48	内子自治センター	自然	生涯学習のテーマとして環境を取り入れ、愛護班、高齢者大学などの講座において 年2回 は学習する。	環境を前面に出したテーマでは学習会を行えていないが、芝居小屋を有し、古い町並みを保全している高知県香南市赤岡町への一日研修や町内で環境を生かした地域おこし活動をしている方の講義を通じて、環境について意識してもらうことができた	60
		暮らし	緑のカーテンを事務室の窓すべて(6.8㎡)で実施。	実施できた。ユウガオ・フウセンカズラ・ゴーヤで緑のカーテンを育て、立派なカーテンになった。採れた種はサン・ラブに渡した。	100
		暮らし	サンラブと協働し、地域住民に緑のカーテンの苗 50株以上 配布し普及させる。	自治センター入り口で苗を配布し、皆さん積極的に持ち帰っていただけた。1回20株ほどを2、3回に分けて配布し、残った分で内子自治センターのグリーンカーテンを育てた。	100
		環境教育	内子地区自治会連絡研究大会において環境をテーマとした学習会を 年1回 行う。	「地域コミュニティと景観」をテーマに鹿児島県柳谷自治公民館の豊重哲郎館長に講演いただいた。地域づくりが話のメインであり、景観のテーマについて疑問視するアンケートの意見もあった。講演を依頼する際にしっかりとテーマについての話し合いが必要であった。	60
49	内子東自治センター	自然	自治センターが主催する事業において、環境保全に関する体験活動を 年1回以上 実施する。	7月ホタル観察会、8月ふれあい夏季キャンプを通して、河川の環境に関する体験活動を行った。	100
		暮らし	緑のカーテンの苗を配布し、コンテストに自治センター管内から 1件以上 の応募を呼びかける。	苗の配布は行ったが、コンテスト応募はなかった。	50
		環境教育	センターだよりに、環境に関する記事を 年1回以上 掲載する。	環境に関する記事を年4回掲載した。	100
50	大瀬自治センター	自然	第44回目となる「大瀬農業祭柿まつり」の成功に向けて、大瀬特産の柿などの特産品を町内外に広くPRする。特に町外は 2回以上 実施する。また地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を 10台以上 で実施する。	軽トラ市は10台の申込みを受けて開催した。町外PR活動は、協力店舗とのスケジュール調整に苦慮したが、3回実施することができた。	100

50	大瀬自治センター	暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率 80%以上 を目指す。	利用者に紙コップ、割り箸の使用を控えてできるだけセンターのコップ、箸の利用を促した。(15/16)	94
		環境教育	エコセミナー活動の内容をより精査し充実させ、 年10回以上 実施する。活動を実施することにより、大瀬の子ども達の環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。	11回の開催を予定をしていたが、参加者不足、雪不足により8回しか開催できなかった。	80
51	五十崎自治センター	自然	必ず 環境学習会を、元気わくわく川まつりのイベント開催時に実施する。	実施することができ、有意義な学習会になった。	100
		自然	年7回 学習会の中で水中生物等に触れ、生態系で生物がどのように環境とつながっているのか、勉強していく。	実施することができ、有意義な学習会になった。	100
		暮らし	年間を通じて 肥料を肥料場で作り、自治センター周辺観光に活用する。	花壇などに利用できた。	100
		環境教育	年7回以上 環境に関する記事を館報にて掲載していく。	掲載記事の関係ですべてに掲載することができなかった。	25
52	小田自治センター	自然	スバル敷地内の落ち葉を堆肥化もしくは土に返し、堆肥については希望者に すべて無料 配布する。	毎朝の掃除の落ち葉を土に還した。希望者がなかったので、配布実績はない。	90
		自然	城の台公園の剪定した枝葉について、希望者 すべて に無料配布する。(動物園用エサ等)	枝葉や芝生はまとめて適宜、近隣の希望者に無償配布した。その他の枝木は堆肥化し、園庭の土に還した	100
		暮らし	貸し出しに伴う本館・分館間での図書移動の際に使用する梱包材・緩衝剤は、図書購入時に同梱されている物を 必ず 再利用する。	図書購入時などの梱包材や緩衝材を保管しておき、本館等への図書移動や県立図書館への書籍返還に利用した。	100
		暮らし	緑のカーテンを推奨するため、苗を希望者に 50株以上 配布する。	入り口前に設置しゴーヤ等苗を希望者に配布した。	100
		環境教育	自治センターだよりに環境に関する記事を 年2回以上 掲載する。	年2回、コラムを掲載した。	100
		環境教育	小学生を対象に、エコに関する講座を 年2回 企画・実施する。	大瀬自治センターと共同でエコキャンプ、巨樹巨木を思う会の協力で、巨樹巨木巡りを実施し、自然に触れ合う機会を持った。	100

53	社会福祉協議会	自然	サロン代表・世話人交流会で、地元野菜等を活用した適切な栄養摂取の大切さを食の改善推進協議会から学びながら地産地消を進めていく取り組みを地域に啓発する。 年1回	サロン代表・世話人交流会において、保健センター栄養士に講師をお願いし、内子の特産品等を例に栄養指導をしていただいた。また交流会の食事は食の改善推進協議会に協力いただき、地元食材を活用したメニューをワンプレートで提供いただいたことで、例年に比べ食べ残しが格段に減少した。	100
		暮らし	ミニデイサービスの利用者宛の案内文書にて、エコバック利用促進について周知を行う。 年12回	ミニデイを実施する月は、案内文書にてエコバックの利用促進について周知を行うことができた。	100
		暮らし	毎月 の家族介護用品配布時に処分する段ボール等について、地元NPO団体に再利用してもらうことで、古紙搬出量を減らすよう努める。	NPO、児童館、保育園、役場関係者など、必要な方に提供した。	100
		環境教育	年1回以上 、ごみ分別等について、話し合う場を作り、ごみ出しのルールや現状について理解を深めていく。	サロンや生活支援体制整備事業において地域のゴミ出し状況について話し合う機会があり、社協から情報提供を行い、自分たちで何ができるか、対応方法などを検討した。新型コロナウイルスの関係で実施できなかったが、サロンではゴミ分別の勉強会の予定も立てていた。	100
54	みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、入所者・利用者・ボランティアが 年間を通じて 栽培した季節の野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。	入所者・利用者と共に栽培した野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、サツマイモ等)、施設内の竹林で収穫したタケノコを施設の食材として利用した。	100
		暮らし	施設から排出される廃食油の 100% 再利用化(石鹼・車用燃料)を図る。	サン・ラブに、施設から排出される食用廃油のすべて回収してもらい、再利用化を図った。	100
		環境教育	施設発行のみどり苑だより(年4回 発行予定)や家族会(年1回開催)を利用し、入所者・利用者・各家庭に対して、 年2回以上 、苑の環境への取り組みを周知する。	みどり苑だよりへ、グリーンカーテンの取り組みを掲載した。家族会(年1回)において施設でのエコオフィスへの取り組みを紹介した。	100
55	神南荘	自然	厨房から出る廃食油を地元NPO法人に回収してもらい、 すべて BDF燃料として地域内使用に回す。	すべてBDF燃料として利用している。	100
		自然	厨房から出る残飯 すべて を地元農家に回収してもらい、飼料として使用してもらう。	残飯等は毎日、地元農家により回収し、利用している。	100
		暮らし	普通浴に古田鉱泉を利用しているが、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。	配管、タンク等の維持管理を適切に行い、水道利用量を抑えている。	100

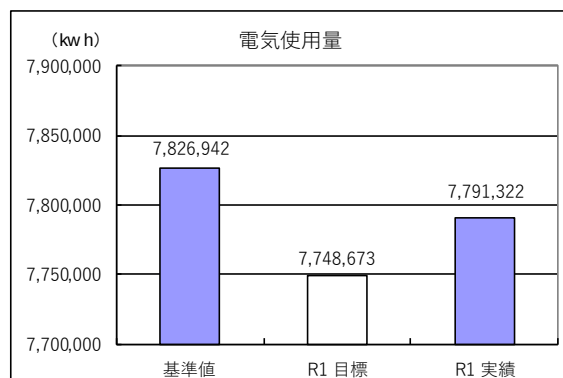
55	神南荘	暮らし	節電に努め、CO2排出量を抑える。	絶えず、節電に努めている。	100
		環境教育	営業で来荘する業者にアイドリングストップを呼び掛けるとともに、搬入資材は すべて 持ち帰りを依頼する。また”施設へ出入りされる業者の皆様へ(お願い)”のチラシを配布する。	出入り業者へのアイドリングストップ等、環境への配慮を促している。	100
		環境教育	毎朝の朝礼で 最低月1回 、毎月の職員会で 4回以上 エコオフィスの推進を呼びかける。	職員会等で、エコオフィス推進の呼びかけを実践している。	100
56	内子フレッシュパークからり	自然	毎月 敷地内の清掃を行う。(植樹、堆肥用落ち葉の回収等) 6,7,8月は隣接する小田川河川敷周辺環境の除草、9,10月は河川敷のごみ回収を行う。	毎月職員が交代制で行った。 対岸の河川敷に花桃、からり周辺の土手にアジサイ、中庭に桜、もみじを植樹した。	100
		暮らし	プラスチック製品削減の活動としてエコバックの推奨を行う。(1年を通じてPR活動、定着化を図る)	7月からレジ袋の有料化を開始。お客様へ理解と協力をお願いしたことにより、年度末頃には定着していた。 出荷者さんにエコバックの作成販売を依頼。また内子町のエコバックの販売を開始した。	100
		環境教育	小田川の水生生物、内子町の動植物の紹介掲示を引き続き行う。(四半期に1回) プラスチックごみの問題についての紹介掲示を行う。(エコバック推奨との連動)(1年を通じて)	季節ごとの花や野菜の紹介、川魚や小鳥の紹介。野鳥が集まる空間づくりとして巣箱の作成教室開催、巣箱かけのイベントを開いた。 動植物が生息しやすい環境となるようにエコバックの販売スペースにプラスチックごみ問題の掲示を行った	100
57	小田の郷せせらぎ	自然	特産品売場内において、 90%以上 地元で作った野菜を販売し、地産地消に努める。	産品売場内において、90%以上地元で作った野菜を販売し、地産地消に努めた。	100
		暮らし	年間を通じて お客様や生産者に対し、エコバッグやマイ箸の協力と呼び掛け、またPOP等で周知も行う。	年間を通じて、呼びかけやPOP等での周知を行った。	100
		環境教育	業者に対し、搬入時の資材を すべて 持ち帰ってもらうよう職員が呼び掛けを行う。	業者に対し、搬入資材の持ち帰りを呼びかけた。	100
合 計	自然	81		62	91.63
	暮らし	85		65	92.28
	環境教育	78		57	88.64
	57 部署	244		184	90.90

4 内子町エコオフィスパラン

(1) 取組内容

内子町では、「内子町エコオフィスパラン」を作成して地球温暖化防止に向けた環境に優しいオフィスづくりに取り組んでいます。このエコオフィスパランは、「エコロジータウン」を掲げて様々なまちづくりを進めるにあたって、まずは、役場や学校などの施設で働く職員が、自ら率先して環境保全のための取り組みを実践しようという計画です。平成28年度には、第4次エコオフィスパランとし新たな5か年計画の取組をスタートさせています。

(2) 取組結果



目標→26年度実績比1%減 結果→0.5%減 (△)

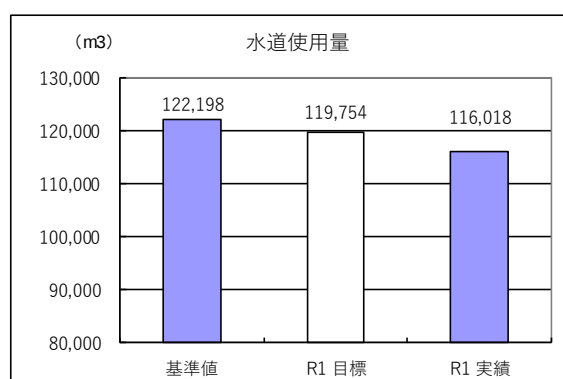
考察：

電気使用量の合計は7,791,322kwhで0.5%の減にとどまり、わずかながら目標達成には至りませんでした。

基準年以降、学校施設などにエアコン設備が導入されたことなどにより、全体の使用量は増加しています。ただし昨年度は、暖冬に伴うスキー場の営業期間短縮や新型コロナの影響による休業・休館などで、増加率が抑えられました。

今年度はコロナ対策のため、特にエアコン使用にかかる増加が見込まれます。状況に合わせつつ、こまめな消灯や設定変更など、できる範囲で日頃から節電に努めましょう。

また設備等の新設・更新の際は、省エネ機器の積極的な導入をお願いします。



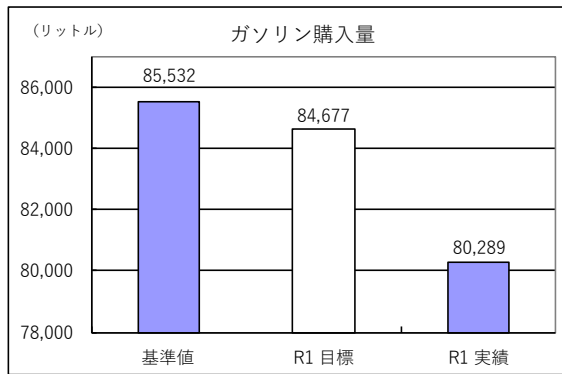
目標→28年度実績比2%減 (32年度までに3%減)

結果→5.1%減 (○)

考察：

水道使用量の合計は116,018m3で、5.1%の減となり、目標を達成しました。3年連続の達成となります。

引き続き、限りある水資源の有効利用にご協力をお願いします。



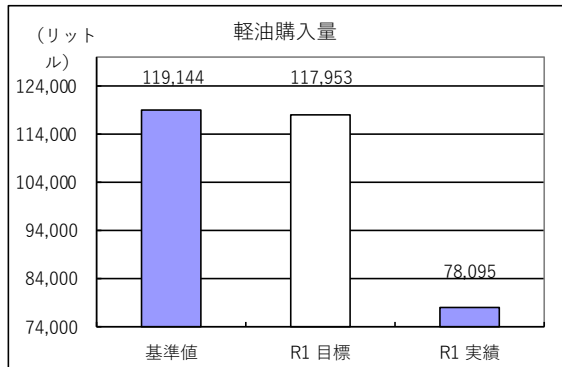
目標→26年度実績比1%減 結果→6.1%減 (○)

考察：

ガソリン購入量は80,289リットルで、6.1%の減となり、目標を達成しました。

ガソリンは、主に公用車の燃料に使用されています。減少の理由としては、特養施設や社協における介護サービスの利用が減少傾向にあり送迎車の運行が減っていること、さらに新型コロナの影響により、3月の公用車利用が少なかったことが考えられます。

引き続き、近距離の移動はできるだけ徒歩や自転車利用とし、車利用時はエコドライブに努め、また公用車の購入時は低燃費車を導入するなど、削減の取り組みをお願いします。



目標→26年度実績比1%減 結果→34.5%減 (○)

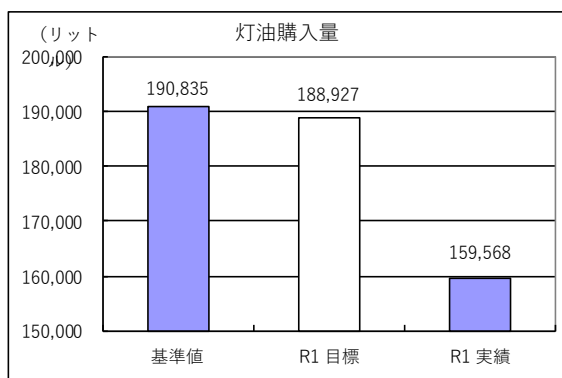
考察：

灯油購入量は159,568リットルで、1%の削減目標に対し、16.4%の減となり、大幅に目標を達成しました。

灯油は、一部施設の冷暖房や、クリーンセンターの助燃材などに使用されています。

昨年度は、クリーンセンターの他、スキー場や藤華苑での使用が減少し、全体の使用量削減につながりました。

灯油利用の冷暖房設備を更新する際には、バイオマス機器の導入を検討するなど、引き続き使用量の削減にご協力をお願いします。



目標→26年度実績比1%減 結果→16.4%減 (○)

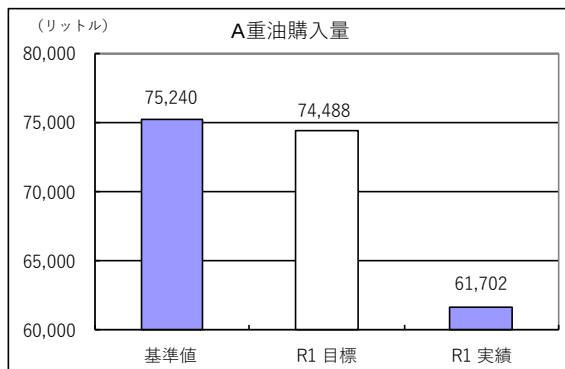
考察：

灯油購入量は159,568リットルで、1%の削減目標に対し、16.4%の減となり、大幅に目標を達成しました。

灯油は、一部施設の冷暖房や、クリーンセンターの助燃材などに使用されています。

昨年度は、クリーンセンターの他、スキー場や藤華苑での使用が減少し、全体の使用量削減につながりました。

灯油利用の冷暖房設備を更新する際には、バイオマス機器の導入を検討するなど、引き続き使用量の削減にご協力をお願いします。

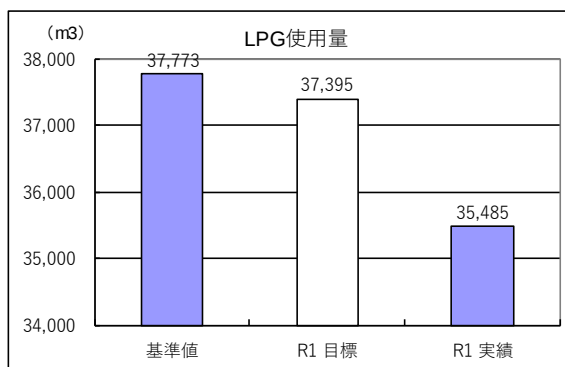


目標→26年度実績比1%減 結果→18.0%減 (○)

考察：

A重油購入量は61,702リットルで、1%の削減目標に対し、18.0%の減となり、大幅に目標を達成しました。

A重油は、主に給食センターや指定管理施設の給湯器、空調機などの燃料に使用されています。削減の要因は、スキー場での使用が減少したためと考えられます。

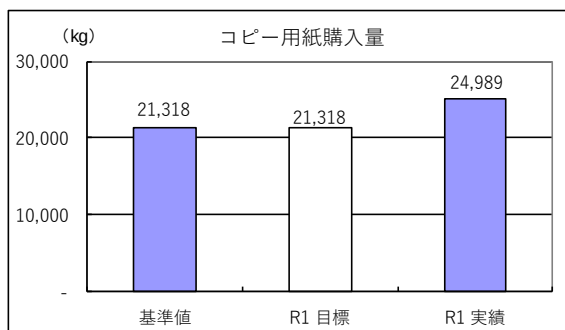


目標→26年度実績比1%減 結果→6.1%減 (○)

考察：

LPG購入量は35,485m3で、1%の削減目標に対し、6.1%の減となり、大幅に目標を達成しました。

LPGは、主に調理や給湯に使用されています。昨年度は、ほぼすべての施設において使用量が減少したことが目標達成につながりました。



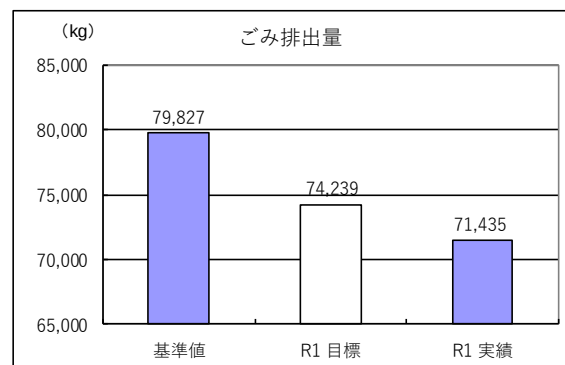
目標→26年度実績比0%（現状維持）結果→17.2%増 (×)

考察：

コピー用紙購入量は24,989kgで、現状維持の目標に対し、17.2%の増となり、目標を達成することができませんでした。4年連続の増加となっています。

国・県から電子データで送付される文書が増えていることや事業の増大などにより、コピー用紙の購入量は年々大きく増加しています。

昨今の社会情勢も踏まえ、ペーパーレス化の取り組みを推進させるとともに、用紙の裏面利用やリサイクルの徹底など、日常業務におけるこまめな節減にご協力をお願いします。



目標：28年度実績比7%減（32年度までに10%減）

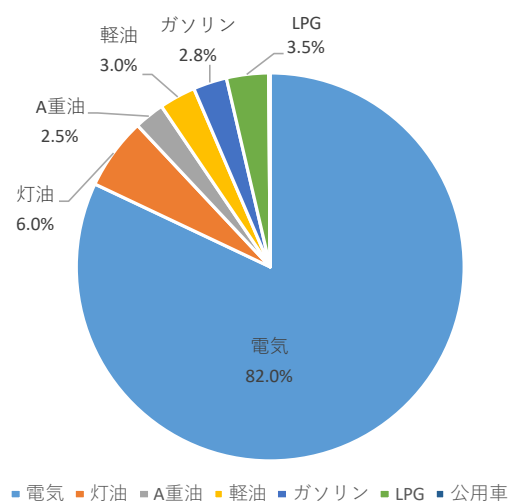
結果→10.3%減 (○)

考察：

ごみ排出量は71,435kgで、7%の削減目標に対し、10.3%の減となり、目標を達成しました。

今後もリサイクル可能な紙ごみの分別、私的なごみの持ち帰りの徹底など、取り組みの継続をお願いします。

温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）



目標→26年度実績比1%減

結果→3.9%減（○）

考察：

温室効果ガス排出量は6,639,635 kg-CO₂で、1%の削減目標に対し、3.9%の減となり、目標を達成しました。

昨年度は、電気・灯油・A重油・軽油・ガソリン・LPGすべての項目で使用量が減少しました。スキー場の営業期間の短縮や、新型コロナの影響が要因と考えられます。

温室効果ガス排出量を削減するには、省エネ・高効率の設備やバイオマス利用設備、再生可能エネルギー設備の導入推進などが重要となっています。

日常の努力による大幅な削減は難しい面もありますが、できる範囲でコツコツと節減を積み重ねることが大切です。引き続き各部署でのご協力をお願いします。

※平成31年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,791,322 kwh	0.699	1	5,446,134 kg - CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	159,568 リットル	2.49	1	397,323 kg - CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	61,702 リットル	2.71	1	167,212 kg - CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	78,095 リットル	2.58	1	201,484 kg - CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	80,289 リットル	2.32	1	186,269 kg - CO ₂
LPG使用量	二酸化炭素	35,485 m³	6.55	1	232,426 kg - CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,149,397 km	－	21	8,787 kg - CO ₂
	一酸化二窒素		－	310	
					6,639,635 kg - CO ₂

※平成26年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,826,942 kwh	0.699	1	5,471,032 kg - CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	190,835 リットル	2.49	1	475,179 kg - CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	75,240 リットル	2.71	1	203,900 kg - CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	119,144 リットル	2.58	1	307,392 kg - CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	85,532 リットル	2.32	1	198,434 kg - CO ₂
LPG使用量	二酸化炭素	37,773 m ³	6.55	1	247,413 kg - CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,213,692 km	－	21	9,123 kg - CO ₂
	一酸化二窒素		－	310	
					6,912,473 kg - CO ₂

5 内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”

(1) 取組内容

内子町では、平成 18 年度に「環境自治体スタンダード（L A S - E : ラス・イー）」という認証制度を取り入れ、認証を取得してきましたが、平成 24 年度には L A S - E の最高レベルである第 3 ステージの認証を取得しました。その後、L A S - E の規格が変更されることになり、L A S - E II という規格が誕生しましたが、内子町では、その規格改定に協力しつつ、最終的には平成 29 年度に、L A S - E をベースにした内子町独自の環境マネジメントシステム“うちエコ”を構築し、運用を開始しました。内子町の強みを伸ばしながら弱い部分の補強をしつつ、さらなる環境政策のレベルアップをめざしていきたいと考えています。なお、L A S - E の特徴として、住民参加のもとで環境政策に取り組む仕組みや目標を確立・運用させること、政策の中身だけでなく住民参加の質を問うこと、などが挙げられますが、こうした住民参加の視点は、これまで同様うちエコの中でも取り組んでいきます。

内子町では、「第 4 次内子町エコオフィスプラン」（平成 28 年度～平成 32 年度）や「第 2 次内子町環境基本計画」（平成 27 年度～平成 36 年度）を策定し、各種施策を展開していますが、これらの計画を効率的かつ効果的に推進するための進行管理を、この環境マネジメントシステムによって行います。また、環境配慮の取組を全町に広げていくため、関係団体や民間事業所といったところへ、うちエコの参加呼びかけを行っています。

[参考]

「環境自治体スタンダード LAS-E（ラス・イー）」
環境配慮や環境政策に取り組むためのしくみを、自治体が確立・運用し、その取り組み内容が環境自治体としてふさわしいかどうかをチェックするために、環境自治体会議が開発した基準。自治体固有の特製に合わせて作られた認証制度ということもできる。（「LAS-E による環境マネジメントシステム構築ガイド」より）

LAS-E に関する取組概要

- ☐ 1992 年 環境自治体会議が発足、加入
- ☐ 2001 年 内子町エコオフィスプラン策定（内部監査の実施）
- ☐ 2006 年 内子町環境基本計画策定→LAS-E の導入
- ☐ 2006 年 第 1 ステージ合格（12 月 20 日）
- ☐ 2007 年 環境自治体会議うちこ会議の開催
- ☐ 2009 年 第 2 ステージ合格（12 月 28 日）
- ☐ 2011 年 LAS-E 規格改定
- ☐ 2012 年 第 3 ステージ合格（12 月 27 日）
- ☐ 2015 年 LAS-E II 試行、規格改定
- ☐ 2016 年 LAS-E II レベル判定

(2) 監査結果

今年度の監査の内容は以下のとおりです。

①各監査（エコ見回り及びエコ・コミュニケーション含む）の日程および内容

監査	日程	内容	対象 部署数
子どものエコ見回り隊	①令和元年 12 月 19 日（木）	電気、水、ごみ等の環境に関する取組状況の確認	8
	②令和 2 年 1 月 16 日（木）・ 17 日（金）・20 日（月）・ 21 日（火）・22 日（水）		5
大人のエコ見回り隊	令和 2 年 1 月 23 日（木） ～1 月 24 日（金） ほか	電気、水、ごみ等の環境に関する取組状況及び職員の環境意識の確認	22
政策監査	令和元年 11 月 25 日（月） ～11 月 27 日（水） ほか	独自目標の達成見込み、環境基本計画推進状況の確認、職員の環境意識の確認、うちエコ規格の確認、ほか	23
エコ・コミュニケーション	令和元年 11 月 26 日（火）	事業所での取組確認、ほか	2

子どものエコ見回り隊では、うちエコ対象部署以外の民間事業所等へエコ見回りに出かけていますが、今年度もさらに見回りか所が広がり、それぞれの事業所で取り組んでいることを聞きながら、子ども達の学びへとつなげることができました。今後のエコの取組拡大がますます期待できるところです。なお、新型コロナウイルスの影響により、中止となった見回りもありました。

大人のエコ見回り隊では 9 名の方に登録をいただきました。エコ見回り隊を通じて、内子町の取組の周知を図るとともに、家庭への取組へと波及していくことを期待しています。

政策監査では、昨年度より“エコ・コミュニケーション”と題し、町内の事業所に訪問して環境配慮の取組の聞きとりをしています。今年度は 2 事業所で実施しました。監査の方法としてはまだまだ試行錯誤をしている段階ですが、うちエコを通じて環境保全への取組が町内へと広がっていくよう、今後も推進していきます。なお、“エコ・コミュニケーション”に取り組む事業所で、その取組が優良な事業所については、認定証を発行し、顕彰していくこととしました。

また、例年のように、町の新規採用職員 5 人が環境研修の一環として、監査に参加しました。

⑦子どものエコ見回り隊

	園・学校名	見回り先
①	内子小学校	内子自治センター、内子町図書情報館、内子保育園、八日市・護国地区町並保存センター、(公財)内子町国際交流協会、NPO法人環境NPOサン・ラブ、 (株)内子フレッシュパークからり、(株)J旅行センター
②	内子保育園	旅館松乃屋、かつ盛鮮魚店、フローリスト山岡、久保昭和堂、みやセスポート

※子どものエコ見回り隊の目的及び期待される効果

- ・園児や児童の観察力や発表力の向上、公共の場における礼儀作法や社会性の習得
- ・役場職員の幼児の目線でチェックされることによる環境意識の一層の向上
- ・エコオフィス部分の監査の一環と位置付けていますが、評価の対象とはしません。

■子どものエコ見回り隊の様子



①エコ・コミュニケーション

うちエコに賛同いただく参加される事業所等では、取組目標を定め、実践をしていただきます。エコ・コミュニケーションにおいて、その取組状況やそれぞれの事業所等における環境への取組について聞き取りし、広く知らせていくこととしています。

■令和元年度賛同事業所

	事業所名	うちエコ実践内容	エコ・コミュニケーションでのコメント
1	丸三産業株式会社 五十崎工場 http://www.marusan-sangyo.co.jp/	・地域の環境美化活動に参加 ・地域行事に参加することにより、地域とのコミュニケーションを大切にする。 ・内子町と締結している公害防止協定書を遵守し、月1回水質検査を行い、町へ報告	・全ての面において、取組目標以上のずっと先をいく取組をされておられました。地域の清掃、環境面でのチェック、排水の管理など、会社はもとより従業員の意識もすばらしいと感じました。ごみを拾うだけでなく、中身をチェックし、報告し、指導する、という流れができていることにも驚くとともに、すばらしいと感銘を受けました。

	事業所名	うちエコ実践内容	エコ・コミュニケーションでのコメント
		・化石燃料の使用削減のため、廃棄物の燃料化の推進 ・改善活動を推進し生産性をUPすることで、燃料費・動力費の削減をめざす。 ・環境への取組状況について公表	・RPF（ペレット燃料）の事業を拡大していくとのことで、円滑な事業展開を期待しております。まさに町内の企業のお手本として、これからの活動にも期待しています。”うちエコ”に参加していることもPRしていただき、貴社のすばらしい取組をたくさんの方に知っていただきたいと思います。こちらが勉強させていただくことが多く、本当にありがとうございました。 ・目標のレベルの高さにまず驚くとともに、全てを完璧にクリアされておられました。地域の清掃活動の前に自主清掃され、それを地域へ報告されるなど、地域とのコミュニケーションを重視されていらっしゃいました。工場から出る排水管理をすることはもちろん、排水汚泥のリサイクルも自社で取り組まれており、工場から出る廃棄物とともにRPF化し、重油などのエネルギー使用量の削減につなげておられました。さらに、EGSB（Expanded Granular Sludge Bed）による排水処理設備を導入し、汚泥処理とともに発生するメタンガスの利用にも取り組まれていました。ゼロエミッションとともにエネルギー循環の仕組みを構築されており、町内にこのような取組をする事業所があり、本当にすばらしいと感動しました。
2	有限会社 内藤鋼業 http://naito-kogyo.co.jp/	・事業所において、紙ごみの分別に取り組み、すべての紙をリサイクル ・事務所において、ペレットストーブを利用し、バイオマスエネルギーの利用を推進 ・バイオマスエネルギーの啓発・利用推進のため、イベント等への参加 ・取組目標を社員が共有し、実践 ・事業所の取組状況を、ホームページで公開	・自社で生産している木質ペレット燃料を、ストーブの燃料として利用されていました。紙のリサイクル100%を目標とされていますが、裏紙利用を徹底し、カレンダーなどを含め事務所から発生する全ての紙が廃棄されることなく2次利用されていました。また、段ボールも発送等に再利用するなど、紙のリサイクルが徹底されていました。 ・初の取組ということで、目標設定等にご協力いただきありがとうございました。初年度ですが、貴社の取組などをホームページに掲載し、周知にもご協力いただきますよう、今後ともよろしくお願いいたします。 ・書類やカレンダーの裏紙活用、段ボールの再利用など、紙の廃棄ゼロに熱心に取り組まれていることがよくわかりました。



② 監査種類別設問別集計結果と所見

㊦ 政策監査

㊦-①推進本部及び実行部門集計結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆ ◎ ○ (a+b+c) =(f)	算定対象数 (該当無し除く) (a+b+c+d+e) =(g)	設問別 達成率 (f/g)
		大変良い(e)	良好(d)	取り組んでいる(c)	改善要望事項(b)	勧告事項(a)	該当なし	質問せず			
1	町長／協議と指示			1					1	1	100%
2	町長／環境基本計画の指示			1					1	1	100%
3	町長／監査方法の改善		1						1	1	100%
4	副町長／定期的協議			1					1	1	100%
5	副町長／エコオフィスの推進			1					1	1	100%
6	教育長／教育での取り組み			1					1	1	100%
7	教育長／教育での取り組み		1						1	1	100%
8	独自目標の内容と達成見込み	2	5	12					19	19	100%
9	独自目標の改善	3	5	11					19	19	100%
10	町民との連携の状況	3	8	8					19	19	100%
11	施設への環境配慮		1	13			5		14	14	100%
12	職場での情報共有・伝達方法		3	16					19	19	100%
13	指摘事項の改善			5		1	13		5	6	83%
14	環境基本計画の内容と実施状況			5			14		5	5	100%
15	その他の取り組み	1	3	15					19	19	100%
16	環境方針の認知		2	16		1			18	19	95%
17	地域環境への関心		1	18					19	19	100%
18	研修受講の確認		3	14		1	1		17	18	94%
19	取り組みの実施状況	1		18					19	19	100%
	合計（事務局分除く）	10	33	156		3	33		199	202	99%

ア-②ジャンプステージ結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆ ◎ ○ (a+b+c) =(f)	算定対象数 (該当無し除く) (a+b+c+d+e) =(g)	設問別 達成率 (f/g)
		大変良い(e)	良好(d)	取り組んでいる(c)	改善要望事項(b)	勧告事項(a)	該当なし	質問せず			
1	取組内容の確認と目標達成状況確認	1	1						2	2	100%
2	環境方針の周知			2					2	2	100%
3	目標達成状況の公開			1			1		1	1	100%

ア-③事務局結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆ ◎ ○ (a+b+c) =(f)	算定対象数 (該当無し除く) (a+b+c+d+e) =(g)	設問別 達成率 (f/g)
		大変良い(e)	良好(d)	取り組んでいる(c)	改善要望事項(b)	勧告事項(a)	該当なし	質問せず			
1	基本方針の理解・実践			1					1	1	100%
2～3	環境に関する定期的研修		1	1					2	2	100%
4	首長との協議			1					1	1	100%
5	目標達成状況の公開			1					1	1	100%
6	指摘事項の改善			1					1	1	100%
7～8	全般	1	1						2	2	100%
9～12	システム全般		1	3					4	4	100%
	合計	1	3	8					12	12	100%

⑦-④総合所見

令和元年度の政策監査では、23 部署（推進本部及び事務局含む）で実施しました。評価の方法としては、昨年度からの評価方法を継続し、☆（優れた取組）、◎（取組が良好である）、○（取り組んでいる）、△（改善要望事項）、×（勧告事項）の5段階で行いました。その結果、良い取組として☆が10個、◎が33個だったのに対し、勧告事項の×が3個という結果になりました。

今回の政策監査について、住民との協働や住民への広がり重点をおき、監査に臨むとともに、部署内での情報伝達や共有についても確認を進めることとしました。

住民との協働といった視点での優れた取組には、地域や関係者らとともに計画を立て、ともに実践されている事例が多く見られました。例えば、内子小学校での NPO 法人と連携した全学年での総合学習、立川小学校での自治会・自治センター・漁協・森林組合・NPO 法人といった多くの団体等との協力の下での学習活動、図書館での農業関係者との研修会の実施などがあげられました。さらに、内子幼稚園においては、地域の人たちと一緒に学んだことをオリジナルの草花図鑑としてまとめ、園児と学習を深めている事例もあり、ふるさと教育の推進やSDGs の視点にたった取組が、地域の人たちを巻き込んで実施されているすばらしい事例が数多くありました。また、内子フレッシュパークからりでは、地域の団体や行政とともに実施しているマイバッグキャンペーンはもとより、町内の事業所としては初となるレジ袋の有料化に取り組まれていました。プラスチックの削減に貢献するとともに、消費者の方へ環境配慮を直接的に伝えており、まさにエコロジータウンをリードする取組を実践されておられました。

部署内での情報伝達・共有という視点においては、これまでも部署によっては課題が残るところでしたが、今回においても実践できていないところがありました。優れた取組として、自治・学習課では、環境に関する新聞記事や資料を独自にまとめ、部署内で周知するといった事例があり、意識啓発に取り組む積極的な姿勢が見られました。一方、一部の部署では、基本方針を知らない、学習会の内容を知らない、といった基本的な情報共有がされていない部署もあり、職員の異動等による引継や全職員への周知徹底の必要性が感じられました。実行責任者やエコアップ推進員が中心になり、推進委員会や学習会の機会を捉えながら、部署の独自な取組やうちエコの取組内容を全職員が共有し、実践へとつなげていけるよう、今一度、周知徹底に取り組んでいただきたいと思います。

今年度のジャンプステージでの取組内容確認（エコ・コミュニケーション）については、昨年に加えて新たに1つの事業所で実施し、合計2つの事業所で実施しました。いずれもエコロジータウン内子をけん引している事業所であり、本来の事業に環境配慮の視点を加えたすばらしい取組を実践されておられました。こうした事業所をうちエコの推進事業所として認定する作業を実施していくこととしていますが、ホームページなどで積極的にPRしていただくとともに、今後も多くの事業所等がうちエコに参加していただけるよう、展開を期待します。

事務局においては、うちエコの取組が3年目を迎える中、環境マネジメントシステムの継続に工夫を加えながら、熱心に取り組んでいると認められます。しかし、監査においては、質問内容がマンネリ化したり、答える側も重複した内容で答えてしまう質問内容があったりと、継続しているからこそその改善点が出てきていると思います。優良部署表彰において、実践者の前で表彰を行う（例：幼稚園の表彰においては園児の前で表彰する）など、表彰の方法についても工夫・改善が見られており、今後も、環境への取組に対するモチベーションが持続し、発展するような工夫・改善が施されていくよう、ますますの取組を期待しています。

■政策監査の様子



① 大人のエコ見回り隊

①-①集計結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆ ◎ ○ (a+b+c) =(f)	算定対象 数 (該当無 し除く) (a+b+c+d+e) =(g)	設問別 達成率 (f/g)
		大変良い(☆)	良好(◎)	取り組んでいる(○)	改善要望事項(△)	勧告事項(×)	該当なし	質問せず			
1	取組の工夫	8	9	5					22	22	100%
2	エネルギー使用量・ごみ排出状況等現状把握		8	14					22	22	100%
3	グリーン購入の配慮	2	2	18					22	22	100%
4	環境方針の認知		3	19					22	22	100%
5	研修受講の確認		5	14	3				19	22	86%
6	取り組みの実施や工夫	1	8	13					22	22	100%
7	電気の点灯状況		2	19	1				21	22	95%
8	水まわりの状況			22					22	22	100%
9	紙・ごみの分別状況		2	20					22	22	100%
	合計	11	39	144	4		22		194	198	98%

①-②総合所見

令和元年度の大人のエコ見回り隊は、22 部署で実施しました。評価の方法としては、昨年度からの評価方法を継続し、☆（優れた取組）、◎（取組が良好である）、○（取り組んでいる）、△（改善要望事項）、×（勧告事項）の5段階で行いました。その結果、良い取組として、☆が11項目、◎が39項目となる一方、△は4項目、×は0項目となりました。

今年度の質問には、学習会のテーマでもあったグリーン購入についての内容を取り入れ、推進状況について把握に努めました。

優れた取組には、例年同様、部署内での各種環境への取り組みはもちろんのことながら、それらを施設の利用者などへ広げようとする取組、さらには利用者や地域住民らと一緒に活動する取組も多く、エコオフィスにとどまらないすばらしい取組が多く見られました。例えば、内子総合窓口センターでは、清掃活動を実施する際に地元の自治会にも呼びかけ協働で実施したり、子育て支援センターでは子ども服やおもちゃなどのリユース事業を実施し始めたり、立川幼稚園での地域の方と一緒に歩く散歩、といったことがあげられます。また、小田小学校では、コミュニティスクールを取り入れたことから、地域と一体となった学習を実践する中で、地域の自然環境に着目し、職員自らも研修を受けるなど、環境教育の充実にもつながっていました。

グリーン購入については、職員の啓発に取り組んだり、購入業者への配慮を求めたりといった取組が見られました。概ねどの部署においてもグリーン購入に配慮し、購入実践しているとありますが、事務用品に限らず、幅広い視点でグリーン購入に取り組んでいくことが、今後大切なのではないかと感じました。今年度、ガイドラインの見直しに伴い、さらにグリーン購入が推進・実践されていくことを期待します。

また、昨年度のエコ見回り隊では、△が7項目、×が1項目でしたが、今回は△が4項目と減少し、勧告事項はありませんでした。数としては改善されているとみられる一方、△の内容は、研修内容が把握できていなかったことが多く、このことは例年と同じであり、各部署で取組内容を確認していただくとともに、それぞれが自分事として捉えていただくよう、意識の改善を求めます。

大人のエコ見回り隊に参加いただいた方々からは、家庭でも環境に対する取組をしないといけないと思った、勉強になることが多く家でできることを何か一つでも始めたい、といったご意見をいただきました。エコ見回りを通じて、より一層家庭への取組へと広がっていくことを期待します。さらに、エコ見回り隊の回数を重ねられた方からは、毎年新たな取組が出てくるので、職員のみなさんが努力されていることがよく分かる、エコに対する思いの強い部署が多かったと思う、など、職員のがんばりを評価していただく感想もいただきました。こうした評価を励みに、エコロジータウン内子の職員として、また今後も継続して環境への取組を行っていただきたいと思います。



※うちエコ対象部署 監査実施象部署一覧

(子ども：子どものエコ見回り隊・大人：大人のエコ見回り隊・政策：政策監査)

No.	部署等名	子ども	大人	政策	No.	部署等名	子ども	大人	政策
1	町長			○	34	立川幼稚園		○	
2	副町長			○	35	五十崎幼稚園		○	
3	教育長			○	36	小田幼稚園			
4	総務課		○		37	内子小学校			○
5	会計課		○		38	大瀬小学校			
6	住民課			○	39	立川小学校			○
7	うちこ福祉館			○	40	石畳小学校			
8	参川福祉館		○		41	五十崎小学校		○	
9	税務課		○		42	天神小学校			○
10	保健福祉課			○	43	小田小学校		○	
11	保健センター			○	44	内子中学校			○
12	建設デザイン課		○		45	大瀬中学校		○	
13	環境政策室			○	46	五十崎中学校			
14	内子総合窓口センター		○		47	小田中学校		○	
15	町並・地域振興課		○		48	内子給食センター			○
16	八日市・護国町並保存センター	○	○		49	小田給食センター		○	
17	ビジターセンター			○	50	図書情報館	○		○
18	産業振興課(農業委員会・農村支援センター含む)		○		51	内子自治センター	○		○
19	学校教育課		○		52	内子東自治センター		○	
20	自治学習課			○	53	大瀬自治センター		○	
21	議会事務局			○	54	五十崎自治センター			
22	小田支所		○		55	小田自治センター			
23	内子保育園	○			56	社会福祉協議会			○
24	五城保育園				57	みどり苑		○	
25	大瀬保育園				58	神南荘			
26	こばと保育園				59	フレッシュパークからり	○		○
27	くるみ保育園				60	小田の郷せせらぎ			
28	石畳へき地保育園				61	事務局			○
29	内子町子育て支援センター		○			うちエコ対象数	16	22	23
30	内子児童館			○	1	丸三産業株式会社五十崎工場			○
31	五十崎児童館きらり				2	有限会社内藤鋼業			○
32	障害者地域活動支援センターかいと					子どものエコ見回り隊での監査部署	8		
33	内子幼稚園			○		うちエコ対象外数	8	0	2
						合計	24	22	25

㊦うちエコ数値目標監査結果（監査実施日：令和2年6月25日）

うちエコの視点 ・エコアクション（A：環境活動）①ホップ ④ステップ ⑦ジャンプ
 ・エコマネジメント（M：環境経営）②ホップ ⑤ステップ ⑧ジャンプ
 ・エコガバナンス（G：環境自治）③ホップ ⑥ステップ ⑨ジャンプ

		目 標	達成 状況	評価
ホップ ステージ	A103	電気使用量を、H26年度と比較して1%以上削減します。	×	△
	A104	ガソリン使用量を、H26年度と比較して1%以上削減します。	○	
	A105	軽油使用量を、H26年度と比較して1%以上削減します。	○	
	A106	温室効果ガスの排出量を、H26年度と比較して1%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、100%にします。	○	
	A108	紙ごみの分別率を100%にします。(リサイクル可能な紙ごみを可燃ごみに入れないようにします)	○	○
	M109	環境にかかる集合研修を年1回、部署別研修を年2回以上、開催します。	○	
	M114	ホップステージの取組項目や目標について、監査を年1回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報およびHPで年40回以上提供します。	○	○
ステップ ステージ	A204	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を70%とします。	×	△
	A205	内子町環境基本計画にかかる独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を90%とします。	○	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年2回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの目的・目標について、監査を年1回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年20回以上持ちます。	○	○
ジャンプ ステージ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を2つ以上設け、公表します。	○	○
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年1回開催します。	○	
	A307	えひめAI-1の利用促進を図るため、環境団体の主催で農業分野における実践活動を他団体と連携して1つ行います。	○	
	A308	環境団体の主催で、環境に関する実践活動を、他団体と連携して15回以上開催します。	○	
	M303	事業者や団体等の情報交換の場を、年1回設けます。	○	○
	M304	ジャンプステージの取組項目や目標について、監査を年1回実施します。	○	
	G302	町民・事業者や団体、自治会等の環境への取り組みについて、年1回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し、年1回公表します。	○	○
	G303	住民、団体等による主体的な活動を5種類以上サポートします。	○	

達成状況：○＝達成、×＝未達成

評価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

[所見]

9つの評価項目について、「○」（良好）＝7つ、「△」（改善要望）＝2つ、「×」（勧告）＝0という結果になりました。

「△」評価のうち、まずホップステージのエコアクションについての項目は、エネルギー消費にかかる6つの数値目標に対し、電気使用量のみ目標を達成することができませんでした。ただし電気使用量については、近年の施設・設備の増加に伴って基準年を上回ることは想定済みであり、削減のためには更なる省エネ設備などの導入が必要と認識しています。その中であって、本年度は暖冬や新型コロナウイルスの影響もあり0.5%の減と、基準年を下回る結果となりました。他のガソリンや軽油の使用量についても大幅な削減となっており、結果として、この4年間で初めて二酸化炭素排出量の削減目標を達成しました。また2年連続で未達成であった紙ごみの分別についても、100%の目標を達成しています。以上のように、近年にない良好な結果ではありますが、未達成の目標が1つあるため「△」の評価としました。

2つめの「△」評価は、ステップステージのエコアクションについての項目です。環境基本計画にかかる目標の達成度が41.2%と、これまでで最も低い結果となりました。しかしながらイベント・会議等の開催や参加人数、観光に関する目標については新型コロナウイルスの影響によるところが大きく、今回の特殊な事情を考慮して「△」の評価としました。ただし今回の事情がなかったとしても年々、達成度が低下している状況であり、エコロジータウン内子の根幹となる計画の実行について、目標の設定も含め、いま一度それぞれの部署で見つめ直す必要があると考えます。

その他の目標については、昨年度に引き続き「○」の評価となりました。

なお、このうちステップステージのエコアクションにおける部署別独自目標については、部署によって達成度の判断にバラつきがあることから、事務局において内容を確認し、2項目の達成度を修正した上で、総合的な達成率を算定し、評価しました。

全体を通して、本年度の取り組みには新型コロナウイルスが多分に影響を及ぼしました。そして、その状況は今もなお続いており、なかなか先を見通すことができません。このような非常事態の中で、ともすれば環境への意識が置き去りにされてしまうのではないかと危惧しています。令和2年度においては、これまでに経験したことのない状況の中でさまざまな事業を進めていかなければなりません。目標を立てた以上は、それらを実施し、達成を目指して取り組みを進めていく必要があります。みなで、エコロジータウン内子の実現に向けたまちづくりが進むことを期待します。

(3) 優良部署表彰及び認定事業所

内子町環境マネジメントに取り組む部署において、優秀な取り組みを実施している部署を表彰しています。その取組をたたえとともに、他の部署に水平展開できるよう、周知をはかる目的も有しています。

優良部署表彰にあたっては、うちエコ政策監査結果を基に選考し、監査チームより推薦を受け、表彰をしていました。加えて、内子町環境マネジメント“うちエコ”に取り組む事業所等において、継続した優良な取組を実施している事業所等について、その取組をたたえとともに、町の内外に広く周知していくことで、民間での環境配慮の取組促進とエコロジータウン内子のレベルアップ、魅力度アップにつなげようと、“うちエコ”に取り組んでいると認定し、認定証を発行することとしました。

①うちエコ政策監査優良部署 監査期間：令和元年 11 月 25 日から 27 日（一部 19 日・21 日）

部署名	推 薦 理 由
自治・学習課	新聞記事や気になる問題について資料を作成し、職員へ周知していました。ウォームビズのインフォメーション掲載の折には、具体的な取組について独自に調べ、回覧していました。環境を自分事として捉え自ら学習し、それを周知・共有するという熱心な取組姿勢が見られ、すばらしいと感じました。
内子幼稚園	園全体のテーマ「園外へGo!」と連動し、草花調べを行い、さらにそこから草花図鑑づくりに発展させていました。さらには、草花の豆知識なども加え、子ども達への意識啓発へとつなげていました。 また目標に対し、達成および達成見込みであることはもちろん、一つひとつの活動に意味を持たせ、子ども達に定着するよう配慮されていました。園児がトイレの水漏れをチェックするなど、園児が主体となった活動ができていました。 子育てサポート、食生活改善グループ、うちみづネット、中央自治会など、外部の方と連携して環境教育を行っていました。業者にも、段ボールやカタログの持ち帰りをお願いしており、長年取り組んでいることもあって、業者自らが持ち帰ってくれているとのことでした。内子幼稚園の基本姿勢がしっかりと外部の方々に伝わっており、すばらしいと感じました。 先生方が子育てサポーターや先輩、地域の方などに学び、それを子どもへと還元されていました。さらに、こうした活動を通じて地域との交流も生まれていました。今後についても積極的に学ぶ姿勢が見え、かつ子ども達へかえしていくことをしっかりと考えられていました。
内子小学校	学習発表会での児童からの発信、学校だよりでの学校からの発信、そして、これからも発表会等を続けていきたいと、とても意欲的でした。これからの児童数、PTA役員数の減少についての課題もしっかりと見据え、毎年続けるための工夫を模索中とのことでした。課題意識を持ち、工夫、改善に積極的に取り組まれている点がすばらしいと感じました。 うちみづネットとの連携が強く、町民が講師となったり、専門家を招いた学習をしたり、また郊外体験を幅広く取り入れたり、全学年を通して環境教育（ESD）に積極的に取り組んでいました。また子どもたちが調べた成果をアプリで発信しており、エコの視点も加えた内容を町内外問わず発信していくことで、ますます内子小学校の取組が広まり、“エコスクール”として認知されていくことを期待しています。

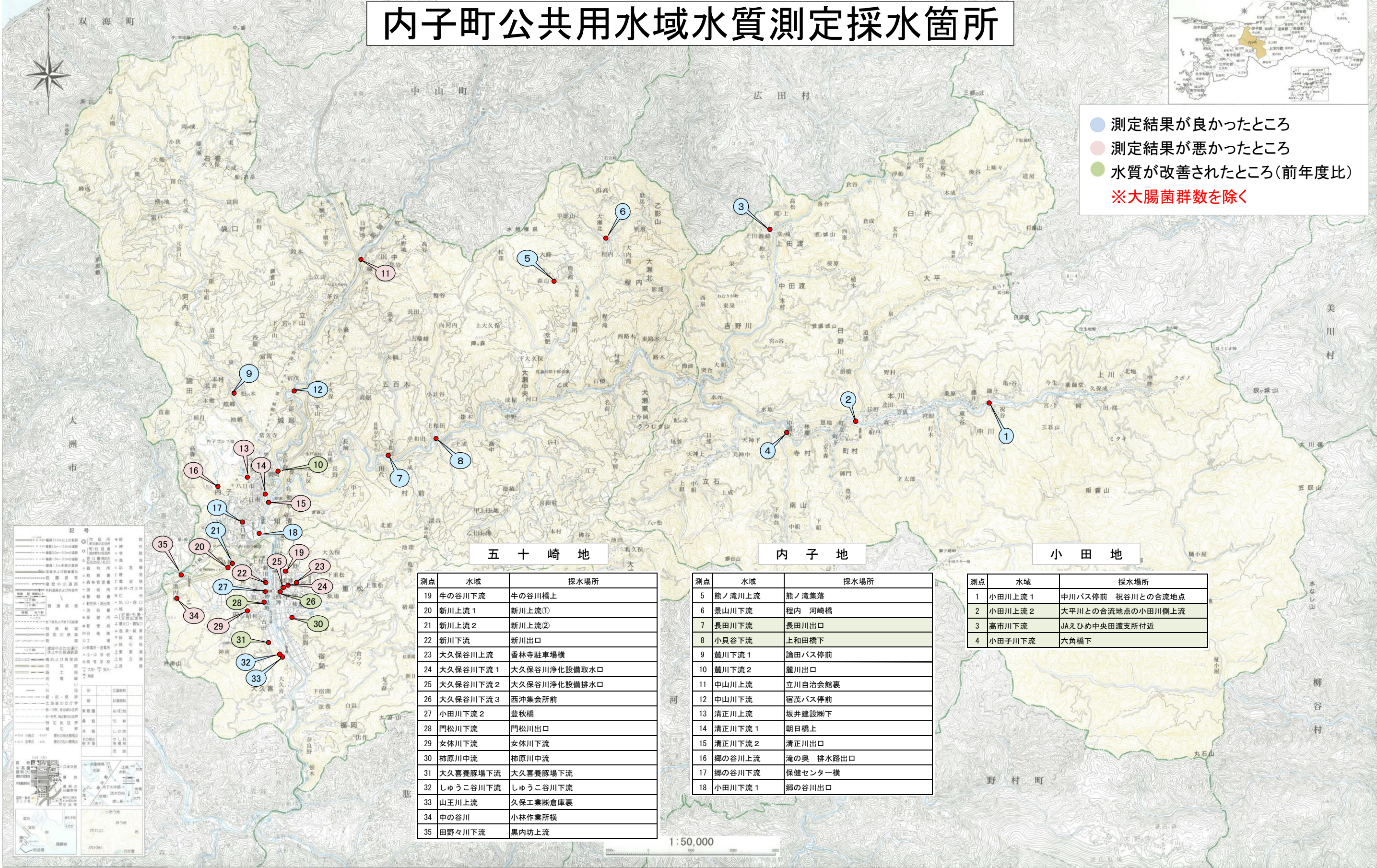
立川小学校	落ち葉収集・堆肥への活用、稚鮎の放流、水辺の集い（水生生物調査）、立川塾（竹・温暖化の学習）との連携、緑の少年団での活動、総務省「四国コンテンツ映像フェスタ」への応募、清掃活動（「小さな親切」表彰）など、独自目標の達成に向けて、多種多様な取組が実施されていました。目標も十分に達成できていました。 いろいろな活動を実施する上で、自治会、東自治センター、専門家、漁協、森林組合（シイタケの原木栽培）など、諸機関、町民との連携が幅広く取られていました。
図書情報館	SDG s の取組にも積極的で、子ども向け、大人向けの本の購入だけでなく、“図書館にもできる SDG s ”という観点から、SDG s の視点を取り入れた学習会を計画、実施していました。また去年から始まっている“図書通帳”も、さらに利用者を拡大するため、1周年記念のイベント（無料で作成）をするなど、創意工夫・改善の視点がすばらしいと感じました。 エコの日の読書会、エココーナー、小学校への本の貸し出しなど、従来の取組に加えて、農村漁村文化協会から、農業に関する裏技事典やDVDを購入し、貸し出しするとともに、農業に関心のある方々や農家との勉強会を企画されていました。大人向けのブックトークやサロンでの活動も展開されていました。また、小学校でのブックトークでは、11回の内、5回が環境をテーマにしたもので開催されていました。
内子フレッシュパークからり	独自目標について、100%達成の見込みとのことでした。とりわけ暮らしの分野においては、町内の店舗に先駆け、レジ袋の有料化を実施し、プラごみ問題についての掲示を行ったり、エコ好きと協力してマイバッグ持参推進のためのキャンペーンを実施したりと、お客様への啓発にも取り組んでおり、からり独自のマイバッグを作成・販売するなど、エコロジータウンの事業所として誇らしい取組がなされていました。

②エコ・コミュニケーション認定対象事業所 実施日：令和元年 11 月 26 日

名称	推 薦 理 由
丸三産業株式会社 五十崎工場	取組開始（R1.11 現在の期間）：平成 30 年 8 月（1 年 3 か月） 目標のレベルの高さにまず驚くとともに、全てを完璧にクリアしていました。地域の清掃活動の前に自主清掃され、それを地域へ報告されるなど、地域とのコミュニケーションを重視されていました。 工場から出る排水管理をすることはもちろん、排水汚泥のリサイクルも自社で取り組まれており、工場から出る廃棄物とともに RPF 化し、重油などのエネルギー使用量の削減につなげていました。さらに EGSB（Expanded Granular Sludge Bed）による排水処理設備を導入し、汚泥処理とともに発生するメタンガスの利用にも取り組まれていました。 ゼロエミッションとともにエネルギー循環の仕組みを構築されており、町内にこのような取組をする事業所があり、本当にすばらしいと感動しました。 認定証授与式の様子

環境データ (1) 河川に関すること

内子町公共用水域水質測定採水箇所



公共用水域水質測定分析結果一覧表 平成31年度(令和元年度)

地 区		小 田 地 区(4箇所)				内 子 地 区 (14箇所)													
測 点		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18
水 域		小田川 上流1	小田川 上流2	高市川 下流	小田子川 下流	熊ノ滝川 上流	景山川 下流	長田川 下流	小貝谷川 下流	麓川 下流1	麓川 下流2	中山川 上流	中山川 下流	清正川 上流	清正川 下流1	清正川 下流2	郷の谷 川上流	郷の谷 川下流	小田川 下流1
採 水 場 所		中川バス停前 祝谷川との合 流地点	大平川合流 地点の小田 川側上流 (新規)	JAえひめ中 央田渡支所 付近(新規)	六角橋下 (新規)	熊ノ滝 集落	程内 河崎橋	長田川出口 (新規)	上和田橋下 (新規)	論田 バス停前	麓川 出口	立川 自治会館裏	宿茂 バス停前	坂井建設 ㈱下	朝日橋上	清正川 出口	滝の奥 排水路 出口	保健 センター横	郷の谷川 出口
採 水 月 日		9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日
採 水 時 刻		15:10	15:00	16:20	13:40	12:10	11:45	13:10	10:45	9:20	9:00	14:25	14:00	13:35	13:20	13:00	11:35	11:10	10:50
測定項目	基準値																		
天候		曇り	曇り	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		28	32	28	30	26	28	30	32	33	30	36	36	34	36	33	35	36	36
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		21	21	20	20	20	22	21	21	22	23	30	29	30	32	33	27	30	29
流量(m ³ /min)		150	220	84	55	7.8	17	11	15	47	83	35	58	0.1	0.2	0.3	0.5	1.8	170
PH	6.5～8.5	7.9	7.9	7.7	8.0	7.3	7.4	7.7	7.4	8.0	8.1	8.6	8.5	7.9	10.1	10.5	8.1	8.0	8.2
(水温)		(20℃)	(21℃)	(21℃)	(22℃)	(21℃)	(21℃)	(21℃)	(22℃)	(22℃)	(22℃)	(24℃)	(24℃)	(24℃)	(24℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)
DO(mg/L)	7.5以上	8.8	8.7	8.9	8.9	8.7	8.9	8.8	8.5	9.1	9.5	8.8	8.9	5.4	11.3	8.9	7.5	8.5	8.6
BOD(mg/L)	2.0以下	1.0	0.8	1.1	1.2	0.6	0.5	0.9	0.7	0.8	0.9	0.9	0.8	1.6	1.5	2.8	1.5	0.9	<0.5
COD(mg/L)	3.0以下	2.0	2.0	1.8	2.6	2.1	1.8	2.7	1.6	1.1	1.3	1.5	1.4	6.8	7.3	9.3	5.3	2.5	1.5
SS(mg/L)	25以下	5	6	3	4	5	4	12	4	1	1	2	2	13	5	7	3	2	2
大腸菌群数 (MPN/100mL)	1,000以下	4,900	4,600	490	3,300	46	49	54,000	4,600	3,300	4,900	490	700	17,000	700	130	2,800	17,000	1,700
n-ヘキサン抽出 物質(mg/L)	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない
全窒素(mg/L)		0.38	0.45	0.61	0.51	0.50	1.1	0.57	0.60	0.66	0.72	0.81	0.76	0.79	0.66	0.90	0.64	0.50	0.39
全リン(mg/L)		0.023	0.029	0.025	0.076	0.011	0.020	0.036	0.037	0.012	0.013	0.030	0.024	0.09	0.26	0.26	0.10	0.056	0.013
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
シアン(mg/L)	未検出で あること	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
溶解性鉄(mg/L)						0.04	0.03												
銅(mg/L)						0.1	0.1												
【参考】 類型 ※		AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	×	×	×	B	×	×	A	AA	AA	

- …新規採水場所
- …31年度検査で基準値オーバーとなったもの
- …30年度と31年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
- …30年度検査で基準値オーバーであったが、31年度検査で改善されたもの

※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況・流量・水温・水の流れる状況(水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることも)や田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

公共用水域水質測定分析結果一覧表 平成31年度(令和元年度)

地 区		五 十 崎 地 区 （ 17箇所 ）																
測 点		No.19	No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33	No.34	No.35
水 域		牛の谷川下流	新川上流1	新川上流2	新川下流	大久保谷川上流	大久保谷川下流1	大久保谷川下流2	大久保谷川下流3	小田川下流2	門松川下流	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	山王川上流	中の谷川	田野々川下流
採 水 場 所		牛の谷川橋上	新川上流①	新川上流②	新川出口	香林寺駐車場横	大久保谷川浄化設備取水口	大久保谷川浄化設備排水口	西冲集会所前	豊秋橋	門松川出口	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	久保工業(株)倉庫裏	小林作業所横	黒内坊上流
採 水 月 日		7月30日	8月13日	8月13日	8月13日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	8月13日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日
採 水 時 刻		9:00	9:45	10:10	9:15	10:10	9:30	9:50	9:10	9:00	14:20	11:35	11:15	14:00	13:20	13:45	14:55	15:15
測定項目	基準値																	
天候		晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		34	32	32	36	34	34	34	34	30	36	37	38	31	30	32	36	38
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		29	26	24	28	29	27	27	26	29	30	27	31	22	20	22	29	31
流量(m ³ /min)		0.9	0.4	0.5	0.1	0.3	0.1	2.2	2.6	180	11	0.6	1.0	0.3	0.5	0.5	3.5	0.6
PH	6.5～8.5	8.7	8.0	8.0	7.7	8.0	7.4	7.6	7.9	7.8	8.2	8.2	8.5	7.8	8.0	7.8	8.3	8.9
(水温)		(25℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(23℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(26℃)	(26℃)	(25℃)	(26℃)	(26℃)
DO(mg/L)	7.5以上	11.3	7.6	7.7	4.4	6.0	5.9	6.2	7.8	8.0	8.2	7.9	10.1	7.8	8.9	8.6	6.0	8.8
BOD(mg/L)	2.0以下	1.1	1.2	0.8	1.8	4.2	7.4	3.9	0.9	1.0	1.0	1.4	1.0	<0.5	<0.5	<0.5	2.1	1.0
COD(mg/L)	3.0以下	2.8	3.1	2.8	5.3	3.5	4.7	6.7	1.7	1.6	2.0	3.1	2.4	2.2	0.5	0.8	11	2.8
SS(mg/L)	25以下	1	4	5	14	7	2	10	2	2	5	3	2	7	<1	<1	5	2
大腸菌群数(MPN/100mL)	1000以下	7,900	17,000	28,000	49,000	4,900	540,000	79,000	17,000	3,300	35,000	54,000	7,900	4,900	1,400	330	35,000	13,000
n-ヘキサン抽出物質(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
全窒素(mg/L)		0.45	0.73	0.58	0.8	3.1	5.3	5.1	0.6	0.42	0.58	3.3	0.41	0.95	0.25	0.45	8.5	0.43
全リン(mg/L)		0.11	0.13	0.12	0.49	0.50	0.85	0.79	0.036	0.023	0.054	0.096	0.058	0.049	0.005	0.013	2.4	0.050
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0006	0.0011	0.0003未満
シアン(mg/L)	未検出であること	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
溶解性鉄(mg/L)															0.02未満	0.02		
銅(mg/L)															0.1未満	0.1未満		
【参考】 類型 ※		×	B	D	B	AA	C	×	B	×	×	×	AA	AA	AA	AA	B	A

- …

新規採水場所
- …

31年度検査で基準値オーバーとなったもの
- …

30年度と31年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
- …

30年度検査で基準値オーバーであったが、31年度検査で改善されたもの

※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況・流量・水温・水の流れる状況(水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることも)や田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

環境データ (2) ごみに関すること

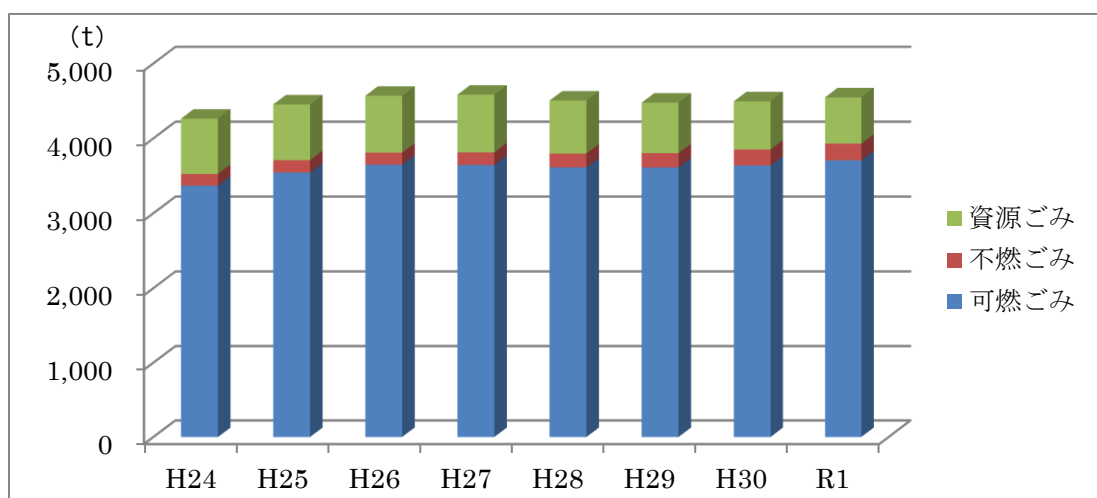
1. ごみ排出量 (内子町環境政策室調べ)

①ごみ排出量

* 事業系ごみを含む

(単位 : t)

収集区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
可燃ごみ	3,368	3,543	3,647	3,645	3,612	3,611	3,637	3,706
不燃ごみ	157	166	162	168	185	191	213	223
資源ごみ	738	743	760	770	707	674	644	618
合計	4,263	4,452	4,568	4,583	4,504	4,476	4,494	4,547

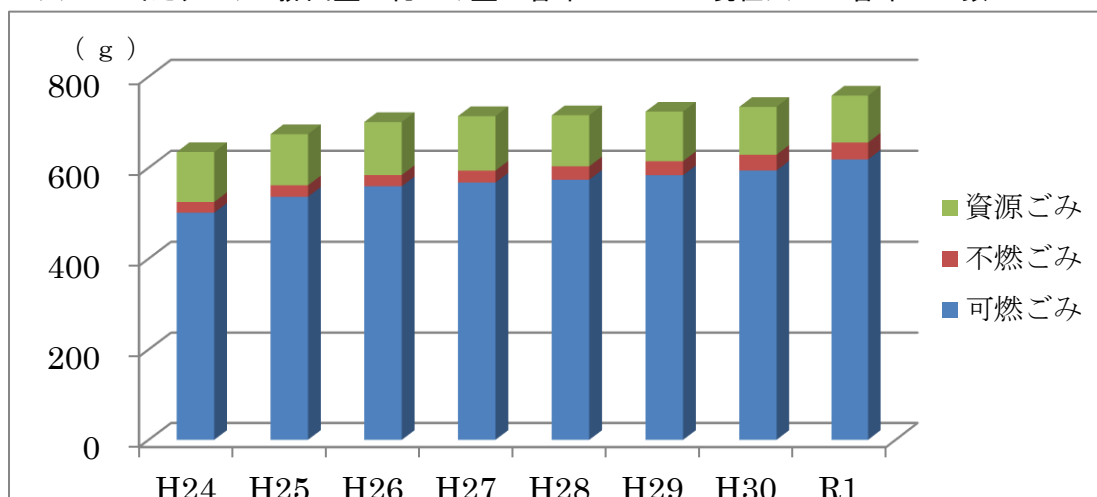


②ごみ・資源物排出量 (一人一日当たりのごみ・資源物排出量)

(単位 : g)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
人口	18,408	18,103	17,867	17,599	17,249	16,954	16,779	16,424
可燃ごみ	501	536	559	567	574	584	594	618
不燃ごみ	23	25	25	26	29	31	35	37
資源ごみ	110	112	116	120	112	109	105	103
合計	635	674	700	713	715	723	734	758

一人一日当たりごみの排出量 = 総ごみ量 ÷ 各年の 10/1 日現在人口 ÷ 各年の日数



2. ごみ資源化（内子町環境政策室調べ）

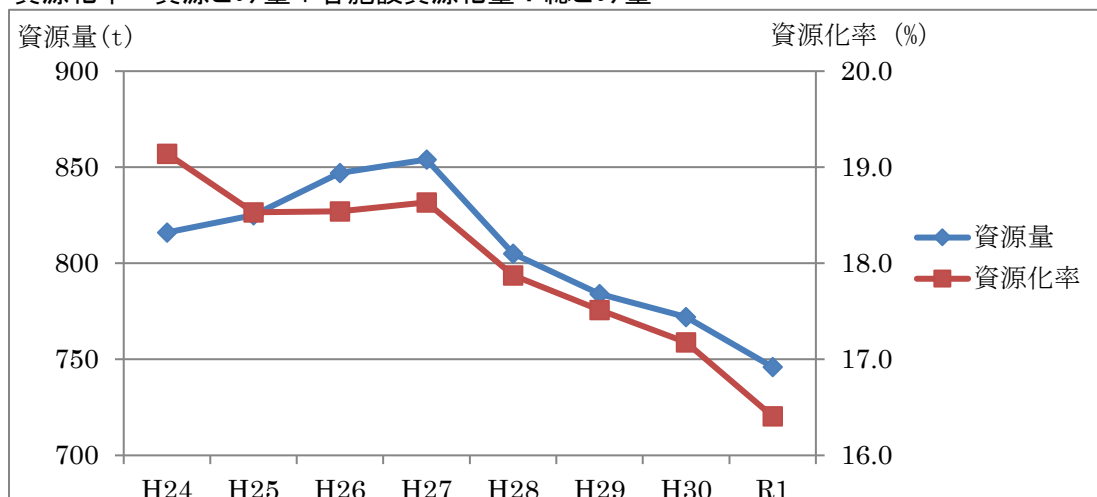
①ごみ資源化率

* 事業系ごみを含む

（単位：年度・t）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
資源量	816	825	847	854	805	784	772	746
資源化率	19.1	18.5	18.5	18.6	17.9	17.5	17.2	16.4

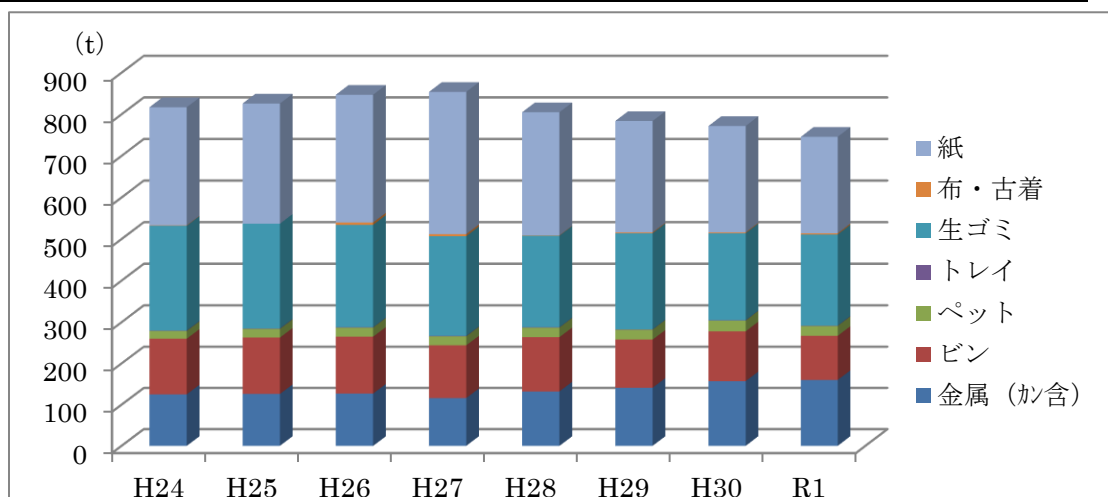
資源化率＝資源ごみ量＋各施設資源化量÷総ごみ量



②ごみ資源化量内訳

（単位：年度・t）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
金属(加含)	125	126	127	116	132	141	158	160
ビン	135	137	138	128	132	117	121	107
ペット	19	21	22	22	23	24	26	24
トレイ	1	1	1	1	1	1	1	1
生ゴミ	252	252	246	240	220	231	209	219
布・古着	1	0	6	5	1	1	2	3
紙	284	289	307	342	296	268	255	232
合計	817	826	847	854	805	784	772	746



3. ごみ処理量（内子町環境政策室調べ）

①焼却処理量

* 事業系ごみ含む

（単位：年度・t）

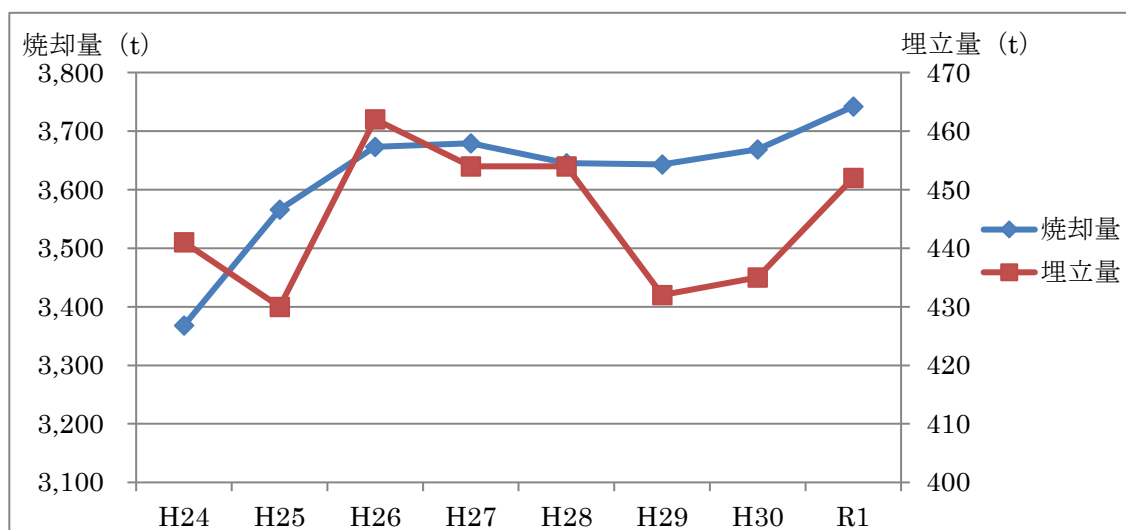
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
焼却量	3,368	3,566	3,673	3,676	3,645	3,643	3,669	3,742

②埋立処理量

* 事業系ごみ含む

（単位：年度・t）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
埋立量	430	462	454	454	441	432	435	452



環境データ（３） 再生可能エネルギーに関すること

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について(令和2年3月末現在)

・移行認定分： 固定価格買取制度が開始されるH24.6月末までに設置した設備のうち、固定価格買取制度に移行したもの。

・新規認定分：固定価格買取制度が始まったH24.7月以降に設置されたもの。

[illegible]

環境データ（３） 再生可能エネルギーに関すること

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について（令和2年3月末現在）

	バイオマス発電設備（バイオマス比率よりバイオマス以外による発電分を除く）					
	メタン発酵ガス	未利用木質		一般木質・ 農作物残さ	建設廃材	一般廃棄物・ 木質以外
		2,000kW 未満	2,000kW 以上			
内子町	0	1,115kW（1件）	0	0	0	0
松山市	710kW（2件）	0	0	12,500kW（1件）	0	4,166kW（1件）
今治市	0	0	0	0	0	2,054kW（1件）
宇和島市	0	0	0	0	0	1,261kW（1件）
八幡浜市	0	0	0	0	0	0
新居浜市	500kW（1件）	0	0	0	0	0
西条市	0	0	0	0	0	0
大洲市	94kW（1件）	0	0	0	0	0
伊予市	0	0	0	0	0	0
四国中央市	0	0	0	0	0	0
西予市	0	0	0	0	0	0
東温市	0	0	0	0	0	0
上島町	0	0	0	0	0	0
久万高原町	0	0	0	0	0	0
松前町	0	0	0	0	0	0
砥部町	0	0	0	0	0	0
伊方町	0	0	0	0	0	0
松野町	0	0	0	0	0	0
鬼北町	0	0	0	0	0	0
愛南町	0	0	0	0	0	0

内子町環境報告書 2019

編集・発行 内子町環境政策室
発行年月 令和2年3月